

平成17年度（第49回）
岩手県教育研究発表会発表資料

高等学校の学習指導の改善に関する研究

- 指導に生かす評価の工夫をとおして -

研究協力校

岩手県立花北青雲高等学校
岩手県立花巻南高等学校

研究協力員

岩手県立水沢高等学校	教諭	石川克紀
岩手県立宮古高等学校	教諭	柿崎朗
岩手県立盛岡北高等学校	教諭	高橋良一
岩手県立黒沢尻北高等学校	教諭	上柿剛

平成18年1月12～13日
岩手県立総合教育センター
教科領域教育室
夏井敬雄 佐藤政則
蛇口等 遠藤毅

《 目 次 》

研究目的	1
研究の方向性	1
研究の計画	1
本年度の研究の内容と方法	1
1 研究の内容と方法	1
2 研究協力校	2
研究結果の分析と考察	2
1 指導に生かす評価に関する実態調査	2
2 高等学校の学習指導に関する推進構想	3
3 指導に生かす評価に関する推進試案	3
4 評価の工夫による指導改善の方向性	5
5 国語科における評価の工夫による指導改善の計画と授業実践及びその分析と考察	5
6 数学科における評価の工夫による指導改善の計画と授業実践及びその分析と考察	9
7 地歴・公民科における評価の工夫による指導改善の計画と授業実践及びその分析と考察	12
8 外国語科における評価の工夫による指導改善の計画と授業実践及びその分析と考察	17
9 指導に生かす評価方法の工夫を図った指導と評価に関する研究のまとめ	20
高等学校の学習指導改善の研究のまとめ	20
1 研究の成果	20
2 今後の課題	20

おわりに

【参考文献】

【参考 Web ページ】

【補充資料】

研究目的

教育課程審議会「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」(平成12年)では、高等学校においては目標に準拠した評価を一層進めることを求めている。また、「高等学校生徒指導要録の改善等について(通知)」(平成13年)は、各教科・科目の評定については、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の四つの観点を踏まえて評価を行うことの重要性を示している。このことを踏まえて、生徒の学習の過程や成果を適切にとらえ、意欲を高めて学ぶ喜びを得ることができるよう、指導の改善を行う必要があると考える。そしてこのことは、変化が激しい現代社会で欠かすことのできない「生きる力」の育成に結び付いていくものである。

高等学校においてはこれまでも絶対評価が行われてきたものの、教科・科目において育成しなければならない資質や能力のとらえ方が曖昧であるなど、いわゆる目標に準拠した評価が適切に行われていない実態がある。また、評価結果が十分に指導改善に結び付いているとは言い難い。

このような状況を改善するためには、高等学校において育成すべき資質や能力を明らかにし、それが身に付いているかどうかを適切にとらえる評価を工夫し、その評価結果を指導に生かすことが必要である。

そこで、この研究は指導に生かす評価を工夫し、学習指導の過程における評価を意図的に進めることにより、高等学校の学習指導の在り方を明らかにし、指導の改善に役立てようとするものである。

研究の方向性

高等学校の学習指導において「生きる力」の育成、つまりは生徒の学力向上を図るために、指導に生かす評価を工夫し、学習指導の過程における評価を意図的に進めるための具体的な指導方法を提案することとする。

研究の計画

この研究は、平成15年から平成17年にわたる3年次研究である。

第1年次(平成15年度)

外国語科における基本的な考え方の検討、基本構想の立案、実態調査の実施、学習指導の試案の作成

第2年次(平成16年度)

外国語科 - 学習指導の試案に基づく指導と評価の計画の作成、授業実践、授業実践の分析と考察、研究のまとめ

国語、地歴・公民、数学科 - 基本的な考え方の検討、実態調査、推進構想の立案、推進試案の作成、各教科の指導と評価の計画の作成

第3年次(平成17年度)

指導と評価の計画に基づく授業実践、授業実践の分析と考察、研究のまとめ

本年度の研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

(1) 指導と評価の計画に基づいた授業実践計画の作成(文献法)

單元ごとに1単位時間の評価規準を盛り込んだ「年間指導計画」を基に、各教科の特性に留意した評価シートを作成し、指導と評価の計画に基づいた授業実践の計画を作成する。

(2) 授業実践及び実践結果の分析と考察(授業実践・質問紙法)

指導と評価を位置付けた授業実践を行い、その結果について、授業担当者への意識調査等を基に、分析・考察を行う。

(3) 指導に生かす評価方法の工夫を図った指導と評価に関する研究のまとめ

授業実践結果の分析と考察を基に、その成果と課題をまとめ、高等学校における、指導に生

かす評価方法の工夫を図った指導と評価の計画の妥当性について明らかにする。

2 研究協力校

岩手県立花北青雲高等学校 岩手県立花巻南高等学校

研究結果の分析と考察

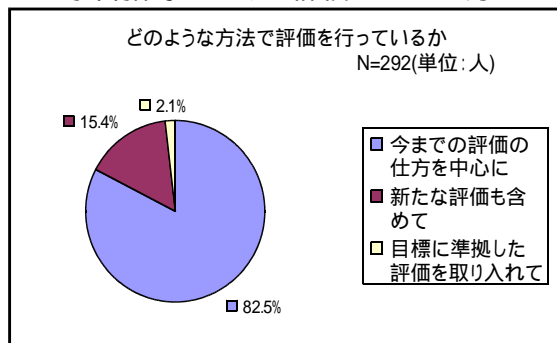
1 指導に生かす評価に関する実態調査

(1) 実態調査の概要

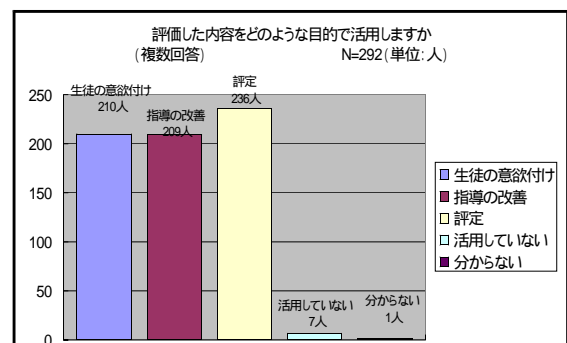
この調査は、評価に関する意識や取り組みの実態を把握し、評価の工夫による指導改善をする上での課題を明らかにすることを目的に実施したものである。調査期間は平成16年7月6日～8月27日、調査対象者は基本研修講座のために来所した高等学校教員292名である。

(2) 実態調査の結果

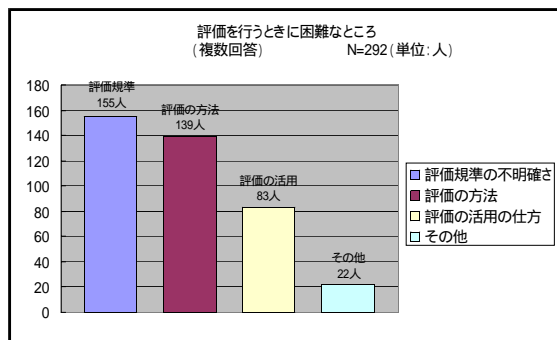
ア 学習指導における評価のとらえ方



【図1】 評価方法



【図2】 評価の生かし方



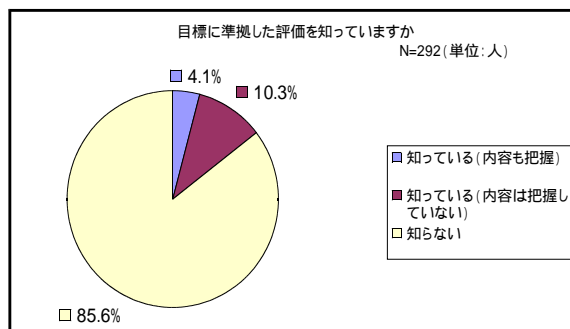
【図3】 評価の難しさ

【図1】～【図3】は、学習指導における評価のとらえ方に関する調査の結果である。

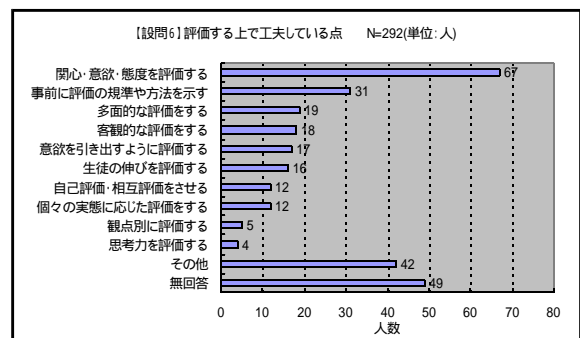
【図1】の「今までの評価」とは、定期考査、小テスト、提出物等によって生徒が獲得した得点を評価する方法であり、「新たな評価」とは、生徒の関心・意欲・態度等の観点を意識した方法である。回答結果から、今までの評価方法を継続している割合が大きいことがわかる。【図2】

を見ると、提示した三項目とも7割前後の回答があることから、評価を意識した指導が行われていることがわかる。【図3】を見ると、半数以上が「評価規準の不明確さ」を困難点として回答しており、「評価の方法」についても半数近くが難しいと感じていることがわかる。

イ 目標に準拠した評価と評価の工夫



【図4】 「目標に準拠した評価」の認知度



【図5】 評価の工夫

前頁【図4】は、「目標に準拠した評価」という用語を知っているかどうかについての回答結果である。知っている回答した教員による具体的な記述をみると、その内容までは把握していない割合が10.3%であった。従って、全回答者の95.9%（280人）が目標に準拠した評価を把握していないことが分かる。また、評価する上で工夫している点について記述したものを分類したものが前頁【図5】である。無回答も多かったが、記述があった回答者に関しては、「その他」も含め、いろいろな角度から生徒を評価しようと工夫していることが分かる。

2 高等学校の学習指導に関する推進構想

(1) 評価に関する教員の実態及び生徒の現状

高等学校の授業では、単元の、あるいは1単位時間の明確な学習目標が教師から生徒に示されないまま学習指導が行われている実態が多く見られる。また、評価を指導改善に生かすという視点に欠け、生徒が授業でどのような能力を身に付けたのかという成果が学習指導の目標に即して確認されていない傾向がある。そのため、生徒は学習の目標があいまいなままに授業を受け、自己の能力がどのように授業をとおして培われているかが把握できていない場合が多い。

(2) 目標に準拠した評価の導入と実施

生徒一人一人の進歩の状況や目標の実現状況を的確に把握し、基礎・基本の確実な習得を図るためには、これまでどおりの評価では不十分である。そこで、授業内容を詳細に見直し、生徒がどれだけ指導内容を理解しているかを学習指導要領解説に示してある四観点に即して見ていくために、目標に準拠した評価を行うことが必要である。

そのためには、学習の目標を明確にし、年間指導計画に配置していかななくてはならない。学習指導要領に基づいて国立教育政策研究所が示した評価規準を土台としながら、最終的に単元及び1単位時間ごとの指導目標及び評価規準を各学校で作成しなくてはならない。

その際に、作成した評価規準が授業で実際に活用できるように、目標に準拠した評価を充実させていくことが肝要である。そのための案として、次に述べる三段階のステップを踏んで、着実に目標に準拠した評価の導入の仕方を提示する。

3 指導に生かす評価に関する推進試案

(1) 年間指導計画（学校全体での推進）

「年間指導計画」は、指導する教科ごとにまとめたものである。教科としての目標及び評価規準を記載し、教科としてどのような立場で指導するのか生徒や外部（保護者、地域等）に示す。

(2) 年間指導計画（各教科での推進）

(1)の「年間指導計画」をうけて、各教科の中の科目ごとに指導計画を記していく。科目の目標及び評価規準を示し、指導する内容のまとめ（単元）での目標及びおおまかな内容と評価規準を記述し、各教科の指導内容等を知らせる役割をもつ。

(3) 年間指導計画（各科目での推進）

(1)(2)をうけて、各科目の内容のまとめ（単元）ごとに年間指導計画を作成する。ここでは、内容のまとめごとに指導内容や配当時間、小単元または1単位時間での評価規準を明示して生徒、保護者等外部へ指導内容を公表していくよう作成する。ただし、(3)については、年度当初に一斉に作成することを目標とはせず、実際に指導する期間よりも前に作成を終えるといった柔軟な対応とする。そのことにより、今までの授業準備と並行して修正がしやすいよう配慮する。この計画を一年間進めて、年度末にはすべて指導した内容が揃い説明できるようにする。

以上、(1)～(3)の要領で進めていく推進試案をまとめたものが次頁【図6】である。

1 各教科の指導目標及び評価規準を盛り込んだ年間指導計画

年度岩手県立 高等学校 年間指導計画

教科	目 標			
評価規準				
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
各学年での指導科目と目標				
< 1 学年 >				
科目	単位数	目 標	備 考	
< 2 学年 >				
(中 略)				
< 3 学年 >				

作成のための留意点

- ・教科としての目標、評価規準を明確に示した上で、指導する科目ごとに目標や単位数、指導するクラス等を示す。
- ・学年ごとにまとめて、一つの教科での指導計画を大まかに示したものにします。
- ・各教科でまとめたものを綴り、学校としての年間指導計画と位置付ける。

2 各科目ごとの目標及び評価規準と内容のまとめりごとの評価規準を盛り込んだ年間指導計画

年度岩手県立 高等学校 年間指導計画 (教科)

科 目	目 標			
使用教科書		使用副教材		
評価規準				
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
内容のまとめりごとの内容と評価規準				
内容のまとめり (単元名)				
内容				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
指導予定時間				
内容のまとめり (単元名)				

作成のための留意点

- ・一つの教科の各科目の目標、評価規準及び科目内の内容のまとめりを示していく。
- ・内容のまとめりごとの評価規準を示していく。
- ・科目ごとにまとめたものを教科でまとめて綴り、教科としての年間指導計画として位置付ける。

3 単元ごとに1単位時間の評価規準を盛り込んだ年間指導計画

年度岩手県立 高等学校 年間指導計画 (科目)

指導学年	単位数	内容のまとめり (単元名)			
単元	配当時間	1 単位時間の授業における評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解

作成のための留意点

- ・科目内の単元ごとに評価規準を示していく。
- ・単元ごとに授業時間数と1単位時間ごとの評価規準を観点別に示し、授業の流れが分かるように記載する。
- ・単元ごとにまとめたものを科目でまとめて綴り、科目としての年間指導計画として位置付ける。

【図6】指導に生かす評価を取り入れるための推進試案

4 評価の工夫による指導改善の方向性

生徒個々の実態を的確に把握して、それに基づく適切な指導・助言を行い、生徒自身につまずきを発見させ、課題解決をさせるためには、目標に準拠した評価を推進していく必要がある。

しかし、高等学校においては、目標に準拠した評価の考え方がほとんど浸透していない状況があり、たとえ評価規準を盛り込んだ年間指導計画を作成しても、それだけでは指導改善に結びつかない可能性が大きい。そこで、内容のまとまり（単元）ごとに1単位時間の評価規準を盛り込んだ年間指導計画、つまり、「年間指導計画」を具体的に授業に反映させるための方法として、各教科の特性に留意した評価シートを作成し、活用することとした。この評価シートの作成と活用によって、目標に準拠した評価の考え方が学習指導に導入されることになると考える。評価の考え方に変化が生じれば、授業の進め方、生徒への指導の仕方に変化がもたらされ、特に、「知識・理解」に偏りがちであったこれまでの学習指導が継続的に見直されていくことになるだろう。

この研究は目標に準拠した評価を導入、定着させ、結果として指導改善が行われ、生徒の学力向上が図られることを目的とするものである。現段階では、各学校で個々の教師が確立してきた評価の方法や考え方を尊重しながら、各校が生徒の実態に即して緩やかに新しい評価方法を取り入れていくことが最善の方法だと考える。

そこで、年間指導計画～に基づいた、各教科の特性に応じた評価シートの作成とその活用が指導改善につながることを、各教科の授業実践をとおして明らかにしていく。

5 国語科における評価の工夫による指導改善の計画と授業実践及びその分析と考察

(1) 国語科における評価の工夫による指導改善の計画

ア 改善の視点

岩手県教育委員会事務局が発行した「教科指導法改善実践事例集 第12集・国語」では、指導改善の方向として、第一に学習者が主体的に活動できる授業をするために指導内容の精選・厳選が重要であること、第二にペーパーテストの結果のみの評価を改め、生徒のもつ能力を多方面から見いだして評価することが大切であると指摘している。

しかし、指導内容の精選が、国語科の目標である「国語の能力の育成」の観点からなされているとは言い難い現状が見受けられる。多くの学校において、科目毎の年間指導計画に基づいての教材研究が十分に行われていないからであると考えられる。教材研究は、主に教材の価値を明らかにする視点でなされがちであり、その結果、その単元で生徒のどのような資質や能力を育成するかを前提とした教材研究が行われていない実情が多く見られる。

指導改善のためには、年間指導計画と緊密に連動させた教材研究が行われることが不可欠である。その際、【表1】に示したように、例えば、「読む能力」には、それぞれ、言語による「思考・判断」や「技能・表現」が内包されていることを踏まえ、「読む」という活動だけにとらわれず、「読む」活動を支えている思考力や表現力を育成することが大切である。同様に、「話す・聞く能力」や「書く能力」についても、それぞれの言語活動を支える思考力や表現力の育成を図るように教材研究を行うことが肝要である。

【表1】国語の五観点

1	関心・意欲・態度
2	話す・聞く能力 思考・判断 (「話す」順序や内容を考える) (「聞く」内容の大事な点を考える) 技能・表現(言語の使用・事柄の表現)
3	書く能力 思考・判断 (「書く」順序や内容を考える) 技能・表現 (言語の使用・事柄の表現)
4	読む能力 思考・判断 (「読む」内容を考え、理解する) 技能・表現 (言語の使用・事柄の表現)
5	知識・理解

イ 年間指導計画 の作成

各科目ごとの目標及び評価規準、学習指導要領の内容と内容のまとめりごとの評価規準を一覧にしたものが年間指導計画 である。【図7】は、「C読むこと」における「学習指導要領の内容」と「内容のまとめりごとの評価規準」の一部を抜粋したものである。これは国立教育政策研究所が作成した「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料」を参考にしながら、各学校の実態に合わせて作成していくことが望ましい。

	学習指導要領の内容 (指導事項)	評価規準		
		関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
C 読むこと	ア 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約したりすること。 イ 文章を読んで、構成を確かめたり表現の特色をとらえたりすること。 ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	・様々な文章について、叙述に即して内容を的確に読み取ったり、表現に即して読み味わったりして、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。	・文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。 ・必要に応じて文章の内容を要約している。 ・文章を読んで、構成を確かめている。	・文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かに身につけている。 ・常用漢字の読みを理解している。 ・文語のきまり、訓読のきまりなどについて理解している。

【図7】「年間指導計画」(「C読むこと」)の一部

「学習指導要領の内容(指導事項)」に基づいて、授業で取り扱う教材によって生徒のどのような国語の力を育てるかを具体的に考えながら作成していくのが年間指導計画 である。【図8】は「国語総合」の年間指導計画 の作成例の一部である。「学習指導要領の内容」の欄には【図7】の「学習指導要領の内容ア～ウ」の中から「ウ」を選び、「C - 読むウ」と記入している。「R(読む能力)」の欄の評価規準は、【図7】の「評価規準」に基づいて記入する。同じように、「読む能力」を重点的に育成することを想定しながら、「I(関心・意欲・態度)」と「K(知識・理解)」の欄に【図7】の「評価規準」に基づいて記入する。こうして記入したのが「内容のまとめりごと評価規準」である。それに基づいて、「単元目標」を設定する。その際に、単元で取り扱う教材に即し、生徒の言語活動を想定して設定する。最後に「単元目標の評価規準」を「単元目標」と連動させながら設定する。ここでは「R(読むこと)」の観点を重点化し、読むことにおける「I」と「K」を設定している。

年間指導計画 【国語総合】						
月	単元名	学習指導要領の内容 (指導事項)	単元目標 ()内は観点	教材 ()内は時間数	内容のまとめりごとの評価規準 単元目標の評価規準	評価方法
4 月 中 旬 6 時 間	古文入門	【C読む・ウ】 ・文章に描かれた人物情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	ア人物の心情を想像力を働かせながら読もうとする態度を身に付ける。(I) イ人物の心情をとらえながら古典の文章を読み味わう。(R) ウ古典の表現の特色について理解する。(K)	1 検非違使忠明、いさかひのこと(2)	I 古典の文章を、表現に即して読み味わうことを通して、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。人物の心情や場面を想像力を働かせながら読もうとしている。	観察シート
				2 鳥羽僧正、絵をもつて諷すること(1)	R 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。 文章に描かれた人物の生き方、ものの見方や考え方、人物相互の関係をとらえている。	ノート 発言 テスト
				3 源頼義、馬盗人を射殺したること(3)	K 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かに身につけている。 文語体の表現や文体の特色について理解している。	ノート 発言

(注) I = 関心・意欲・態度、S = 話す・聞く能力、W = 書く能力、R = 読む能力、K = 知識・理解

【図8】「年間指導計画 (国語総合)の作成例」の一部

ウ 学習のねらい確認シートの作成

学習目標の実現状況を生徒に記録させることによって、学習のねらいを生徒に明確に示すとともに、生徒の理解の実態を把握しながら、指導を改善していく方向を目指すこととする。そのためには年間指導計画 ~ に基づいて年間指導計画 を作成し、この年間指導計画 に対応させながら、【図9】のような、単元ごとの学習目標の実現状況を生徒が記録する「学習のねらい確認シート」を作成して授業で活用する。内容は次のとおりである。

- ・単元の目標、取り扱う教材名、学習予定期間等の記述
- ・単元の目標とそれを実現するための学習のねらいの記述
- ・学習の前半、後半における学習のねらいの実現状況を記入する欄
- ・不十分な実現状況の理由を記述する欄
- ・学習に対する関心や意欲を回答する欄

「単元の目標ア～ウ」は年間指導計画 の「単元の目標」を記入する。さらに、この単元の目標を実現するために「単元の目標ア・イ・ウ」それぞれに「学習のねらい1～5」を記入する。これは単元の目標を実現するための具体的な学習の手順となるように、指導要領の「言語事項」や「言語活動例」を十分に踏まえ、授業中の生徒の学習活動を想定して設定する。学習のねらいの実現状況を判断しやすくしようとして、回数等の量的なねらいの設定は避けるようにする。この確認シートにおける判断のレベルは生徒個々に委ね、個々の成長を促したい。どうしてもレベルの提示が必要な場合は教師が状況に応じて行えばよい。このシートでは 学習の目標と学習の手順、 生徒自身による「学習のねらい」の実現状況、 学習上のつまずき、の三点が確認できる。このことによって、生徒個々に対する指導や単元終了前における指導改善が期待できる。

学習のねらい確認シート		No. 1	
年 組 番 氏名		記載日 前半 (/) 後半 (/)	
学習単元 ・ 説話 (国語総合古典編)		学習予定期間 月 日 ~ 月 日	
教材名 (時数) ・『検非違使忠明、いさかひのこと』 (2) ・『烏羽僧正、絵をもって諷すること』 (1) ・『源頼義、馬盗人を射殺したること』 (3)		単元の目標 ア 人物の心情を想像力を働かせながら読む イ 人物の心情をとらえながら文章を読み味わう ウ 古典の表現の特色について理解する	
単元の目標と学習のねらい		前半	後半
ねらい1～5の実現状況を . . . で自己評価すること		を付けた理由を書きなさい	
ア 人物の心情を想像力を働かせながら読む		例：1 - <前半> 「系」の書き方がわからない	
1	文章の構成や展開を踏まえて読むことができる		
2	文末の表現を吟味し、正確な読みができる		
3	古語の意味を理解して読むことができる		

【図9】「単元のねらい確認シート」の一部

(2) 国語科の授業実践

ア 実践の概要

県立花北青雲高等学校の2学年と県立水沢高等学校の2学年とで授業実践を行った。それぞれ、年間指導計画を作成し、それに基づいて「学習のねらい確認シート」(以下、「確認シート」とする)を作成し、授業で活用した。「古文入門」(配当時間6時間)の単元の学習に入る前に確認シートを生徒に配布し、2時間目と最終時間に確認シートに記入させた。1回目の記入後に、(使用したシートではC)の自己評価に対しては、記述内容に基づいて個別の指導に生かすこととした。確認シートはそれぞれの学校の実態に応じて作成したが、学習のねらいと学習の進め方を確認することが目的であるから、確認シートに記載する評価規準の文言にはあまりとらわれなくてよいこととした。

【表2】「学習のねらい確認シート」の集計結果(一部)

学習目標												
1 古文を正しく音読できる												
2 古文独特の語句、言い回しが理解できる												
3 対句的な表現に注目し、その表現効果を理解できる												
4 段落毎の要旨をとらえることができる												
学習目標	1回目		2回目		1回目		2回目		1回目		2回目	
	A	%	A	%	B	%	B	%	C	%	C	%
1	5	12.5	14	36.8	31	77.5	23	60.5	4	10	1	2.6
2	1	2.5	4	10.5	31	77.5	31	81.6	8	20	3	7.9
3	3	7.5	10	26.3	29	72.5	27	71.1	8	20	1	2.6
4	4	10.0	9	23.7	31	77.5	28	73.7	5	12.5	1	2.6
C印を付けた理由												
学習目標	1回目					2回目						
1	練習不足(3)					音読回数が足りない						
2	現代語と勘違いする					休んだところが分からない						
3	どこが対句か分からない(5)					まだ理解しきれていない						
4	内容がつかめない											

イ 実践結果の分析と考察

活用したシートを集計した一部を【表2】に示した。学習目標に対する実現状況を生徒自身がどのようにとらえているかを比較して把握できるように、授業実践者が工夫して作成したものである。

【表3】の授業実践後の授業担当者2名に対するアンケート結果によると、2名とも「確認シート」は学習指導の改善に効果があったと回答し、その理由を【表2】のように生徒のつまづきを単元の指導の過程で把握し、個別の指導に反映するすることができたからであるとしている。

また、「確認シート」を活用したことは、学力向上においても効果があったと回答し、理由は生徒の学習に対する意識を変える効果があったからだとしている。

また、「確認シート」は、継続して活用することでさらに効果が現れることも指摘している。

【表3】授業担当者の意識

授業実践後の授業担当者に対するアンケート結果(2名)		
質問の観点	回答	回答理由
学習指導改善への効果	大いにある	目に見える形で、生徒の目標実現状況を知ることができたことは、有意義な情報だった。学習目標の設定作業自体が、教材研究の方向性を明確にしてくれる効果があった。
	どちらかと言えばある	多くの生徒が「C」評価を付けた苦手分野について授業中に重点的に指導したり、個別に指導することが可能になった。評価シートの1回目の部分は特に役立った。2回目は指導者側の確認に利用したが、このシートを継続的に活用すれば、2回目の評価を次の単元で生かしていくことができる。
学力向上への効果	どちらかと言えばある	ねらいを目に見える形にしたため、意識変革がなされ、意欲的に取り組む契機になった。
	どちらかと言えばある	生徒の意識、不得意分野を確認しながら授業を進めることができるので効果はある。

(3) 国語科における評価の工夫による研究のまとめ

学習指導の改善が、意図的に評価を進めることで実現されることが実証された。今後、年間指導計画に基づいた「学習のねらい確認シート」をさらに作成しやすく、活用しやすいものとし、継続的な活用が可能となるように工夫していきたい。

6 数学科における評価の工夫による指導改善の計画と授業実践及びその分析と考察

(1) 数学科における評価の工夫による指導改善の計画

ア 指導の工夫・改善の視点

高等学校では、一方的な解説や説明が中心の授業が行われていると言われることがある。数学の授業でも基礎的事項の説明の後、例題の解説、問いによる確認、演習問題による練習という繰り返しで授業が進められることが多い。しかし、このような授業で、生徒が数学への興味や関心をもつことは期待しにくい。授業改善の方策として、特に関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方を評価できる観点として常に取り上げ、工夫することが大切である。そのため、授業においてそれらを実践できる数学的な活動場面を用意する必要がある。

また、生徒の学習状況を日々の教育活動の中で把握する方法として、観察による評価は重要である。関心・意欲・態度の評価において、観察による評価の比重は他の観点より大きく、ワークシートやペーパーテスト、レポートなどで評価を行う場合にも、日々の観察が基になって、授業における生徒のつまずきの原因を把握することができる。

イ 年間指導計画 に基づいての授業構想

そこで数学科では、【図10】の年間指導計画に基づき、1単位時間ごとの評価等にかかわる指導計画を立てて実施し、反省して次の授業に生かしていくこととした。(年間指導計画の詳細は補充資料参照)

ウ 指導計画・評価シートについて

指導計画・評価結果をまとめるために、次の(ア)～(オ)の内容を盛り込んだシートを作成した。【図11】は単位時間ごとの指導計画・評価実施結果を表す指導計画・評価シートの一部である。(詳細は補充資料参照)

(ア) 科目、担当学年、クラス等

(イ) 当該時間の指導内容等

(ウ) 評価する観点、1単位時間の授業における評価規準、評価方法

(エ) 評価の結果


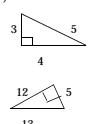
(オ) 本時の反省と次時の指導改善のポイント

(ア)については、複数の科目やクラスを担当する場合も想定されるので記載する欄を設けることとした。

(イ)については、ポイントをおさえて、簡略にできる内容は簡略化して継続的に指導計画・評価計画が考えられるように配慮した。

(ウ)については、(イ)の指導内容を受けてどこに焦点を当てた評価をするのか、重点的

平成17年度 当手県立高古高等学校 年間指導計画 (科目 数学)

指導学年	単位数	内容のまとめ(単元)	使用教科書	
1	4	三角比	数研出版【新編数学】	
小単元	配当時間	1 単位時間の授業における評価規準		
三角比	2	(ア)関心・意欲・態度 (イ)数学的な見方や考え方 (ウ)表現・処理 (エ)知識・理解	(ア)具体的に相似な直角三角形を用いて、そこから辺の長さの比が一定であることを考えることができる。 (イ)  $y = r \times \sin \theta$ $x = r \times \cos \theta$ $y = x \times \tan \theta$ と表せることにより、直角三角形の1辺と1つの角が与えられると他の2辺を求められると考えることができる。 (ウ)具体的な例をとおして、問題の意味をよく理解し、適切に処理することができる。 (エ) 	

【図10】 年間指導計画 (数学)

指導する内容のまとめ(単元)	図形と計量									
本時の指導範囲(47時間中)	3時間目)三角比									
本時の指導目標	文章問題を解くことにより、三角比が普段の身の回りの生活に活用できることを理解させる。									
教科書の範囲	P102 ~ P103									
副教材(問題集)の使用部分										
本時間は使用しない										
特に評価する観点とその評価規準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>観点</th> <th>関心・意欲・態度</th> <th>表現・処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>おおむね満足できる状況</td> <td>(ア)中学で学習した直角三角形の比を思い出し、具体的な問題に意欲的に取り組みようとする。</td> <td>(イ)具体的な例を、図をかく事により適切に処理できる。 「鉄塔の先端の真下から20mはなれた地点から塔の先端を見上げると水平面とのなす角が40°のとき塔の高さを求めよ。」</td> </tr> </tbody> </table>	観点	関心・意欲・態度	表現・処理	おおむね満足できる状況	(ア)中学で学習した直角三角形の比を思い出し、具体的な問題に意欲的に取り組みようとする。	(イ)具体的な例を、図をかく事により適切に処理できる。 「鉄塔の先端の真下から20mはなれた地点から塔の先端を見上げると水平面とのなす角が40°のとき塔の高さを求めよ。」			
観点	関心・意欲・態度	表現・処理								
おおむね満足できる状況	(ア)中学で学習した直角三角形の比を思い出し、具体的な問題に意欲的に取り組みようとする。	(イ)具体的な例を、図をかく事により適切に処理できる。 「鉄塔の先端の真下から20mはなれた地点から塔の先端を見上げると水平面とのなす角が40°のとき塔の高さを求めよ。」								
評価する方法	関心・意欲・態度...観察法(机間指導等で生徒の様子を観察する) 表現・処理...観察法(演習問題をやらせる)									
評価の結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価結果</th> <th>十分満足できる状況(A)</th> <th>努力を要する状況(C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td></td> <td>2,24</td> </tr> </tbody> </table>	評価結果	十分満足できる状況(A)	努力を要する状況(C)	関心・意欲・態度			知識・理解		2,24
評価結果	十分満足できる状況(A)	努力を要する状況(C)								
関心・意欲・態度										
知識・理解		2,24								
Cと判断した生徒の原因、事後指導の計画	・まったく図がかけず、進んでいない。個別指導をしたい。 反省及び次時への指導改善のポイント ・ゆっくり説明したつもりだが、全体的に理解度が低かった。もっとヒントを与えながら、具体的な図をかけるようにさせたい。									

【図11】 指導計画・評価シートの一部

に指導する部分はどこであることを明確にすることをねらいとした。関心・意欲・態度についてはどの時間でも観察等でみていくこととし、他の三観点のうち一つの観点に重点をおいた評価計画を作成した。具体的評価規準については、おおむね満足できる状況(B)を記述して、Bよりも優れているものをAとし、BにいたらないものをCとした。

(E)については、(ウ)の記述にしたがって授業時間中に評価できた生徒を記載していく。AとCの生徒のみ記載し、記載のない生徒はBと判断する。(オ)については、Cと判断した生徒について、原因は何であるのか等の気付いた点を記述し、今後の指導に生かしていくこととした。

(2) 数学科の授業実践

実践にあたり、平成17年3月に提示された、学校教育指導指針の高等学校教育質疑応答集(第37集)P48の第3章1、「各学校における評価規準の設定、評価方法の工夫改善」の(1)「各学校における評価規準の設定」で、各校における指導計画に基づいて、単元(題材)の評価規準、単元(題材)の中での「学習活動における具体的評価規準」、具体的な評価方法を示すとある。

これを基に、単元(題材)ごとに「指導と評価の計画」を作成し、評価を後の指導に生かすことが可能になる。本研究では数学の三角比の単元を中心に年間指導計画を作成し、学習活動における具体的評価規準等に応じて、小テスト、観察、ノート提出指導などを工夫する。また、継続的に学習状況を的確に評価するために、「指導計画・評価シート」を作成し、評価が学期末テストなどに偏ることのないよう、評価の時期を工夫し、学習の過程における評価を一層重視する。実践は、県立宮古高等学校1学年六学級中一学級(男子22名、女子20名、計42名)で平成17年6月15日(水)～平成17年9月12日(月)までの52日間行った。1年生の数学担当者は三人で、それぞれ二クラスずつ担当しており、また実践期間内に教育実習十日間、実力テスト二日間、自習二日間、演習五日間、考査対策二日間、考査二日間(80分×2)を含んでいる。

ア 年間指導計画の作成に当たって

1年生を対象にし、担当している三人の教師の授業進度をある程度そろえるなど協力しながら、数学の三角比の単元について、数学の三角関数の単元とのつながりを考慮しつつ年間指導計画(前ページ【図10】)を作成した。

イ 毎時間の指導計画・評価シートについて

毎日の授業にあたり、年間指導計画の評価規準をもとに、生徒の実態にあわせて、評価の観点から二つを盛り込んだ指導計画・評価シートを作成した。授業後に評価規準にそって評価を記入した。Cと判断した場合はその理由を記入し、事後に個別指導内容を記入した。

ウ 実践結果の分析と考察

(ア) 年間指導計画と指導計画・評価シートを活用した授業について

作成にあたって工夫した点は、年間指導計画における評価の四観点のうち、例えば表現・処理において「具体的な例をとおして問題の意味をよく理解し、適切に処理できる」とある。それを受けて、指導計画・評価シートの特に評価する観点とその評価規準を「具体的な例を、図をかく事により適切に処理できる」とし、その学習問題を、「鉄塔の先端の真下から20mはなれた地点から塔の先端を見上げると水平とのなす角が 40° のとき塔の高さを求めよ」とした。前頁【図11】の指導計画・評価シートの努力を要する状況に番、番という生徒の番号が記入された。指導計画・評価シートのCと判断した生徒の原因、事後指導の計画として「まったく図がかけず、進んでいない。厚紙等で作った三角形を移動させ、それを参考にノートに作図させる。」とあるように、事後指導の内容の記述である。AまたCの

7 地歴・公民科における評価の工夫による指導改善の計画と授業実践及びその分析と考察

(1) 地歴・公民科における評価の工夫による指導改善の計画

ア 年間指導計画 の作成

地歴・公民科とは、遠い過去や遠隔の地域での事象を知ることですらを相対化し、現在と未来を見つめる基礎教養としての教科であり、国際社会に主体的に生きる資質を養うためにも、適切な指導と評価を行うことが重要である。

従来はテストの得点と教務手帳等のメモを中心とした「評価」が行われる傾向にあったが、生徒の動きを的確に観察してさらに先へと進むように支援することが現在求められている指導と評価だと言える。

最近の生徒には、読書量が少なく、目に見えないものについての想像力が弱い、好きなことしかやろうとしない、言葉や資料を読み取る力が弱い、作業的学習はできるが、新たに生み出すことが不得意である、等の特徴が見られる。しかし、想像できなければ視聴覚に訴える、好きなことしかやらないのなら好きになるように工夫する、資料の読み取りが不得手ならばきちんと輪読する、創造ができないのならばせめて精巧な模写をできるようにする等、発想を転換して生徒に生きる力をつけさせるべきである。その際には、関心・意欲・態度を高める資料を探す、思考・判断する習慣をつける、資料活用に慣れさせる、知識を増やし理解を深める、という順序で指導を工夫すれば指導計画が組み立てやすいと考えられる。指導力のある教員は暗黙知で観点別評価をバランスよく実践するが、評価がうまくいっていない場合はどれかに偏っていたり、どれかが欠けていたりする傾向がある。自分の指導内容を点検するという意味でも年間指導計画（【図12】はその一部、詳細は補充資料参照）や評価シートを作成する意義は大きく、生徒と評価シートをやりとりすることで信頼関係が構築されていき、生徒自身が自分の向上を目で確認するという点で教育効果は大なるものがあると言える。

指導学年	単位数	内容のまとめ（単元）			
2 学年	4	（例）第4章 中世社会の成立			
小単元	配当時間	1 単位時間の授業における評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
第9章の 3 武士の 社会 導入 展開 まとめ	2 (その1)	<p>事前学習プリントに、関心をもって取り組もうとしている。執権政治の確立の過程に関心を持ち、積極的に当時の時代感に近づこうとしている。</p> <p>御家人達の土地への強い思いに対して関心を高め、意欲的に追究しようとしている。</p> <p>北条政子の切迫した思いと、武士たちの動揺する心情に対して関心を高め、意欲的に追究しようとしている。</p>	<p>「一生懸命」は元々「一所懸命」と書かれていたことから、武士たちにとって土地のもつ意味の重要性を考えている。</p> <p>御家人たちの将軍専政への不信感が、御家人たちの合議制へとつながったことを考えている。</p> <p>北条政子が涙の演説をしなければならぬほど、幕府の状況が緊迫していることを考えている。</p>	<p>自己評価表や事前学習プリントに回答し、レーダーチャートを作成している。</p> <p>北条政子の演説を現代語に訳して、調べた過程や結果をわかりやすく、適切に表現している。</p>	<p>事前学習プリントの基礎的な学習内容を理解できる。</p> <p>北条氏が執権として幕府の実権を握っていく過程を理解できる。</p> <p>承久の乱が幕府の存亡を賭けた戦いであったことを理解できる。</p>

【図12】年間指導計画 の例

イ 評価シートの作成と活用

(ア) 評価シートの作成

高等学校の地歴・公民科の授業において、評価の観点を明確に分類した三種の評価シートの作成方法について次頁 ~ に示す。

授業者用評価シートの作成（【図13】はその一部、詳細は補充資料参照）

- ・年間指導計画 を基に、授業で伝えたい内容や培いたい生徒の能力をリストアップし、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「資料活用の技能・表現」、「知識・理解」に分類する。
- 生徒用自己評価シートの作成（【図14】はその一部、詳細は補充資料参照）
- ・授業者用の評価シートに基づき、生徒が考えやすく答えやすい質問を作成する。
- ・日々の生活に即した、具体的な内容になるように留意する。
- 生徒用自己分析シートの作成（次頁【図15】はその一部、詳細は補充資料参照）
- ・自己評価シートを踏まえて、学習によって自らの力になったことが実感されるように質問を作成する。

(1) 評価シートの活用

評価の観点を明確に分類した三種の評価シートの活用方法について ~ に示す。

授業者用評価シートを基に指導案を作成し、各領域別にむらのない授業を展開できるように準備する。授業実施前に生徒用自己評価シートを配布し、記入させ、回収する。

- ・ただ配布して記入するより、一つずつ質問して、生徒の反応を見ながら補足説明を加えると効果的であり、授業への関心を高めることもできる。
- ・余白に様々なコメントを記入させると実態がよくわかるので、十分に時間をとって書かせる。点検して生徒の実態を把握し、留意すべきことを授業者用評価シートに記入する。

（授業）

授業後に生徒用分析シートを配布し記入させる。学習の全体状況が視覚的にわかるレーダーチャートにも記入させる。（次頁【図16】はその一部、詳細は補充資料参照）

- ・よくわかったところもそうでないところも率直に記入できるように配慮する。
- ・復習が必要な点なども書かせるとよい。
- 生徒用自己評価シートを返却し、事前と事後の変容を実感させる。
- ・レーダーチャートを効果的に活用する。（観点別評価の変化を視覚的に確認）

生徒用自己分析シートを回収、点検して生徒の反応を確認し、次の指導に役立てる。

次の授業の資料を作成する。 に戻る。

2年組 氏名		氏名	
	【関心・意欲・態度】質問文	生徒の実態	備考
1	武士に対する関心		
2	鎌倉時代の政治に関する興味		
3	生活史・精神生活		
4	中世と地域との関わり		
【思考・判断】			
5	中世からの影響（四字熟語）		
6	資料の読解（北条政子の演説）		
7	現代との共通点（専制政治の崩壊等）		
8	地頭の勢力拡大に対する荘園領主の対抗策（下地中等）		
【資料活用の技能・表現】			
9	人物への共感（北条政子の演説）		
10	系図史料からの読み取り（頼朝の系図）		

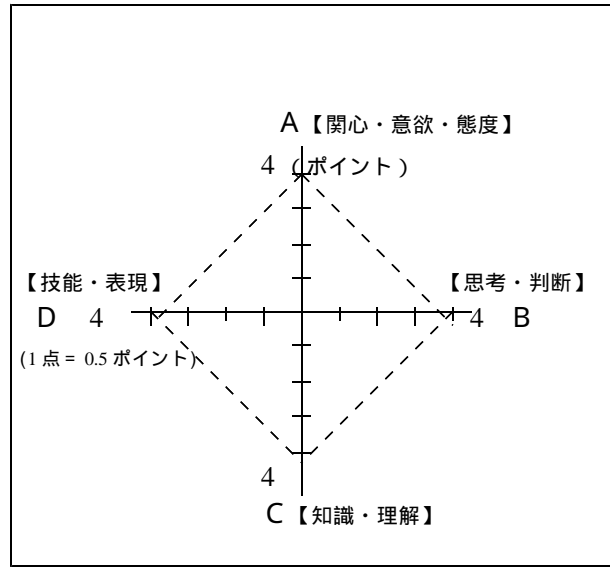
【図13】授業者用評価シートの例

2年組 氏名		氏名	
	質問文		
1	貴族より武士が好きだ。	はい	いいえ
2	北条氏が幕府の実権を握る経緯を知りたい。	はい	いいえ
3	鎌倉時代の武士の生活ぶりを知りたい。	はい	いいえ
4	中世の地名の名残を知っている。	はい	いいえ
【関心・意欲・態度】合計A			
5	「一生懸命」はもともとなんと書かれていたかを知っている。	はい	いいえ
6	北条政子の演説から、当時の幕府の状況を考えることができる。	はい	いいえ
7	若い為政者が年上の家来達を上手くコントロールできる術を知っている。	はい	いいえ
8	地頭の力が拡大すると困るのは誰かを知っている。	はい	いいえ
【思考・判断】合計B			
9	北条政子の演説を現代語訳できる。	はい	いいえ
10	撰家将軍と頼朝のつながりを系図から読み取れる。	はい	いいえ

【図14】生徒用自己評価シートの例

2年組 氏名			
質問文			
1	貴族よりも武士が好きになった。	はい	いいえ
2	北条氏が幕府の実権を握る経緯がわかった。	はい	いいえ
3	鎌倉時代の武士の生活ぶりがわかった。	はい	いいえ
4	中世の地名の名残を身近な所でも探してみよう。	はい	いいえ
【関心・意欲・態度】 合計A			
5	「一生懸命」から武士の土地に対する思いについて考えることができた。	はい	いいえ
6	北条政子の演説から当時の幕府の状況を考えることができた。	はい	いいえ
7	2代将軍頼家は年長の家来達を尊重し、幕府を運営するべきだと気がついた。	はい	いいえ
8	地元の力が拡大すると困るの指助がわかった。	はい	いいえ
【思考・判断】 合計B			

【図15】生徒用自己分析シートの例



(2) 地歴・公民科の授業実践

ア 実践校・学年

盛岡北高等学校 2学年文系日本史選択者(男子34名、女子45名、計79名)

イ 実践の概要

評価シートを活用した実践の概要を【表6】に示す。

【表6】実践の概要

項目	内容
1 事前アンケートの実施(10分)	・該当分野について、中学校レベルの内容を確認する小テスト形式のアンケートを実施した。
2 授業者用評価シートの作成	・年間指導計画を参考に、授業で学ばせたい内容や培いたい能力をあげ、観点別に分類した。 ・1のアンケートをもとにして、理解している点としていない点を事前に把握しながら、質問を作成した。 ・配当時間2時間分の内容で作成した。負担軽減のために「知識・理解」のみ8項目、その他の観点は4項目に絞った。分野ごとでそれぞれの観点が増減することも考えられる。
3 生徒自己評価シートの作成	・授業者用評価シートをもとに、生徒が答えやすいように質問を作成した。 ・わかりやすく、具体的な質問になるように工夫した。 ・学習の全体的状況が視覚的にわかるように、観点別評価を踏まえたレーダーチャートを作成した。
4 生徒自己分析シートの作成	・生徒自己評価シートを踏まえ、学習後に理解が深まったことが実感されるような質問を作成した。
5 指導案の作成	・授業者用評価シート、事前アンケートをもとに指導案を作成し、観点別評価を組み込んだ。
6 授業前の生徒自己評価シートの配布、記入、回収。(30分)	・質問内容を確認し、補足の説明をしながら実施した。
7 授業プリントの配布と予習の指示	・指導案や自己評価シートにのっとり、ポイントを絞った授業プリントを配布し、予習させた。
8 回収した生徒自己評価シートの点検と実態把握。	・大まかな特徴を分析し、生徒の実態を把握し、授業者用評価シートにまとめた。
9 授業の実施(9~13まで30分)	・授業プリントを使いながらすすめ、授業後に回収し、取り組みを評価の一部にした。
10 授業後の生徒自己分析シートの配布、記入	・理解できたところや復習が必要なところを必ず論述させた。 ・質問内容を再度確認し、補足の説明をしながら実施した。
11 生徒自己評価シートの返却	・授業前に書かせた自己評価シートと自己分析シートを比較させて、どの観点がどのように変化したのかを確認させた。とくに、レーダーチャートでの変化に視覚で注目させた。
12 授業後アンケートの配布	・記名ではあるが、これによる評価はしない点を強調し自由に書けるように配慮した。
13 自己分析シート、自己評価シート、授業後アンケートの回収	・授業終了後すべてを回収した。
14 点検	・反省点や課題を検討し次の授業に役立てた。

ウ 実践結果の分析と考察

評価シートを活用した授業による四つの評価の観点における回答率の変化を【図17】に示した。

< 授業前 >		< 授業後 >		
評価の観点	生徒自己評価シートからの回答率	生徒自己分析シートから、回答率が		
		下がった	変わらず	上がった
関心・意欲・態度	55.7%	10.0%	28.6%	61.4%
思考・判断	36.7%	4.3%	18.6%	77.1%
技能・表現	53.7%	35.7%	30.0%	34.3%
知識・理解	34.8%	0.0%	7.1%	92.9%

回答率は「はい」の数の割合を示す

【図17】回答率の変化（四つの評価の観点）

(ア) 授業前の生徒実態把握

～ は生徒自己評価シート、事前アンケート等を点検し、大まかな特徴を分析しまとめたものである。

「関心・意欲」は概ね高い。

技能や表現力には自信をもっているようだ。

事前の自己評価シートやアンケートからも、中学時代に習った学習内容をかなり忘れていた。

そのため、「思考・判断力」、「知識・理解」が低くなったのではないか。

(イ) 授業後の変化

、 は自己評価シートと自己分析シートを比較し、どの観点がどのように変化したかをまとめたものである。

事前の自己評価シートと事後の自己分析シートを比較してみると、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「知識・理解」の三観点に関する回答率が上昇した。特に「思考・判断」と「知識・理解」は回答率が上がった生徒の割合が大きく伸びている。これは、学習範囲と評価規準を明確に提示したことや、自己も他者も存在を確認できる場を設定したことなどによって、内容の理解が深まった事をあらわしている。

「資料活用の技能・表現」は回答率が上がった生徒と下がった生徒がほぼ同じであった。「北条氏の系図を書かせる」は18%、「武士の生活の特徴を絵巻から読み取る」は55%など、回答率がやや低めだった一方で、「北条政子になりきり演説する」は回答率67%と高く、生徒の取り組みも良かった。補足説明が不十分であったり、さらに吟味すべき質問内容もあった。

(ウ) 授業後アンケートの集計と分析・考察

生徒による評価シートを活用した授業後アンケートの集計を【表7】に示した。また、質問項目及び記述欄それぞれにおいて分析・考察したものを次頁、に示した。

【表7】授業後アンケートの集計

質問項目	割合 (%)
	【()内はそのうちで強く当てはまると答えた割合】
1 とてもおもしろかった。	86.8% (7.9%)
2 まったくつまらなかった。	5.3% (0.0%)
3 自分なりにがんばった。	80.3% (19.7%)
4 どちらかといえばさぼってしまった。	17.1% (1.3%)
5 十分に満足できる内容だった。	60.5% (9.2%)
6 満足できる内容ではなかった。	25.0% (1.3%)
7 またやってみたい。	78.9% (14.5%)
8 こんな学習はこりこりだ。	10.5% (2.6%)
9 次の課題でも何とかやれそうだ。	80.3% (9.2%)
10 次の課題でも失敗しそうだ。	11.8% (0.0%)
11 自分の考えや意見を友人にもわかってほしい	39.5% (2.6%)
12 自分の考えや意見は友人に知られたくない。	30.3% (1.3%)

授業後アンケートの質問項目の分析・考察

今回の授業については「おもしろかった」という意見が9割近くにのぼった。また、「がんばった」や「満足できた」という意見も多く、さらに「またやりたい」や「次もやれそうだ」という意見も8割あり、生徒が自らの努力の成果を実感することで、次の授業への期待感、意欲、自信などを高めることができることを確かめられた。また「自分の考えを他人にもわかって欲しい」という意見も4割ほどあり、生徒に発表の場を与える方策が今後に求められる。

授業後アンケートの記述欄の分析・考察

授業後アンケートの記述欄について分析・考察したものを【表8】に示す。

【表8】記述欄の分析・考察

記述内容	分析・考察
・授業前の自己評価シートによって、これから学ぶ内容を大まかにつかむことができ、授業の理解が進んだり、意欲が湧いたので良かった。(7人)	・何を学ぶのかを事前に生徒に示すこと、つまり何が評価されるのかを示すことが、生徒の意欲にもつながると示している。これが今回の評価を組み込んだ授業の主眼でもあり、年間指導計画の提示にもつながっていくことである。とかく復習中心と思われがちな授業を、評価を組み込んだ自己評価シートなどで事前に意識させると定着も良く、生徒自身の満足度も上がることが今回の授業で実証された。
・自己評価シートと自己分析シートのレーダーチャートによる比較が、視覚的にとてもわかりやすかった。(5人)	・レーダーチャートの面積の拡大によって、自らの学習が深まったことが実感でき、自信がつき、やる気が生まれたといえる。また、チャートの形の変化が何故生じたのかを自ら分析したり、学習不足だった点を復習しようとするなど、予想外の効果もあった。
・発表のあたりの事が印象深く残り、良く覚えることができた。(3人)	・評価シートに基づいた学習プリントを作成し、事前に予習させながら授業を進めたことが良かった。発表をするには、その背景となる歴史的事象や資料の勉強が欠かせず、生徒が自ら学ばねばならない。この自ら学ぶということが本当の学びの定着に重要な要素になっているので、長期的に見通した年間指導計画を作成し、問題解決型の学習を組み込んでいくべきであろう。
・興味のなかった武士の時代への興味が湧いて意欲的に取り組むことができた。(3人)	・女子の意見である。知らないことが無関心を生んでいたことの典型的な例と言える。そのためにも、自己評価シート等でよりわかりやすく、興味・関心をもたせる工夫がすべての始まりだと言える。
・評価シートにもとづいた授業で、調べる活動が大変だった。(5人)	・成績の悪くない、むしろ上位の生徒に多い意見だった。単に授業やテストを受けるのではなく、自ら学ぶことが学ぶことの本質であること、受け身になることが当たり前だという先入観を捨てさせる努力が必要であると感じた。

(3) 地歴・公民科における評価の工夫による指導改善に関する研究のまとめ

観点を明確に分類した評価シートの作成と活用による指導と評価の工夫は、指導改善に効果的であることが明らかになった。学習範囲と評価規準の明確な提示、生徒の声の集約、具体的で回答しやすい設問の工夫、視覚に訴えるチャートの作成と活用、自己も他者も存在を確認できる場の設定、そして何より自らの学力が向上したという達成感の獲得が次の学習に結びついていくことが期待される。

8 外国語科における評価の工夫による指導改善の計画と授業実践及びその分析と考察

(1) 外国語科における評価の工夫による指導改善の計画

ア 年間指導計画 の作成

昨年度の研究において示した方向性に基づき、年間指導計画（教科の目標及び評価の計画）、年間指導計画（科目の目標及び評価の計画）を基に、各単元の内容及び評価の計画をまとめた年間指導計画を作成する。計画には、配当時間、題材及び言語材料、そして1単位時間の授業における評価規準を明示する。【表9】はその一部である。（詳細は補充資料参照）

【表9】年間指導計画 の例

学年	単位数	使用教科書：	1 単位時間の授業における評価規準			
2	4	使用副教材：	1 単位時間の授業における評価規準		1 単位時間の授業における評価規準	
単元名	配当時間	題材及び言語材料	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
Lesson 1 A Volunteer in Mali	8	<ul style="list-style-type: none"> 日本の NGO に参加した村上氏のマリ共和国での活動の紹介 S+V(be動詞) + C(=分詞) S+V+O+C(=過去分詞) 相手に勧める表現 	<ul style="list-style-type: none"> 英文を読んで、ボランティア活動について理解し、意見や感想を述べる。 相手に勧める表現を用いて話そうとする。 SVC/SVCOC の形を用いて新しい英文を書こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 難読語を正しく発音する。decision / neighbor / bulletin / encourage / rarely 等 SVC/SVCOC の形を用いて正しい英文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 対話のイントネーション等を聞き分ける 英文の概要を読みとり要約する。 	<ul style="list-style-type: none"> [f][h]の違いを聞き分ける。 子音と子音の連音を発音できる。 SVC/SVCOC の形を正しく理解できる。 ボランティア活動に対する意識の違いを理解する。

イ 単元の評価シートの作成

年間指導計画に基づいて、各単元ごとの評価シートを作成する。評価シートには単元の目標に沿った評価規準を記載し（【表10】）、生徒の自己評価を中心とした記述とし、目標の実現状況の把握を主目的とする。達成度が低い項目、あるいは個人に対しては、全体あるいは個別の指導計画を立てるための資料として活用する。

また、各単元に共通のものとして、国立教育政策研究所による評価規準を参考にして、内容のまとめりごとに観点別の評価規準を設定し（【表11】）、生徒の自己評価及び必要に応じて相互評価を取り入れた評価活動を行う。授業担当者は生徒の活動を個々に観察し、数値評価とコメントにより適切なフィードバックを行うこととする。これにより、英語活動全体に関わる活動の振り返りができ、次の学習に向けて新たな目標の設定が可能となる。さらに、授業の中で理解が十分ではなかった内容及び授業全般に対する要望等を記入する欄を設け、事後指導や指導内容・指導方法の改善に生かすこととした。（各表とも、詳細は補充資料参照）

【表10】単元における評価規準の例

	この単元で達成すべきこと	達成度	達成できなかった部分・項目・内容
1	本文の内容を理解し自分の意見を持つ	3 2 1	
2	新出語句の発音・意味を覚える	3 2 1	
3	SVC/SVCOC を理解し正しく使う	3 2 1	
4	相手に勧める表現を理解し正しく使う	3 2 1	
5	本文を正しくスムーズに音読する	3 2 1	

【表11】全単元における共通評価規準

	評価項目	自己評価	相互評価	教科担任による評価とコメント
聞 く こ と	・聞いた内容の要点を理解する	3 2 1	3 2 1	3 2 1
	・関心をもって相手を見て話を聞く	3 2 1	3 2 1	
	・理解できない部分も推測して聞く	3 2 1	3 2 1	
	[評価の平均]			

ウ 「英語力の目標（改訂版）」の活用

四領域におけるレベル別の自己判定による実力診断資料である「英語力の目標」を、昨年度の研究協力校での実践を基に改定し、同程度の難易レベルのものを五種類作成した。これは、同一学年（年度）での複数回使用、そして三年間での使用を想定したものである。その活用により、自分の英語力のある程度測定した上で、目標を立て、日々の授業に取り組むことができる。（詳細は補充資料参照）

(2) 外国語科の授業実践

ア 英語力の判定

「英語力の目標」を用いた英語力の判定を、授業担当者の指示のもとに実施した。第一回は第一期考査後の7月上旬、第二回は第三期考査後の12月上旬に実施した。「英語力の目標」に見る英語力の変容の分析及び生徒個々の目標設定の状況等の分析については別途行う。

イ 単元ごとの評価シートの活用

各単元の学習終了後、授業の時間を利用し、生徒の自己評価を中心として、目標の達成状況や授業に対する要望等の記述をさせた。全体的に達成状況の思わしくない項目については、授業中に再説明を行ったり、補充プリントで演習を繰り返したりした。また、個別には授業時間外（放課後等）の事後指導の計画を立てたり、学習相談の機会を設けたりした。

ウ 実践結果の分析と考察

(ア) 評価シートの活用にかかわる分析と考察

生徒による自己評価が中心であり、自己に対する要求度の高低の差やそれぞれの達成基準の違い等もあるが、全体としての理解度や目標達成度の把握には有効であった。評価結果を基にして、全体の理解度がやや低いと判断される項目については、一斉授業の中で説明や演習を補足し、個々の理解度が思わしくないと判断される事項については、個人または少人数を対象にした事後指導を計画する際の参考になった。

授業中にはなかなか質問しづらいことでも、個々に記述する形をとることにより、生徒一人一人がどこでつまづいたのか、どの部分を補強すれば次の学習につながるのか、あるいは関心や意欲を失いかけているような状況をも把握することができ、全体指導と個別指導を有機的に組み合わせて指導することにより、指導改善及び学力向上を図るための材料となった。

また、単元の評価シートの中に、生徒による、授業への要望等の自由記述欄を設けることで、建設的な意見に対しては一斉授業の中で、あるいは個別に対応することで指導改善につなげることができた。全体にかかわるような意見や要望については、授業中に説明し、可能なものについては改善に努めた。授業や学習内容にかかわる記述がほとんどであったが、中には該当の授業以外のことや、個人的なこと等を伝えてくる生徒もあり、適切な対応を取ることにより、相互の信頼関係の構築の一助ともなった。

意見・要望の中で、前向きで建設的な内容であり、改善に取り組んだものは、板書の仕方（字の大きさ、色の使い分け、黒板の使い方）、指名の仕方（偏りのない指名、明確な指名）、説明の仕方（用語の説明、例文を用いた説明、補助プリントの活用）、宿題の出し方（量の調整、他教科との調整）等である。

(イ) 学力向上にかかわる分析と考察

単元ごとの評価活動（形成的評価）とそのフィードバックによる学力の伸びを、各種試験結果の指数により検証する。実践対象が学年の一部の学級であったので、形成的評価を実施

した学級と実施しなかった学級について、校内定期考査（出題範囲が指定された試験）と全国模擬試験（出題範囲が指定されていない試験）の結果を平均点の指数で比較した。【表12】は定期考査の結果を表したものであり、学年全体の平均点を100とした場合の、それぞれの学級（群）の指数を示したものである。考査の実施時期は、第一期が評価活動実施前（6月）、第二期が実施直後（9月）、そして第三期が実施4ヶ月後（11月）である。【表13】は、全国模擬試験における結果を同様に示したものである。

【表12】定期考査における指数

対象群	6月	9月	11月
形成的評価の実施群	96	97	98
形成的評価未実施群	102	101	101

【表13】全国模擬試験における指数

対象群	7月	12月
形成的評価の実施群	94	-
形成的評価未実施群	103	-

数値的にはわずかな差ではあるが、時期を追うごとに向上していることがわかる。生徒及び授業担当者の地道な努力を中心として、評価活動を取り入れた指導改善と生徒の自己教育力の向上の結果と考える。この結果を受けて、形成的評価を全体に取り入れる方向を検討していきたい。

(ウ) 授業担当者の意識

評価シートの活用にかかわって、実践者二名に意識調査の協力を得た。調査紙に記入していただいた記述をまとめたものが【表14】である。

【表14】授業担当者の意識

質問の観点	回答者	回答	回答理由
指導改善への効果の有無	A	ある	生徒からの授業評価により、授業の工夫が図られ、授業への取り組みにも向上が見られた。
	B	どちらかといえばある	自己評価、相互評価により、理解度や要望等をくみ取ることができ、次回からの授業展開を考える上での資料にできる。
学力向上への効果の有無	A	ある	評価する、されることにより自律心が育ち、学習効果が生まれる。
	B	どちらかといえばある	自己評価は自己教育力を育成し、相互評価は授業への主体的参加を促す効果がある。

指導改善の視点については、テストを中心とした通常の評価からはくみ取ることのできない、生徒個々の細部にわたる理解度の把握により、指導改善につながったことがわかる。また、シートに設けた、授業に対する要望等の記述欄が予想以上に活用され、生徒の率直な意見等、生の声を聞くことができ、建設的な提案も見られた。県内でも、生徒による授業評価を取り入れる学校が徐々に増えてはいるが、学期ごと、あるいは年度ごとの実施という形態が多く、改善につなげるにも時間がかかっている場合が多い。その点、評価シートは単元ごとの実施であること、個人あるいは教科レベルで実施されるものであることから、素早く、臨機応変に対応できるという利点がある。

学力向上にかかわる視点については、生徒の自己教育力の育成への言及があり、好ましい主体的な学習へとつなげる材料になったものと考えられる。

(3) 外国語科における評価の工夫による指導改善に関する研究のまとめ

年間指導計画 ～ とそれに基づく単元ごとの評価シートの作成、及び評価シートを活用しての授業実践をとおして、それぞれの手だてが指導改善につながり、生徒の学力向上につながるものであるとの見通しをもつことができた。

学習や授業に対する生徒の関心や意欲の向上、あるいは具体的な学力の伸びについては、意識調査や各種試験等の結果の分析によりさらに検証を行うこととする。

9 指導に生かす評価方法の工夫を図った指導と評価に関する研究のまとめ

これまで、指導に生かす評価方法の工夫を図った推進試案に基づき、指導と評価の計画に従って授業実践を行い、実践結果の分析・考察をとおして、研究の方向性を確認してきた。そこで、今年度明らかになったことについて、成果と課題をまとめる。

(1) 成果

ア それぞれの教科の内容や授業構成等の特性に応じて、指導改善に生かし、生徒の学力向上に役立てるための、年間指導計画 ~ 及び評価シートを提示することができた。

イ 生徒の学習状況を観点別に評価することにより、学習の目標をもたせ、学習意欲の喚起を図ることができた。

ウ 形成的評価と評価結果のフィードバックにより、目標をより明確にした学習指導の方向性についての見通しをもつことができた。

(2) 課題

ア 生徒の学力をより客観的にとらえ、適切な評価につなげるために、評価シートの様式をさらに吟味・工夫する。

イ 生徒の意欲をさらに高め、指導改善と一体化した、より効率的な評価方法の在り方をさらに検討する。

以上のことから、課題は残るものの、高等学校における年間計画 と評価シートを活用した学習指導は、指導改善による生徒の意欲の喚起、そして学力向上につながるという見通しをもつことができた。

高等学校の学習指導改善の研究のまとめ

1 研究の成果

この研究は、指導に生かす評価を工夫し、学習指導の過程における評価を意図的に進めることにより、高等学校の学習指導の在り方を明らかにし、指導の改善に役立てようとするものである。そのために、3年次に当たる今年度は、国語、数学、地歴・公民、外国語の四教科において、推進試案に基づく授業実践を行い、授業実践の分析と考察をとおして、年間指導計画 及びそれを基にした評価シートの有効な活用方法についての見通しをもつことができた。なお、成果として得られたのは次のことである。

(1) 指導に生かす評価の工夫

高等学校における、指導に生かす評価を取り入れるための推進試案を作成し、年間指導計画 ~ 及び評価シートを活用することによって、指導改善の方向性についての見通しをもつことができた。

(2) 推進試案に基づく授業実践と実践結果の分析と考察

推進試案に基づいた授業実践により、意図的な評価を位置付けた指導と評価の計画が、生徒の学習意欲を喚起するとともに、学力向上につながるという見通しをもつことができた。

(3) 指導に生かす評価の工夫を図った指導と評価に関するまとめ

各教科における授業実践の分析と考察及び研究のまとめから、年間指導計画 及び評価シートの工夫を図った指導と評価の計画の妥当性について見通しをもつことができた。

2 今後の課題

本研究では、高等学校の学習指導の改善に関し、指導に生かす評価の在り方について明らかに

してきた。今後は、より多くの実践や検証により、評価を通しての学習指導改善、そして、生徒のさらなる学力向上を図るためのより具体的な指導方法を提案していきたい。

<おわりに>

この研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力校の先生方、生徒のみなさんに心からお礼を申し上げます。また、研究協力員としてご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

【参考文献】

- 梶田叡一（2004）,『絶対評価 目標単元評価 とは何か』,小学館
梶田叡一（1983）,『教育評価』,有斐閣双書
金谷 憲（2003）,『英語教育評価論』,河源社
北尾倫彦・祇園全祿編（2002）,『観点別学習状況の新評価基準表』,図書文化社
今野喜清他編（2003）,『学校教育辞典』,教育出版
静岡県教育委員会高校教育課（2001）,『魅力ある授業づくり』
渋谷憲一（2003）,『教育評価の基礎』,教育出版
根本 博（2004）,『数学教育の挑戦』,東洋館出版社

【参考Webページ】

- 国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/kou-sankousiryuu/html/index.htm>
岐阜県総合教育センター <http://www.gifu-net.ed.jp/gec/>

【補充資料】

目次

【補充資料 1 - 1】	国語科年間指導計画	資 1
【補充資料 1 - 2】	国語科年間指導計画	資 2
【補充資料 1 - 3】	国語科年間指導計画 の作成例	資 4
【補充資料 1 - 4】	国語科学習のねらい確認シート	資 5
【補充資料 2 - 1】	数学科年間指導計画	資 6
【補充資料 2 - 2】	数学科年間指導計画	資 7
【補充資料 2 - 3】	数学科年間指導計画	資 8
【補充資料 2 - 4】	数学科 1 単位時間ごとの指導計画・評価シート	資11
【補充資料 2 - 5】	数学科生徒用アンケートと集計結果	資12
【補充資料 3 - 1】	地歴・公民科年間指導計画	資13
【補充資料 3 - 2】	地歴・公民科年間指導計画	資14
【補充資料 3 - 3】	地歴・公民科年間指導計画 の作成例	資15
【補充資料 3 - 4】	地歴・公民科授業者用評価シート	資16
【補充資料 3 - 5】	地歴・公民科生徒自己評価シート	資17
【補充資料 3 - 6】	地歴・公民科生徒自己分析シート	資18
【補充資料 3 - 7】	地歴・公民科学習指導案例	資19
【補充資料 3 - 8】	地歴・公民科授業資料（実朝暗殺）	資20
【補充資料 4 - 1】	外国語科年間指導計画	資21
【補充資料 4 - 2】	外国語科年間指導計画（英語）	資22
【補充資料 4 - 3】	外国語科年間指導計画（オーラルコミュニケーション）	資23
【補充資料 4 - 4】	外国語科年間指導計画 の作成例	資24
【補充資料 4 - 5】	外国語科単元評価シート	資25
【補充資料 4 - 6】	外国語科「英語力の目標」表紙	資26
【補充資料 4 - 7】	外国語科「英語力の目標」その 1	資27
【補充資料 4 - 8】	外国語科「英語力の目標」その 2	資33
【補充資料 4 - 9】	外国語科「英語力の目標」その 3	資39
【補充資料 4 - 10】	外国語科「英語力の目標」その 4	資45
【補充資料 4 - 11】	外国語科「英語力の目標」その 5	資51

【補充資料 1 - 】 年間指導計画 （国語）

年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画

1 教科目標

教科	目標
国語	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書く。	自分の考えを深めさせたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。

3 各学年での指導科目と目標

1 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
国語総合	4	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	全員必修

2 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
現代文	2	近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。	全員必修
古典	3 または 2	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。	文系コースは3単位 理系コースは2単位

3 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
国語表現	2	国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。	私立文系コースのみ必修
現代文	2	近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。	全員必修
古典	3 または 2	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。	文系コースは3単位 理系コースは2単位

【補充資料 1 - 】年間指導計画（国語）

年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画（教科 国語）

1 科目と目標

科目・単位数・指導学年	目標
国語総合 4単位 1学年	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
使用教科書	使用副教材

2 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書く。	自分の考えを深めさせたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。

3 内容のまとめ（領域）ごとの内容と評価規準

内容のまとめ（領域）ごとの学習内容		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
A 話すこと 聞くこと	言 ア 様々な問題について自分の考えを持ち、筋道を立てて意見を述べること	評価規準 ・課題を解決したり考えを深めたりするために、目的や場面に応じて、筋道を立てて効果的に話したり的確に聞き取ったりしようとしている。	・様々な問題について自分の考えを持ち、筋道を立てて意見を述べている。 ・目的や場面に応じて効果的に話している。 ・目的や場面に応じて的確に聞き取っている。 ・課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合っている。	・目的や場面に応じた話し方や言葉遣いなどを理解している。 ・文や文章の組立て、語句の意味、用法などを理解し、語彙を豊かに身に付けている。 ・国語の成り立ちや特質、言語の役割などについて理解している。
	事 イ 目的や場面に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること			
	ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合うこと	評価規準 の具体例 ・話し合いをするとき、自分の考えを持つとともに、他の人のものの見方や考え方を的確に聞き取って、課題の解決や思考の深化を図ろうとしている。	・報告や発表などをするとき、身の回りの事柄などの中から、様々な問題を見付け、その問題について情報を収集し活用して、それをものに自分なりの考えを、言葉で論理的に組み立てている。 ・スピーチや説明などをするとき、話す相手を意識し、適切な話題を選び、話し方を工夫することによって分かりやすく伝えている。 ・聞くときに、話題、話し手の意図、考えの進め方、強調点などをとらえ、必要なことを過不足なく聞き取り、話し手に対し、確認したり質問したりしている。 ・課題を解決したり考えを深めたりするために、話し合いや討論などに参加するとき、学校図書館や情報通信ネットワークなどを活用して調べたり、相手の立場や考えをできるだけ尊重して、様々な意見を聞き合ったりしている。	・気楽な場面、改まった場面、電話など、場面や目的に応じた話し方や言葉遣いを身に付けている。 ・同訓異義語や同音異義語、敬語について理解している。 ・国語の歴史的な成り立ちと変遷について理解している。
		関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
B 書くこと	言 ア 相手や目的に応じて題材を選び、効果的な表現を考えて書くこと	評価規準 ・相手や目的に応じて題材を選び、自分の考えを文章にまとめたり、効果的な表現を考えて書いたりしようとしている。	・相手や目的に応じて題材を選んで書いている。 ・相手や目的に応じて効果的な表現を考えて書いている。 ・論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめている。 ・書くことに役立てるために、優れた表現に接してその条件を考えている。	・文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記などを理解し、語彙を豊かに身に付けている。 ・主な常用漢字について、適切な使い方を身に付けている。 ・国語の成り立ちや特質、言語の役割などについて理解している。
	事 イ 論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめること			
	ウ 優れた表現に接してその条件を考え、自分の表現に役立てること			

					・優れた表現を自分の表現に役立てている。	
		評価規準の具体例	・何のために、だれに向かって、どのような条件で書くのかを考え、その相手や目的にふさわしい材料を収集、選択し、用語や文章の組立てなどを工夫して書こうとしている。	・文章を書くとき、相手や目的に応じた題材を選び、それにふさわしい材料を、自分自身の体験や思索ばかりでなく、読書や調査、観察などで得て、その取捨選択を行っている。 ・文章を書くねらいを達成するため、主張を明確にし、論点を整理して配列を考え、最も適切な語句を選ぶなど、表現に様々な工夫を凝らしたり、推敲を重ねたりしている。 ・課題についての報告などを書くとき、学校図書館等を活用して必要な情報を収集、整理し、事実や事柄をしっかりとらえ、それを相手にきちんと伝えるため、客観的に表現している。 ・説明や意見などを書くとき、自分の考えを相手に納得させるために、内容を明確に示し、組立てのしっかりした文章を書いている。 ・優れた文章を分析、吟味するとき、発想の豊かさ、構成の着実さ、修飾語と被修飾語の適切な関係、読み手を意識した適切な用語や引例などについて着目している。 ・文章を書くとき、優れた文章を分析、吟味した成果や、様々な表現から読み取った発想や構成の特色などを生かしている。	・主語、述語、修飾語などの文の成分の順序や照応関係について理解している。 ・段落を設けることによって、述べたいことを効果的に表現できることを理解している。 ・漢字の使い方、仮名遣い、送り仮名の付け方、外来語の表記、平仮名と片仮名の使い分け、句読点や各種の符号の使い方、改行や引用の仕方などの表記全般について、その知識や技能を身に付けている。 ・主な常用漢字について、文脈に応じた適切な使い方を身に付けている。 ・国語の歴史的な成り立ちと変遷について理解している。	
			関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解	
C 読むこと	言語事項	ア 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約したりすること	評価規準	・様々な文章について、叙述に即して内容を的確に読み取ったり、表現に即して読み味わったりして、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。	・文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。 ・必要に応じて文章の内容を要約している。 ・文章を読んで、構成を確かめている。 ・文章を読んで、表現の特色をとらえている。 ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。 ・様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしている。	・文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かに身に付けている。 ・常用漢字の読みを理解している。 ・文語のきまり、訓読のきまりなどについて理解している。 ・国語の成り立ちや特質、言語の役割などについて理解している。
		イ 文章を読んで、構成を確かめたり表現の特色をとらえたりすること ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと	評価規準の具体例	・古典や近代以降の様々な文章を読んで、表現の意図や特色をとらえようとしたり、心情を豊かにし、思考力を育て、人間、社会、自然などに対して自分なりの考えを持つようとしている。	・文脈を考えながら、語句や表現に注意して、書き手の考えなどを過不足なくとらえている。 ・文章の要点を押さえながら、書き手が述べようとしていることを簡潔にまとめている。 ・文章の組立てを確かめたり、段落相互の関係を読み取ったりしながら、書き手の主張や文章の内容をとらえている。 ・文体や表現技法等の特徴に注意しながら、書き手の主張や文章の内容をとらえている。 ・古典や近代以降の様々な文章に描かれている人物の心情や情景をとらえ、音読や朗読などを取り入れながら読み味わっている。 ・様々な文章を読むことで、書き手の主張や文章の内容をとらえ、共感、疑問、思索などを通して思考力を高め、自分なりの考えを深めている。 ・学校図書館等を利用することを通して、読書力を高めるとともに、必要な情報を収集、選択し、その価値などを読み取り活用している。	・文脈との関連において語句の意味をとらえることを身に付けている。 ・単語、複合語や連語、慣用句などについて理解している。 ・常用漢字について、その音訓を理解し、文脈に応じた適切な読み方を身に付けている。 ・現代語と異なる歴史的仮名遣いや活用の違い、主な助詞、助動詞等の意味、用法、係り結び、敬語法の大体について理解している。 ・漢文の訓読に必要な返り点、送り仮名、句読点などに関するきまりについて理解している。 ・国語の歴史的な成り立ちと変遷について理解している。

【補充資料 1 - 】年間指導計画 の作成例

年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画

【国語総合 現代文】

()内は時間数

月	単元名	単元目標	教材	評価規準	評価方法	
4月	(現) 評論 (6)	ア 文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている イ 論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめる ウ 様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする	1 黒井千次「歩行と思索」(3) 2 柴田翔「希望としてのクレオール」(3)	I	・他の人の考え方を的確に聞き取り、課題の解決や思考の深化を図ろうとしている	観察
				S	・説明をするとき、話す相手を意識し、話し方を工夫することによって分かりやすく伝えている	観察
				W	・自分自身の体験や思索ばかりでなく、教材から読み取った内容を取捨選択して、文章を書いている	ノート・課題プリント
				R	・文脈を考えながら、語句や表現に注意して、書き手の考えなどを過不足なくとらえている ・書き手の主張をとらえ、共感、疑問、思索などを通して自分の考えを深めている	観察・ノート・テスト
				K	・抽象的な言葉や比喻表現を正確に理解している ・慣用的な語句や外来語の意味を理解している	観察、テスト

(注) I = 関心・意欲・態度、S = 話す・聞く能力、W = 書く能力、R = 読む能力、K = 知識・理解

【国語総合 古典】

()内は時間数

月	単元名	単元目標	教材	評価規準	評価方法	
4月中旬旬	(古) 古文入門 (6)	ア 古文を読む基礎を学ぶ イ 人物の心情をとらえながら文章を読み味わう ウ 説話における表現の特徴を理解する	1 検非違使忠明、いさかひのこと(2) 2 鳥羽僧正、絵をもつて諷すること(1) 3 源頼義、馬盗人を射殺したること(3)	I	・範読を積極的に聞き、言葉を意欲的に調べている	観察・ノート
				S	・歴史的仮名遣いを正しく発音して読んでいる	観察
				W	・教材文を歴史的仮名遣いに留意して正しく表記できる ・五十音図を正しく表記できる ・登場人物の言動に対する感想を的確にまとめている	ノート・課題プリント
				R	・教材文を重要語句や文法に即して正しく口語訳できる ・登場人物の人間関係を的確にとらえている ・登場人物の心情を的確にとらえている	観察・ノート・テスト
				K	・歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを理解している ・古語辞典の使い方を理解し、語句調べに活用できる ・文語の用言について、種類と活用を理解している	観察、テスト

(注) I = 関心・意欲・態度、S = 話す・聞く能力、W = 書く能力、R = 読む能力、K = 知識・理解

学 習 の ね ら い 確 認 シ ー ト No. 1

年 組 番 氏 名	記載日 前半 (/) 後半 (/)
学習単元 ・ 説話 (国語総合古典編)	学習期間 月 日 ~ 月 日
教材名 (時数) ・ 『 検非違使忠明、いさかひのこと 』 (2) ・ 『 鳥羽僧正、絵をもって諷すること 』 (1) ・ 『 源頼義、馬盗人を射殺したること 』 (3)	単元目標 ア 人物の心情を想像力を働かせながら読む イ 人物の心情をとらえながら文章を読み味わう ウ 古典の表現の特色について理解する

学 習 目 標		前 半	後 半	を付けた理由を書きなさい
ねらい 1 ~ 6 の実現状況を . . . で自己評価すること				
ア 人物の心情を想像力を働かせながら読む				例：1 - 「爰」の書き方がわからない ----- ----- -----
1	歴史的仮名遣いを正確に読み書きできる			
2	五十音図を読み書きできる			
3	大事な文を理解して読める			
4	文章の構成や展開を踏まえて読める			
5	文末の表現を吟味し、正確な読みができる			
6	古語辞典を利用して読みを深めることができる			
イ 人物の心情をとらえながら文章を読み味わう				
7	登場人物の人間関係を的確にとらえられる			
8	登場人物の心情に共感したり反発したりできる			
ウ 古典の表現の特色について理解する				
9	文語体の特徴を理解して読める			
10	説話の特色について理解できる			

この単元の学習に対する関心度を答えてください		前 半	後 半	を付けた理由を書きなさい
とてもある ある あまりない				
1	文語体の特徴を理解して正確に古文を音読すること			
2	古語辞典を利用して適切な意味を考えること			
3	人物の心情を想像しながら音読すること			
4	文章の構成や展開を踏まえて音読すること			
5	登場人物の行動や心情に対する意見を書くこと			

【補充資料 2 - 】年間指導計画

平成 年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画

教科	目 標
数 学	数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。

評価規準

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解
数学的な活動を通して、数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学的な考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとしている。	数学的活動を通して、数学的な見方や考え方を身に付け事象を数学にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。	数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付ける。

各学年での指導科目と目標

< 1 学年 >

科 目	単位数	科目の目標	備 考
数学	4	方程式と不等式、二次関数及び図形と計量について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。	全員必修
数学 A	3	平面図形、集合と論理及び場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。	全員必修

< 2 学年 >

科 目	単位数	科目の目標	備 考
数学	4	式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。	全員必修
数学 B	2	数列、ベクトル、統計または数値計算について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。	全員必修

< 3 学年 >

科 目	単位数	科目の目標	備 考
数学	3	極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。	普通科理系コース選択
数学 C	2	行列とその応用、式と曲線、確率分布または統計処理について理解させ、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。	普通科理系コース選択

【補充資料2 - 】年間指導計画

平成 年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画 (教科 数学)

科目・単位数・学年 数学 3単位 1学年	目 標 方程式と不等式、二次関数及び図形と計量について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。
使用教科書	使用副教材

評価規準

関心・意欲・態度	数学的な見方・考え方	表現・処理	知識・理解
数学的活動を通して、方程式と不等式、二次関数及び図形と計量における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	数学的活動を通して、方程式と不等式、二次関数及び図形と計量における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考え、とともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	方程式と不等式、二次関数及び図形と計量において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方、推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。	方程式と不等式、二次関数及び図形と計量における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。

内容のまとめり(単元)ごとの内容と評価規準

内容のまとめり(単元)(1)方程式と不等式

内 容	数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、一次不等式及び二次方程式についての理解を深め、それらを活用できるようにする。			
評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方・考え方	表現・処理	知識・理解
指導予定時間数 35時間	数と式、一次不等式、二次方程式に関心をもつとともに、それらを問題の解決に活用しようとしている。	数の範囲を拡張するとともに、式の見方を豊かにし、方程式と不等式について数学的に考察することができる。	簡単な無理数の計算をしたり、数量の関係を式に表現して的確に処理したりすることができる。	数と式、一次不等式、二次方程式における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。

内容のまとめり(単元)(2)二次関数

内 容	二次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や二次不等式を解くことなどに活用できるようにする。			
評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方・考え方	表現・処理	知識・理解
指導予定時間数 35時間	二次関数とそのグラフや値の変化に関心をもつとともに、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し、二次関数を活用しようとする。	関数的に見方や考え方を身に付け、具体的な事象について関数を用いて考察することができる。	関数を用いて数量の変化を表現し、関数の値の変化を調べることができる。	二次関数とそのグラフ及び関数の値の変化における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。

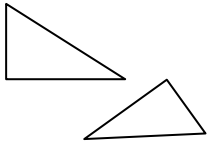
内容のまとめり(単元)(3)図形と計量

内 容	直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解し、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。			
評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方・考え方	表現・処理	知識・理解
指導予定時間数 35時間	角の大きさなどを用いた計量に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、具体的な事象の考察に活用しようとする。	角の大きさなどを用いた計量を行うための数学的な見方や考え方を身に付け、具体的な事象を考察することができる。	具体的な事象の数量の関係を三角比などを用いて表現し、図形の様々な計量を行うことができる。	直角三角形における三角比の意味、三角比を鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質を理解し、基礎的な知識を身に付けている。

【補充資料 2 - 】年間指導計画

平成 年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画 (科目 数学)

NO. 1

指導学年	単位数	内容のまとめり(単元)		使用教科書	
1	4	三角比		数研出版【新編 数学】	
小単元	配当時間	1 単位時間の授業における評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解
三角比	2	(7) 中学で学習した直角三角形の比を思い出し、具体的な問題に意欲的に取り組もうとする。	(7) 具体的に相似な直角三角形を用いて、そこから辺の長さの比が一定であることを考えることができる。 (1) $y = r \times \sin \theta$ $x = r \times \cos \theta$ $y = x \times \tan \theta$ と表せることにより、直角三角形の1辺と1つの角が与えられると他の2辺を求められることを考えることができる。	(7) \sin, \cos, \tan を定義でき、また正確に表すことができる。 (1) 三角比の表を用い2辺が与えられた直角三角形の一つの角を求めることができる。 (7) 具体的な例を通して、問題の意味をよく理解し、適切に処理することができる。	 (7) どんな直角三角形に対しても三角比を求めることができる。(直角の位置が右下でない時も理解できる) (1) 例題文と比較し、図をかく事により問題を理解している
三角比の相互関係	3	(7) 三角比 \sin, \cos, \tan の間にどんな関係が成り立っているか興味を示す。	(7) $y = r \times \sin \theta$ $x = r \times \cos \theta$ $x^2 + y^2 = r^2$ から $\tan \theta = \frac{\sin \theta}{\cos \theta}$ $\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$ $1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta}$ が導かれることを考えることができる。	(7) 公式を利用し、1つだけ与えられた三角比を用い、他の三角比を求めることができる。 (1) $\sin(90^\circ - \theta) = \cos \theta$ $\cos(90^\circ - \theta) = \sin \theta$ $\tan(90^\circ - \theta) = \frac{1}{\tan \theta}$ を用い、 45° 以下の三角比で表すことができる。	(7) θ が鋭角のとき $\cos^2 \theta = \frac{5}{9}$ から $\cos \theta < 0$ より $\cos \theta = \frac{\sqrt{5}}{3}$ であることを理解できる。 (1) 三角比の相互関係を用いなくとも、図をかくても処理できることを理解できている。
三角比の拡張	3	(7) 鋭角の三角比は直角三角形の辺の長さの比であらわされたが、鈍角の三角比にも積極的に関心を持ち取り組もうとしている	(7) 鈍角の三角比は円周上の点の座標を用いて定義されることを考えることができる。	(7) 半円周上の点Pの座標を図示し、鈍角の三角比を表すことができる。 (1) 鈍角の三角比を鋭角の三角比で表すことができる。	(7) 同様の考え方で $0^\circ, 90^\circ, 180^\circ$ の三角比を定義できる。また鈍角の $\cos \theta$ は負になることが理解できている。
	4	(1) 三角比が与えられたときの θ の値に興味、関心を持ち取り組もうとする。	(1) 単位円を用いて、 $r=1$ とすることで $\cos \theta = x, \sin \theta = y$ となるため、図を用いて解くことができることを考えられる。	(7) $0^\circ < \theta < 180^\circ$ $\sin \theta = \frac{1}{2}, \cos \theta = -\frac{1}{\sqrt{2}}$ を満たす θ を図示し解くことができる。	(1) $0^\circ < \theta < 180^\circ$ のときは $\sin \theta$ の値は2つ、 $\cos \theta$ の値は1つであることが理解できている。
	2	(7) 以前にも出てきた三角比の相互関係の公式をみて、鈍角においても成り立つことが予想できる。	(7) 単位円を用いて、 $x=1$ とすることで $\tan \theta = y$ 、となるため、図を用いて解くことができることを考えられる。	(1) $0^\circ < \theta < 180^\circ$ のとき $\tan \theta = \sqrt{3}$ を満たす θ を図示し解くことができる。 (7) 鈍角の $\cos \theta, \tan \theta$ を負の値で表すことができる。	(7) $\tan \theta$ が負の場合も図示することができる。 (1) $0^\circ < \theta < 180^\circ$ のとき $\sin \theta$ の値が与えられたとき、 $\cos \theta, \tan \theta$ の値は2通り出てくることが理解できる。

小単元	配当時間	1 単位時間の授業における評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解
正弦定理・余弦定理	6	(ア) 三角形の角と辺にどんな関係が成り立っているか興味を持ち、具体的な問題に取り組もうとする。	(ア) 中学で履修した円周角や中心角の性質を利用し正弦定理が導かれることを考えることができる。 (イ) 三平方の定理を利用し余弦定理が導かれることを考えることができる。	(ア) 正弦定理の公式を用い、外接円の半径や辺の長さを求めることができる。 (イ) 余弦定理の公式を用い、辺の長さや角の大きさを求めることができる。	(ア) 与えられた条件から AB C の図をかき、必要な条件を自分で導くことができる。 例「 $A=60^\circ$ 、 $b=75^\circ$ 、 $a=2$ のとき c の値を求めよ」 (イ) $\cos\theta$ の符号から角の種類が判別できる。 (ウ) 正弦定理と余弦定理を使い分けることができる。
正弦定理・余弦定理の応用	8	(イ) 正弦定理や余弦定理が測量に用いられることに関心を持ち、具体的な問題に取り組もうとする	(ウ) 与えられた条件を三角形に当てはめ、正弦定理や余弦定理を使い測量などに用いられることを考えることができる。	(ウ) $\sin A:\sin B:\sin C=7:5:3$ から $a:b:c=7k:5k:3k$ とおけることで余弦定理を利用し、角の大きさを求めることができる。	(イ) k の持つ意味を理解できる。
		(ウ) 空間図形の断面が三角形のとき正弦定理や余弦定理を利用でき応用できることに興味を持つ。		(イ) 与えられた条件から三角形を図示し、辺の長さや角の大きさを求めることができる。 (オ) 正四面体のそれぞれの角の大きさや線分の長さを求めることができる。	(オ) 空間図形をうまく図示する、あるいはきちんと頭の中でイメージされている。
三角形の面積	2	(ア) 三角形の面積を、三角比を用いて表すことに興味を持ち、積極的に取り組もうとしている。	(ア) 三角形の高さが $\sin\theta$ を用いて表されるので、 $S=\frac{1}{2}bc\sin A$ となることを考えることができる。	(ア) 2 辺とその間の角が与えられたとき三角形の面積を求めることができる。 (イ) 3 辺が与えられた三角形から正弦定理と余弦定理を使い、面積を導くことができる。	(ア) ヘロンの公式を使うことができる。(理解されている) 三角形の内接円の面積は $S=\frac{1}{2}r(a+b+c)$ で表されることが理解できる。
相似な図形の面積比・体積比及び立体の表面積比・体積比	3	(イ) 相似比と面積比・体積比の関係に興味関心を持ち、積極的に取り組もうとする。	(イ) 相似な三角形の面積比を求めれば、すべての図形に当てはまることを考えることができる。	(ウ) 円に内接する正六角形と外接する正六角形の面積比を求めることができる。 (イ) 円錐、角錐の体積比、表面積比を求めることができる。	

小単元	配当時間	1 単位時間の授業における評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解
相似な図形の面積比・体積比及び立体の表面積比・体積比	3	(ウ) 相似比と面積比・体積比の関係に興味関心を持ち、積極的に取り組もうとする。	(ウ) 相似な三角形の面積比を求めれば、すべての図形に当てはまることを考えることができる。	(オ) 円に内接する正六角形と外接する正六角形の面積比を求めることができる。 (カ) 円錐、角錐の体積比、表面積比を求めることができる。	
空間図形の計量	3	(イ) 正四面体の体積に興味関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。 (オ) 球の体積、表面積に興味関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。	(イ) 三平方の定理、正弦定理を使い、1辺の長さが与えられた正四面体の体積を求めることができる。 (オ) カヴァリエリの定理を利用し半球の堆積を求めることができる。	(キ) 1辺の長さが1である正四面体の体積を求めることができる。また1辺が a の場合との体積比を考えることができる。 (ク) 公式を利用し、球の体積、表面積を求めることができる。	(イ) カヴァリエリの定理の意味を理解できている。 (ウ) 積分の考え方が含まれていることを紹介する。
三角比の相互関係	3	(ア) 三角比の相互関係を利用しさまざまな問題に意欲的に取り組もうとする。	(ア) $\sin(90^\circ - \theta) = \cos \theta$ $\cos(90^\circ - \theta) = \sin \theta$ $\tan(90^\circ - \theta) = \frac{1}{\tan \theta}$ または 鈍角の三角比を鋭角の三角比で表すことで θ の値を合わせることができる。	(ア) $\sin^2 40^\circ + \sin^2 50^\circ$ 等の値を求めることができる。	(ア) $\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$ をつかうために θ の値を合わせることができる。 (イ) $(\sin \theta + \cos \theta)^2$ の展開が正確にできる。
三角不等式	4	(イ) 三角方程式から発展させ三角不等式に意欲的に取り組もうとする。	(イ) 単位円を用いて、図をかくことで解けることを考えられる。	(イ) $\sin \theta > \frac{1}{2}$ $\cos \theta < -\frac{1}{\sqrt{2}}$ $\tan \theta > \frac{1}{\sqrt{3}}$ をそれぞれ図示して解くことができる。	(ウ) $0^\circ < \theta < 180^\circ$ で考えているが、単位円を利用することでそれ以上にも拡張できることが予想できる。
正弦定理・余弦定理の応用	4	(ウ) 円に内接する四角形のそれぞれの辺の長さや角の大きさを意欲的に求めようとする。	(ウ) 円に内接する四角形の対角の和が 180° であることから、うまく $\sin(180^\circ - \theta) = \sin \theta$ 等利用できる	(ウ) 半径1の円に内接する四角形 $A B C D$ において $A B = \sqrt{3}, D = 75^\circ, C = 120^\circ$ であるとき、 $\angle A D B$ と $\angle D A C$ の大きさと線分 $C D, A C$ の長さを求めることができる。	(イ) 求めた値を図に書き込み、正弦定理、余弦定理を使って各値を求められる。

【補充資料2】 1 単位時間ごとの指導計画・評価シート

科目名 数学 (単位数) 4	担当学年・クラス 指導生徒数	1年 名	組											
指導する内容のまとめり(単元) 図形と計量 本時の指導範囲(47時間中 3時間目) 三角比 本時の指導目標 文章問題を解くことにより、三角比が普段の身の回りの生活に応用できることを理解させる。														
教科書の範囲 P102 ~P103 副教材(問題集)の使用部分 本時間は使用しない														
特に評価する観点とその評価規準														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">四観点</th> <th style="width: 40%;">関心・意欲・態度</th> <th style="width: 35%;">表現・処理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> おおむね満足できる状況 </td> <td style="vertical-align: top;"> (ア) 中学で学習した直角三角形の比を思い出し、具体的な問題に意欲的に取り組もうとする。 </td> <td style="vertical-align: top;"> (イ) 具体的な例を、図をかく事により適切に処理できる。 「鉄塔の先端の真下から 20m はなれた地点から塔の先端を見上げると水平面とのなす角が 40° のとき等の高さを求めよ。」 </td> </tr> </tbody> </table>				四観点	関心・意欲・態度	表現・処理	おおむね満足できる状況	(ア) 中学で学習した直角三角形の比を思い出し、具体的な問題に意欲的に取り組もうとする。	(イ) 具体的な例を、図をかく事により適切に処理できる。 「鉄塔の先端の真下から 20m はなれた地点から塔の先端を見上げると水平面とのなす角が 40° のとき等の高さを求めよ。」					
四観点	関心・意欲・態度	表現・処理												
おおむね満足できる状況	(ア) 中学で学習した直角三角形の比を思い出し、具体的な問題に意欲的に取り組もうとする。	(イ) 具体的な例を、図をかく事により適切に処理できる。 「鉄塔の先端の真下から 20m はなれた地点から塔の先端を見上げると水平面とのなす角が 40° のとき等の高さを求めよ。」												
評価する方法 関心・意欲・態度... 観察法(三角比を考えるために、図形をノートに書いているか観察する) 表現・処理... 観察法とテスト法(演習問題をやらせる)														
評価の結果														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="width: 30%;">評価結果</th> <th style="width: 35%;">十分満足できる状況(A)</th> <th style="width: 35%;">努力を要する状況(C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 評価の観点 </td> <td>関心・意欲・態度</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td></td> <td style="text-align: center;">、</td> </tr> </tbody> </table>				評価結果		十分満足できる状況(A)	努力を要する状況(C)	評価の観点	関心・意欲・態度			知識・理解		、
評価結果		十分満足できる状況(A)	努力を要する状況(C)											
評価の観点	関心・意欲・態度													
	知識・理解		、											
C と評価した生徒の原因、事後指導の計画 ・ まったく図がかげず、進んでいない。厚紙で作った三角形を移動させ、それを参考にノートに作図させる。														
反省及び次時への指導改善のポイント ・ ゆっくり説明したつもりだが、全体的に理解度が低かった。もっとヒントを与えながら、具体的な図をかけるようにさせたい。														

【補充資料 2 - 】 アンケートと結果

数学の授業の進め方に関する意識調査

年 組 番氏名

このアンケートは、これからのみなさんの学習に役立てるものです。テストではありませんので、自分の思ったとおりに書いてください。

設問 1 あなたは、三角比の授業のとき、十分に考える時間が与えられたときがあったと思いますが、このような授業の進め方は学習を理解し易くさせると感じますか。次のア～オの中から、1つ選んで()に をつけてください。「オ その他」の()に をつけたときは、その内容を下の に書いてください。

- ア () そう思う。
 イ () どちらかといえばそう思う。
 ウ () どちらかといえばそう思わない。
 エ () 思わない。
 オ () その他

設問 2 あなたは、三角比の授業や普通の授業で小テストをおこなったとき、自己採点をするのがありましたが、そのとき自己採点をしてみて、授業が理解し易くなったと感じますか。次のア～オの中から、1つ選んで()に をつけてください。「オ その他」の()に をつけたときは、その内容を下の に書いてください。

- ア () そう思う。
 イ () どちらかといえばそう思う。
 ウ () どちらかといえばそう思わない。
 エ () 思わない。
 オ () その他

設問 3 あなたは第 2 章 2 次関数と第 3 章 図形と計量 (三角比) の授業の進め方についてどのように感じましたか。自分に当てはまるものを 1つ選んで()に をつけてください。

- ア () 二次関数のときの授業の進め方より、三角比の授業の進め方のほうがよい。
 イ () どちらともいえない。
 ウ () 三角比の授業の進め方より、二次関数のときの授業の進め方のほうがよい。

項	目	ア	イ	ウ	エ	オ
設問 1	あなたは、三角比の授業のとき、十分に考える時間が与えられたときがあったと思いますが、このような授業の進め方は学習を理解し易くさせると感じますか	21(51.2%)	18(43.9%)	2(4.9%)	0	0
設問 2	あなたは、三角比の授業や普通の授業で小テストをおこなったとき、自己採点をするのがありましたが、そのとき自己採点をしてみて、授業が理解し易くなったと感じますか。	11(26.8%)	24(58.5%)	5(12.2%)	0	1(2.4%)

- ア そう思う
 イ どちらかといえばそう思う
 ウ どちらかといえばそう思わない
 エ 思わない
 オ その他

問 2 その時わかったものもあるし、今三期末のテストをやって分かったものもある

項	目	ア	イ	ウ
設問 3	あなたは、第 2 章 2 次関数と第 3 章 図形と計量 (三角比) の授業の進め方についてどのように感じましたか。自分に当てはまるものを 1つ選んで()に をつけてください。	27(65.6%)	12(29.3%)	2(4.9%)

- ア 二次関数のときの授業の進め方より、三角比の授業の進め方のほうがよい。
 イ どちらともいえない。
 ウ 三角比の授業の進め方より、二次関数のときの授業の進め方のほうがよい。

【補充資料 3 - 】年間指導計画

年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画

1 教科目標

教科	目 標
地理・歴史	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。

2 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的・地理的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的事柄を理解し、その知識を身に付けている。

3 各学年での指導科目と目標

1 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
世界史A	2	近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	全員必修
政治・経済	2	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。	全員必修

2 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
世界史B(選択) または 3	4 または 3	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	文系コースは4単位 理系コースは3単位
日本史B(選択) または 3	4 または 3	我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。	文系コースは4単位 理系コースは3単位
地理B(選択) または 3	4 または 3	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	文系コースは4単位 理系コースは3単位

3 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
政治・経済(選択) または 2	4 または 2	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。	文系コースは4単位 理系コースは2単位
世界史B(選択) または 2	4 または 2	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	文系コースは4単位 理系コースは2単位
日本史B(選択) または 2	4 または 2	我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。	文系コースは4単位 理系コースは2単位
地理B(選択) または 2	4 または 2	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	文系コースは4単位 理系コースは2単位

【補充資料 3 - 】年間指導計画

年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画					
科目・単位数・指導学年		目 標			
日本史 B 4 単位 2 学年		我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。			
使用教科書		使用副教材			
評価規準					
関心・意欲・態度		思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解	
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。		我が国の歴史の展開から課題を見出し、世界史適視野に立って多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。	
内容のまとめり（単元）ごとの内容と評価規準及び評価規準の具体例					
内容のまとめり（単元） （ 3 ）中世の社会・文化と東アジア ア 武家政権の成立					
内 容		武士の土地支配と公武関係、宋・元とのかかわりに着目して、武家政権の形成過程と鎌倉心仏教など文化に見られる新しい気運について理解させる。			
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
評価規準		武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開から課題を見だし、東アジア世界の動向と関連づけて多面的・多角的に考察している。	武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開に関する諸資料を活用することや、博物館や文化遺産を活用することなどを通して、歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現している。	武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開についての基本的な事柄を東アジア世界の動向と関連づけて理解し、その知識を身に付けている。
評価規準の具体例		<ul style="list-style-type: none"> ・ 武家政権の形成過程と鎌倉心仏教など文化に見られる新しい気運に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。 ・ 産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武家政権の形成過程と鎌倉心仏教など文化に見られる新しい気運から課題を見だし、武士の土地支配と公武関係、宋・元との関わりと関連付けて多面的・多角的に考察している。 ・ 産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化の関わりや庶民文化の萌芽など文化の動向から課題を見だし、日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との交流、庶民の台頭と関連付けて多面的・多角的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武家政権の形成過程と鎌倉心仏教など文化に見られる新しい気運に関する文献、絵画などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現している。 ・ 産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向に関する文献、絵画などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武家政権の形成過程と鎌倉心仏教など文化に見られる新しい気運についての基本的な事柄を宋・元との関わりと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 ・ 産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開及び武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽など文化の動向についての基本的な事項を日明貿易など東アジア世界との交流と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

平成17年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画 (教科: 日本史B)					
指導学年	単位数	内容のまとめり(単元)			
2学年	4	(例) 第4章 中世社会の成立			
小単元	配当時間	1 単位時間の授業における評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
第4章の3 (武士の社会) 導入 展開 まとめ	2 (その1)	<p>事前学習プリントに、関心をもって取り組もうとしている。</p> <p>執権政治の確立の過程に関心を持ち、積極的に当時の時代感覚に近づこうとしている。</p> <p>御家人達の土地への強い思いに対して関心を高め、意欲的に追究しようとしている。</p> <p>北条政子の切迫した思いと、武士たちの動揺する心情に対して関心を高め、意欲的に追究しようとしている。</p> <p>学習したことを基にして、さらに新しい課題を見つけようとしている。</p>	<p>「一生懸命」は元々「一所懸命」と書かれていたことから、武士達にとって、土地の持つ意味の重要性について考察している。</p> <p>御家人立ちの將軍専政への不信感が、御家人立ちの合議制へとつながっていった事を考察している。</p> <p>北条政子が涙の演説をしなければならぬほど、幕府の状況が緊迫していたことを考察している。</p> <p>摂家將軍が頼朝との血縁関係にあることから、源氏の系統を將軍にしようとする幕府の配慮について考察している。</p> <p>承久の乱が、朝廷に対する幕府の優位の確立と、地方支配の拡充をもたらした、幕府政権の全国化につながった点を考察している。</p>	<p>自己評価シートや事前学習プリントに回答し、レーダーチャートを作成する。</p> <p>北条政子の演説を、現代語に訳して、調べた過程や結果を分かりやすく、適切に表現している。</p> <p>摂家將軍と頼朝の関係を系図を利用して説明できる。また、血縁関係にあることが何を意味するのかを自分の言葉で表現できる。</p> <p>資料等を適切に活用しているかを、発表や学習プリントをとおして評価する。</p> <p>学習活動で理解した内容や、授業で身につけた思考力等を表出できるかを確認する。</p>	<p>事前学習プリントの基礎的な学習内容を理解できる。</p> <p>北条氏が執権として幕府の実権を握っていく過程を理解できる。</p> <p>承久の乱が幕府の存亡を賭けた戦いであったことを理解できる。</p> <p>北条氏が將軍の権威を維持するために、摂家將軍の擁立をはかったことを理解する。</p>
第4章の4 (蒙古襲来と幕府の衰退) 導入 展開 まとめ	2 (その1)	<p>事前学習プリントに、関心をもって取り組もうとしている。</p> <p>事前学習プリントから、元寇に対する関心を高め、意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>初めて戦う外国の軍隊に対して、武士達が当惑しながらも努力した心情に近づこうとしている。</p> <p>学習したことを基にして、さらに新しい課題や問題意識を見つけようとしている。</p>	<p>蒙古襲来の恐ろしさが、岩手の方言にも「もう」の話として残っていることについて考察している。</p> <p>何故、元が日本を攻撃したかについて、南宋を牽制する目的だったことを地図などを見ながら考察することができる。</p> <p>元寇後、幕府の支配権が全国に拡大するにつれて、北条氏の支配権の拡大もおこり、それが、御内人と御家人の対立を生んでいく背景になったことを考察している。</p>	<p>事前学習プリントに、関心をもって取り組もうとすることができる。</p> <p>蒙古襲来絵巻から元軍と武士の戦いの違いを説明できる。</p> <p>蒙古襲来絵巻を竹崎季長が描かせた理由を考えることができる。</p> <p>資料などから、必要な情報を読み取れているかを、発表や学習プリントをとおして評価する。</p>	<p>事前学習プリントの基礎的な学習内容を理解できる。</p> <p>元寇の失敗の原因は、自然が味方しただけでなく、征服された国々の抵抗や、九州の武士たちの奮闘があったためであることを理解できる。</p> <p>得宗の強大化が霜月騒動の背景となったことを理解できる。</p>

【補充資料 3 - 】授業者用評価シート

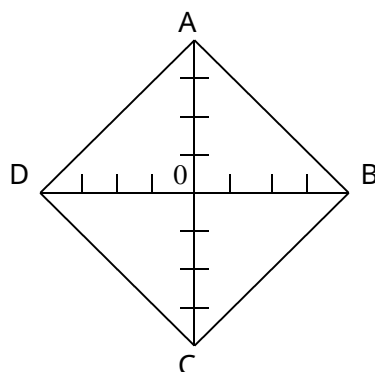
「第 4 章 3 武士の社会」(配当 2 時間)

質 問		生徒の実態	備 考
	【関心・意欲・態度】		
1	武士に関する関心	解答率 167 ÷ 75 人 ÷ 4 点 = 55,7 %	
2	鎌倉時代の政治に関する興味 (北条氏の権力拡大)		
3	生活史・精神生活		
4	中世と地域との関わり		
	【思考・判断】		
5	中世からの影響 (四字熟語)	解答率 110 ÷ 75 人 ÷ 4 点 = 36,7 %	
6	史料の読解 (北条政子の演説・承久の乱)		
7	現代との共通点 (専制政治の崩壊・連立政権)		
8	地頭の勢力拡大に対する荘園領主の対抗策 (下地中分など)		
	【技能・表現】		
9	人物への共感 (北条政子の演説)	解答率 161 ÷ 75 人 ÷ 4 点 = 53,7 %	
10	系図史料からの読み取り (頼朝の系図)		
11	実力者の記述 (北条氏の系図)		
12	武士の生活 (一遍上人絵伝)		
	【知識・理解】		
13	政治の知識 (執権)	解答率 104,5 ÷ 75 人 ÷ 4 点 = 34,8 %	
14	戦乱の知識 (承久の乱)		
15	政治の知識 (六波羅探題)		
16	〃 (連署)		
17	〃 (評定衆)		
18	司法の知識 (貞永式目)		
19	司法の知識 (引付衆)		
20	経済の知識 (下地中分)		

【生徒の実態】

- ・ 関心や意欲はまずまず高い。
- ・ 技能や表現力には自信を持っているようだ。
- ・ 事前アンケートからも、中学時代に習った学習内容をかなり忘れている実態が明らかだった。そのため、思考・判断力・知識・理解が低くなったのではないか。
- ・

【生徒の実態レーダーチャート】



【補充資料3 - 】生徒自己評価シート

「第4章3 武士の社会」(配当2時間)

2年 組 番 氏名 _____

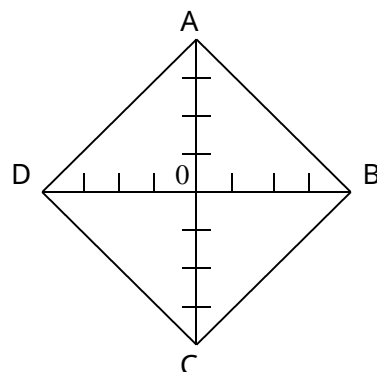
質 問			
1	貴族よりも武士が好きだ。	はい	いいえ
2	北条氏が幕府の実権を握る経緯を知りたい。	はい	いいえ
3	鎌倉時代の武士の生活ぶりを知りたい。	はい	いいえ
4	中世の地名の名残を知っている。	はい	いいえ
	合計A		
5	「一生懸命」はもともと何と書かれていたかを知っている。	はい	いいえ
6	北条政子の演説から、当時の幕府の状況を理解できる。	はい	いいえ
7	若い為政者が年上の家来達を上手くコントロールできる術を知っている。	はい	いいえ
8	地頭の力が拡大すると困るのは誰かを知っている。	はい	いいえ
	合計B		
9	北条政子の演説を現代語訳できる。【史料集 P107】	はい	いいえ
10	摂家将軍と源頼朝のつながりを系図から読み取れる。【教科書 P94】	はい	いいえ
11	北条氏の歴代の当主の系図を書ける。【教科書 P93】	はい	いいえ
12	武士の館の図から当時の生活の特徴を読み取り、発表できる。【資料集 P106】	はい	いいえ
	合計C		
13	北条時政から始まる幕府の実権を握る地位を知っている。	はい	いいえ
14	幕府が朝廷に優位に立った戦いの名前とその結果を知っている。	はい	いいえ
15	(14) の戦いの後に、幕府が京都に置いた機関を知っている。	はい	いいえ
16	(13) を補佐する役職を知っている。	はい	いいえ
17	御家人たちの合議制のための機関を知っている。	はい	いいえ
18	武家初の法典を知っている。	はい	いいえ
19	土地問題を専門に扱う幕府の裁判所を知っている。	はい	いいえ
20	地頭の荘園侵略への荘園領主の対抗策を知っている。	はい	いいえ
	合計D		

【自己分析】

ポイント

A	
B	
C	
D (0,5 ポイント = 1点)	

【自己分析レーダーチャート】



【補充資料3 - 】生徒自己分析シート

「第4章3 武士の社会」(配当2時間)

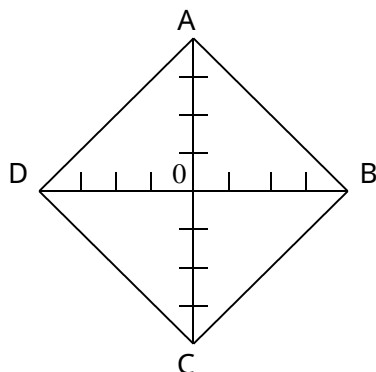
2年 組 番 氏名 _____

質 問			
1	貴族よりも武士が好きになった。	はい	いいえ
2	北条氏が幕府の実権を握る経緯がわかった。	はい	いいえ
3	鎌倉時代の武士の生活ぶりがわかった。	はい	いいえ
4	中世の地名などの名残を身近な所でも捜してみたい。	はい	いいえ
合計 A			
5	「一所懸命」から、武士の土地に対する思いが理解できた。	はい	いいえ
6	北条政子の演説から、当時の幕府の状況が理解できた。	はい	いいえ
7	2代将軍頼家は年長の家来達を尊重し、幕府を運営するべきだったとわかった。	はい	いいえ
8	地頭の力が拡大すると困るのは誰かがわかった。	はい	いいえ
合計 B			
9	北条政子の演説を政子になりきって現代語で表せ、発表できた。	はい	いいえ
10	撰家将軍と源頼朝のつながりを系図から読み取れた。	はい	いいえ
11	北条氏の歴代の当主の系図を書けた。	はい	いいえ
12	武士の館の図から当時の生活の特徴を読み取り、発表できた。	はい	いいえ
合計 C			
13	北条時政から始まる執権の役職を知っている。	はい	いいえ
14	幕府が朝廷に優位に立った戦いの名前とその結果を知っている。	はい	いいえ
15	(14) の戦いの後に、幕府が京都に置いた機関を知っている。	はい	いいえ
16	(13) を補佐する役職を知っている。	はい	いいえ
17	御家人たちの合議制のための機関を知っている。	はい	いいえ
18	武家初の法典を知っている。	はい	いいえ
19	土地問題を専門に扱う幕府の裁判所を知っている。	はい	いいえ
20	地頭の荘園侵略への荘園領主の対抗策を2つ知っている。	はい	いいえ
合計 D			

【自己分析】 合計点 自由記述欄 (理解できた所、復習が必要な所、その他何でもよい)

A		
B		
C		
D (0,5 ポイント = 1 点)		

【自己分析レーダーチャート】



【補充資料3 - 7】日本史学習指導案例

教科(科目)	日本史B	単元名	武士の社会
本時主題	北条氏の台頭、承久の乱 (1時間目/2時間)		
本時の目標	<p>「一所懸命」の言葉の由来から、封建制度の前提である土地の給与の重要性を理解し、鎌倉幕府が御家人の合議制に移行し、さらに北条氏への権力集中により執権制度が確立していく過程の理解を通して、歴史とそれを作り上げる人間への関心・それらを学ぶ意欲を高め、積極的な学習態度を持つ。 【関心・意欲・態度】</p> <p>鎌倉幕府にとって、承久の乱が存亡の危機であったことを、北条政子の心情を通して理解し、朝廷側と幕府側の駆け引きを史料を通して学び理解を深める。 【思考】【表現・技能】【意欲・態度】</p> <p>武家政権を存続させるために、幕府が頼朝に近い血縁の摂家将軍を擁立し、政権の面目を保ちながら、一方で実質的な武士による支配を強めていく事実を資料を通して理解する。 【思考・判断】</p> <p>承久の乱をきっかけに、公武関係でも、鎌倉幕府が当初の二元的支配から公家政権に優位にたち、土地の実質的な支配権も地頭の手握られるようになったことで、東国の地方政権から全国的な政権に成長していった点を理解させる。 【思考・判断】</p>		
指導上の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
<p>・ 執権政治を通して、鎌倉幕府が封建制度を確立し、政権を存続させていく過程を理解させる。</p> <p>・ 幕府存亡の危機である承久の乱を史料を通して、登場人物の気持ちになって理解させる。</p> <p>・ 將軍家の血筋を守ることが武家政権存続の重要な要素になっていたことを系図を通して理解する。</p> <p>・ 承久の乱の勝利が鎌倉幕府の政権に持つ意味を理解する。</p> <p>・ 武家政権が名実共に確立した理由を、執権政治を中心にして考える。</p>	<p>頼朝の死後の2代将軍への不信の高まりと御家人中心の合議制への移行を理解 北条氏の他氏排斥と権力集中の過程の理解</p> <p>質問1 『一生懸命』はもともと『一所懸命』と書かれていた。にあてはまる言葉は何か。その意味は。</p> <p>・ 一所懸命の「所」は所領(土地)のことで、武士にとって命を懸けて守るほど重要な点を理解する。 ・ 北条氏の執権制の確立には、御家人の合議制の推進、と北条氏の他氏排斥による権力の集中、の2面あったことを理解する。 ・ 執権の言葉の由来と意味を理解する。</p> <p>承久の乱の概要の理解</p> <p>質問2 北条政子の演説の内容から、鎌倉幕府がどのような状況だったといえるか。</p> <p>・ 武家政権としての鎌倉幕府は、この時点でも公家政権を圧倒するものではなく、この乱で幕府最大の危機を迎えていたことを理解する。 ・ 3代将軍実朝の朝廷側への接近が御家人達から憂慮される事態だったことを理解する。</p> <p>頼朝の血縁が絶えた後の鎌倉幕府存続への手だての理解</p> <p>質問3 摂家将軍と頼朝の系図を見て、理解できることは何か。</p> <p>・ 摂家将軍が頼朝の縁に繋がっていることを系図で確認し、源氏の系統を何とか将軍に残そうとした幕府の配慮を読みとる。</p> <p>承久の乱が、鎌倉幕府の支配権が東国のみならず全国化していく要因になっている点を理解</p> <p>・ 朝幕関係での幕府優位の確立(二元的支配の克服) ・ 地方支配の拡充(所領の没収、新補地頭の任命)</p> <p>質問4 なぜ幕府が公家政権に対し優位にたてたのか、本時の学習から考えなさい。</p> <p>・ 本時の学習内容から、鎌倉幕府が公家政権に優位にたつた要因を推察する。 ・ 次時への問題提起。</p>	<p>質問1・・・「所」が何を意味するのかを考えながら、2代頼家の所領裁判の判決でのいい加減さの「ソド」をあげ、御家人達の「土地(所領)」への強い思いを理解させる。 【関】</p> <p><評価方法> 発問、挙手、発表</p> <p>質問1で、2代頼家の専政への不信感が御家人達の合議体制に繋がったことを理解する。また、現代政治でも「連立」が権力維持の重要な要素になっている事を考えさせる。 【思】</p> <p>質問2・・・ 政子の演説を事前に現代語に書き直させ、班毎に発表させる。【表・技】 プリントに自分の考えを記入させ、意見発表させる【思】・【表・技能】</p> <p><評価方法> ・ 各自作成した現代語訳を事後提出する。 ・ 各班で一番良いと評価されたものをクラス全員の前で発表させる。他の生徒の発表を聞いて、再度書き直す。 【相互評価・自己評価】 プリントの事後提出で確認する。</p> <p>質問3・・・プリントに自分の考えを記入させる。 【技・表】 意見を発表させて理解を徹底させる。【思】</p> <p><評価方法> プリント記入、挙手、発表</p> <p>幕府全国化の根拠となる政治上、経済上のポイントを確認する。【思】</p> <p>質問4・・・ 本時の学習内容の確認と次時以降の問題提起を行う。 【思】</p> <p><評価方法> プリント記入、意見発表</p>	

【補充資料 3】 雪中の悲劇 ～三代將軍実朝の暗殺～

一二一九年（承久元）正月二十七日。昼は晴れていたのに、鎌倉は夜に入って大雪になった。その中で、鶴岡八幡宮では、右大臣となった將軍実朝の就任拝賀の式典が盛大にとりおこなわれていた。夜も更けた。参列のために京都から下ってきた公卿たちが立ち並んでいる前を、たいまつを振りながら先導する前驅の者が通りすぎる。その後から、参拝を終わらせた右大臣実朝がゆつくりと石段を下ってきた。まだ二十八歳、若々しく育ちのよい貴公子である実朝は、愛妻の兄、坊門忠信らに一礼して歩みすぎた。

そのときである。頭巾をかぶった法師が突然走り寄り、実朝が引きずるようにして歩いてきた下がさねの衣の上に飛び乗ったかと思うと、やにわに「親の敵はかく討つぞ」とさげんで、実朝の頭部に一太刀あびせた。しやくを持ったまま雪中に転倒した実朝にとどめをさし、その首を打ちおとした。ほとんど同時に、三、四人の法師がばらばらと走り出て、供の者たちを追い散らし、前驅としてたいまつを振っていた側近の一人、源仲章めがけておそいかかった。仲章もたちまち討ちとられた。

じつにあつたという間の出来事だった。数千の武士はすべて鳥居の外に控えており、その場には誰一人武装した者はいない。雪中の悲劇は、かくしていともたやすく演じ終えられた。

血相をかえて逃げまどう公卿たちの悲鳴に、変事をさとした武士たちは、すぐさま境内に突入したが、八幡宮の石段の上から、「われこそは八幡宮別当阿闍梨 公暁なるぞ。父の敵を討ちとつたり」と暗闇をつらぬく大音声を聞いただけであつた。

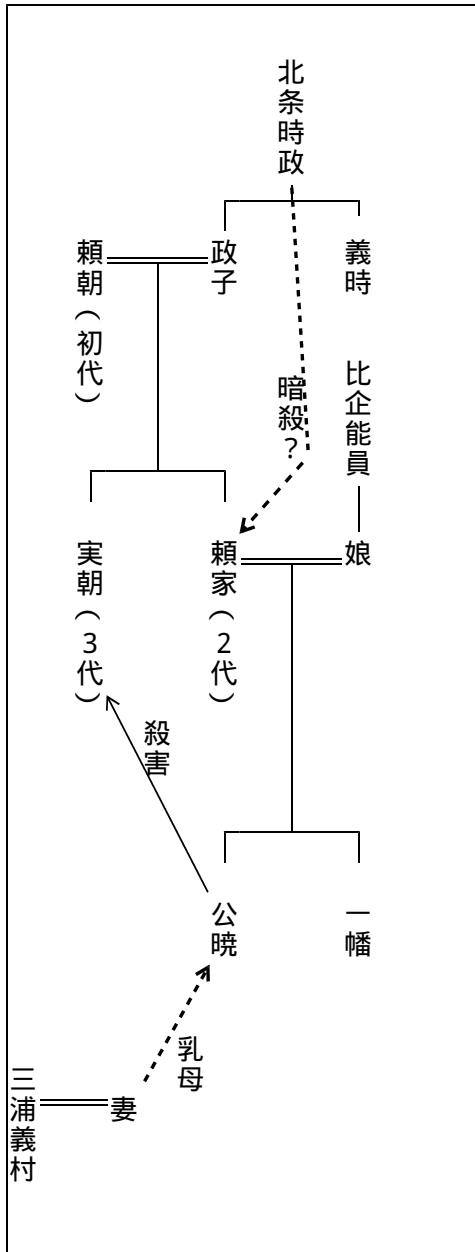
実朝の首をとつた公暁は、引きあげてから食事の間もその首を小脇から離さず、やがて使者を三浦義村の屋敷につかわし、「今こそ我は東国の大將軍である。その準備をせよ」と言い送った。義村は偽って承諾の返事をし、「お迎えの武士をさしあげます」と言いながら、武勇のほまれ高い従者をつかわして公暁を討たせた。義村からの迎えを待っていた公暁はついに待ちきれず、一人、雪深い山道を越え、義村の屋敷に向かう途中、討手に行き会った。はげしく戦ったが、公暁も頼家の子で、為朝の血筋を引いているだけあつて、勇猛なこと人に優れており、討手を切り散らしたつ、義村の家の板塀までたどりついた。しかし、塀を越えようとするとところをついに討ち取られた。

『吾妻鏡』によれば、北条義時は本来、実朝の側近くで剣を捧げる役だったのが、参拝の始まる直前に、「気分が悪くなつたから」といって、その役を仲章に譲り、にわかには帰宅して難を逃れた、という。これはまさしく事件を予知していた者の行動としか思われない。

今までの通説的見解では、北条義時が、ひそかに若い公暁をそそのかして実朝を暗殺させ、さらに一味の三浦義村に命じて公暁を葬つたというものだったが、作家の永井路子氏は歴史小説『環』で次のような解釈を示した。

公暁の背景にあつたのは三浦義村である。義村は、実朝と義時の二人を暗殺させたのち、公暁を將軍に立て、みずから幕府の実権を握る計画であつた。しかし、いち早くそれを察知した義時がその場を逃れてしまつたため、計画はくずれた。義村はただちに裏切つて公暁を殺し、一身の安全をはかつたのである、と。

義村の妻は公暁の乳母であり、その子光村は鶴岡八幡宮の稚児で、公暁の門弟であつた。義村と公暁の縁故は深かつたのである。実朝と義時を一時に暗殺してしまえば、あとは公暁を將軍に立て、乳母の夫である義村が今の北条氏の立場に立つて幕府の実権を握るのはいたつて容易なはずである。



【補充資料4 - 】年間指導計画

年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画

1 教科目標

教科	目標
外国語	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。

2 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話したり、書いたりして表現する。	外国語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとすることを理解する。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。

3 各学年での指導科目と目標

1 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
英語	3	日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	全員必修
オーラルコミュニケーション	2	日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	全員必修

2 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
英語	2	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	全員必修
ライティング	4	情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	選択必修

3 学年

科目	単位数	科目の目標	備考
英語	2	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	全員必修
リーディング	4	英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解する能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	選択必修

【補充資料4 - 】年間指導計画 (英語)

英語は英語に準じて、リーディング、ライティングは英語の関連領域の内容を参考とする

年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画

教科目標 日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

評価の観点及びその趣旨	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	日常的な話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解する。	日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。

評価の観点の趣旨 内容のまとめ ごとの学習内容		関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
聞くこと	英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。	「聞くこと」の言語活動に積極的、主体的に取り組んでいる。 ・相手を見て話を聞いたり、必要に応じてメモを取るなど、相手の話に関心をもっている。 ・聞いたことについてジェスチャーや簡単なことばで応答したりしている。 ・聞いた内容について意見や感想を述べようとしている。	日常的な話題についての英語を正しく音読したり暗唱したりすることができる。 ・日常の話題についての英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読したり暗唱したりすることができる。	日常的な話題についての英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとするを正確に理解することができる。 ・日常の話題についての英語を場面や目的に応じて適切に聞きとることができる。	言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	評価規程の具体例	(言語活動への取り組み) ・理解できないところがあっても、推測するなどして聞き続ける。 ・理解できないとき、確認したり、繰り返しや説明を求めたりしている。 (コミュニケーションの継続) ・必要に応じて辞書などを活用している。	(正確な音読) ・正しいリズムやイントネーションなどを用いて、音読したり暗唱したりすることができる。 (適切な音読) ・文章の意味や作者の意向などを考えて適切に音読したり暗唱したりすることができる。	(正確な聞き取り) ・リズムやイントネーションなど基本的な英語の音の特徴をとらえ、正しく聞き取ることができる。 ・聞いた内容について正しく理解することができる。 (適切な聞き取り) ・聞いた内容について概要や要点を把握することができる。 ・さまざまな口調や速度で話されたり読まれたりする英語の内容を聞きとることができる。	(言語についての知識) ・連音や音変化などを聞き分ける知識がある。 ・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。 ・場面や状況に応じた表現を知っている。 ・「聞くこと」に用いられる語句や文法を知っている。 (文化についての知識) ・ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段の役割や用い方を理解している。 ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
読むこと	英語を読んだりして、情報や書き手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。	「読むこと」の言語活動に積極的、主体的に取り組んでいる。 ・さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを主体的に続けようとしている。	日常の話題について英語で情報や考えなどを正しく話すことができる。 ・日常の話題について、場面や目的に応じて適切に話すことができる。	日常の話題についての英語を正しく音読したり暗唱したりすることができる。 ・日常の話題についての英語を場面や目的に応じて適切に読みとることができる。	言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	評価規程の具体例	(言語活動への取り組み) ・必要に応じてメモを取るなど、読んで内容に関心をもっている。 ・読んだ内容について意見や感想を述べようとしている。 ・必要に応じて辞書などを活用している。 ・音読や暗唱に積極的に取り組んでいる。 (コミュニケーションの継続) ・理解できないところがあっても、推測するなどして読み続けている。	(正確な音読) ・正しいリズムやイントネーションなどを用いて、音読したり暗唱したりすることができる。 (適切な音読) ・文章の意味や作者の意向などを考えて適切に音読したり暗唱したりすることができる。	(正確な読みとり) ・書かれた内容について概要や要点を把握することができる。 ・文や文章を目的に応じた適切な速さで読みとることができる。 (適切な読みとり) ・読んだ内容について概要や要点を把握することができる。 ・文や文章を目的に応じた適切な速さで読みとることができる。	(言語についての知識) ・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。 ・文字や符号を識別する知識を身に付けている。 ・場面や状況に応じた表現を知っている。 ・文章の流れについての知識がある。 ・「読むこと」に用いられる語句や文法を知っている。 (文化についての知識) ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
話すこと	聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、話したり意見の交換をしたりする。	「話すこと」の言語活動に積極的、主体的に取り組んでいる。 ・さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを主体的に続けようとしている。	日常の話題について英語で情報や考えなどを正しく話すことができる。 ・日常の話題について、場面や目的に応じて適切に話すことができる。	日常の話題についての英語を正しく音読したり暗唱したりすることができる。 ・日常の話題についての英語を場面や目的に応じて適切に読みとることができる。	言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	評価規程の具体例	(言語活動への取り組み) ・間違えることを恐れず自分の考えなどを話している。 ・言語活動において、自ら学んだ表現や進んで集めた情報などを使って話している。 ・ペア・ワークやグループ・ワークなどにおいて積極的に話したり意見の交換をしている。 (コミュニケーションの継続) ・うまく言えないところがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。 ・つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている。	(正確な発話) ・正しいリズムやイントネーションなどを用いて、話すことができる。 ・文法に従って正しく話すことができる。 ・伝えたい情報や考えなどを正確に話すことができる。 (適切な発話) ・伝えたい内容、場面、相手、目的などに応じて語句や表現を選択し適切に話すことができる。 ・相手の発話に対して適切に回答することができる。 ・場面や目的に応じて適切な速さや声の大きさを話すことができる。 ・相手の理解を確認しそれに応じて話すことができる。	(適切な発話) ・伝えたい内容、場面、相手、目的などに応じて語句や表現を選択し適切に話すことができる。 ・相手の発話に対して適切に回答することができる。 ・場面や目的に応じて適切な速さや声の大きさを話すことができる。 ・相手の理解を確認しそれに応じて話すことができる。	(言語についての知識) ・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。 ・場面や状況に応じた表現を知っている。 ・「話すこと」に用いられる語句や文法を知っている。 (文化についての知識) ・ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段の役割や用い方を理解している。 ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
書くこと	聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、整理して書く。	「書くこと」の言語活動に積極的、主体的に取り組んでいる。 ・さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを主体的に続けようとしている。	日常の話題について、得た情報や自分の考えを正しく書くことができる。 ・日常の話題について、場面や目的に応じて、英語で適切に書くことができる。	日常の話題についての英語を正しく音読したり暗唱したりすることができる。 ・日常の話題についての英語を場面や目的に応じて適切に読みとることができる。	言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	評価規程の具体例	(言語活動への取り組み) ・間違えることを恐れず自分の考えなどを書いている。 ・自ら進んで書いたものを読み直し、意欲的に書き直したりしている。 ・自ら学んだ表現や進んで集めた情報などを使って書いている。 ・必要に応じて辞書などを活用している。 (コミュニケーションの継続) ・よりうまく伝えるように、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。 ・表現できないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。	(正確な筆記) ・文法に従って、正しく書くことができる。 ・伝えたい情報や考えなどを正確に書くことができる。 (適切な筆記) ・内容を整理し、必要な分量を書くことができる。 ・伝えたい内容、場面、読み手、目的などに応じて、語句や表現を選択し適切に書くことができる。 ・文のつながりや構成を考えた文章を書くことができる。	(適切な筆記) ・内容を整理し、必要な分量を書くことができる。 ・伝えたい内容、場面、読み手、目的などに応じて、語句や表現を選択し適切に書くことができる。 ・文のつながりや構成を考えた文章を書くことができる。	(言語についての知識) ・文字や符号などを使い分ける知識を身に付けている。 ・場面や状況に応じた表現を知っている。 ・文章構成についての知識がある。 ・「書くこと」に用いられる語句や文法を知っている。 (文化についての知識) ・日常の話題について、英語の学習で取り扱われた文化について理解している。

【補充資料4 - 】年間指導計画 (オーラルコミュニケーション)

年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画

教科目標	日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。			
評価の観点及びその趣旨	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
	コミュニケーションに関心をもち、英語を聞いたり話したりして積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	日常生活の身近な話題について、情報や考えなどを伝えたいことを英語で話したり、発表したりして表現する。	日常生活の身近な話題について、比較的平易な英語を聞いて、情報や考えなどを相手に伝えようとすることを理解する。	日常生活の身近な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。

評価の観点の趣旨 内容のまとまり ことの学習内容		関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
聞くこと 聞くこと	英語を聞いてその内容を理解するとともに、場面や目的に応じて適切に反応する。	「聞くこと/聞いて応じること」の言語活動に積極的に、主体的に取り組んでいる。 さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。	日常生活の身近な話題について、情報や考えなどを伝えたいことを英語で話したり、発表したりして表現する。	日常生活の身近な話題について、英語を聞いて、情報や考えなどを相手に伝えようとすることを正確に理解することができる。 日常生活の身近な話題について、場面や目的に応じて適切に聞くことと聞いて反応することができる。	日常生活の身近な話題について、「聞くこと/聞いて応じること」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 日常生活の身近な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	評価規程 の具体例	(言語活動への取り組み) ・相手を見て話を聞いたり、必要に応じてメモを取るなど、相手の話に関心をもっている。 ・聞いたことについてジェスチャーや簡単なことばで応答したりしている。 (コミュニケーションの継続) ・理解できないところがあっても、推測するなどして聞き続けている。 ・理解できないとき、確認したり、繰り返しや説明を求めたりしている。	(正確な聞き取り) ・リズムやイントネーションなど、基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ることができる。 ・聞いた内容について正しく理解することができる。 (適切な聞き取り) ・聞いた内容について大切な部分を把握することができる。 ・質問、依頼、指示などに対して、適切に応じることができる。 ・自然な口調で話されたり読まれたりする英語の内容を聞き取ることができる。	(正確な聞き取り) ・リズムやイントネーションなど、基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ることができる。 ・聞いた内容について正しく理解することができる。 (適切な聞き取り) ・聞いた内容について大切な部分を把握することができる。 ・質問、依頼、指示などに対して、適切に応じることができる。 ・自然な口調で話されたり読まれたりする英語の内容を聞き取ることができる。	(言語についての知識) ・連音や音変化などを聞き分ける知識がある。 ・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。 ・場面や状況、目的に応じた表現を知っている。 ・「聞くこと/聞いて応じること」に用いられている語句や文法を知っている。 (文化についての理解) ・ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段の役割や用い方を理解している。 ・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣などを理解している。 ・人々のもの見方や考え方などの違いについて理解している。
対話すること 対話すること	関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。	対話による言語活動に積極的に取り組んでいる。 さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。	日常生活の身近な話題で関心のあることについて、英語で正しく話すことができる。 日常生活の身近な話題で関心のあることについて、英語で適切に質問したり答えたりすることができる。	日常生活の身近な話題について、相手に伝えようとすることを正確に理解することができる。 日常生活の身近な話題について、相手に伝えようとするを、場面や目的に応じて適切に聞き取り、応答することができる。	日常生活の身近な話題について、「対話すること」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 日常生活の身近な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	評価規程 の具体例	(言語活動への取り組み) ・間違っことを恐れず関心のあることについて相手に質問している。 ・自ら学んだ表現などを使って話している。 ・相づちを打つなど、相手の話に関心をもって聞いている。 ・ペア・ワークなどにおいて積極的に協力しあっている。 (コミュニケーションの継続) ・うまく言えないところがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。 ・つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている。 ・交互に話し手や聞き手として、対話が長くように協力し合っている。	(正確な対話) ・正しいリズムやイントネーションなどを用いて話すことができる。 ・文法に従って話すことができる。 ・話そうとする内容を聞き手に正確に伝えることができる。 (適切な対話) ・適切な話題を選んで話すことができる。 ・話題や相手によって語句や表現を選んで対話を始め、継続し、終わらせることができる。 ・適切な速さや声の大きさを話すことができる。 ・相手の理解を確認し、それに応じて話すことができる。	(正確な対話) ・強勢やイントネーションなどから、話し手の意図などを正しく理解することができる。 ・相手の話の内容を正しく聞き取ることができる。 (適切な対話) ・強弱や口調で話された英語の内容を聞き取ることができる。 ・聞かれたことに対して素早く適切に応じることができる。	(言語についての知識) ・連音や音変化などを聞き分ける知識がある。 ・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。 ・場面や状況、目的に応じた表現を知っている。 ・「対話すること」に用いられる語句や文法を知っている。 (文化についての理解) ・ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段の役割や用い方を理解している。 ・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣などを理解している。 ・人々のもの見方や考え方などの違いについて理解している。
話すこと 話すこと	情報や考えなどを、場面や目的に応じて適切に伝える。	「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。	日常生活の身近な話題について、情報や考えなどを英語で正しく話すことができる。 日常生活の身近な話題について、場面や目的に応じて英語で適切に話すことができる。		日常生活の身近な話題について、「話すこと」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 日常生活の身近な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	評価規程 の具体例	(言語活動への取り組み) ・間違っことを恐れず自分の考えなどを話している。 ・自ら学んだ表現などを使って話している。 ・関心をもって質問している。 ・ペア・ワークやグループ・ワークなどにおいて積極的に協力しあっている。 (コミュニケーションの継続) ・うまく言えないところがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。 ・つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている。	(正確な発話) ・正しいリズムやイントネーションなどを用いて話すことができる。 ・文法に従って話すことができる。 ・伝えたい情報や考えなどを正確に話すことができる。 (適切な発話) ・場面や目的に応じて語句や表現を選択し、適切に話すことができる。 ・相手の発話に対して適切に回答することができる。 ・場面や目的に応じて適切な速さや声の大きさを話すことができる。 ・相手の理解を確認しそれに応じて話すことができる。		(言語についての知識) ・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。 ・場面や状況、目的に応じた表現を知っている。 ・「話すこと」に用いられている語句や文法を知っている。 (文化についての理解) ・ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段の役割や用い方を理解している。 ・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣などを理解している。 ・人々のもの見方や考え方などの違いについて理解している。
口頭で発表すること 口頭で発表すること	聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどをまとまり、発表する。また、発表されたものを理解する。	「口頭で発表すること」の言語活動に、話し手や聞き手として、積極的に参加している。 さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。	日常生活の身近な話題について、情報や自分の考えなどを英語で正しく発表することができる。 日常生活の身近な話題について、場面や目的に応じて内容を整理し、英語で適切に発表することができる。		日常生活の身近な話題について、「口頭で発表すること」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 日常生活の身近な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。
	評価規程 の具体例	(言語活動への取り組み) ・間違っことを恐れず情報や自分の考えなどを発表している。 ・自ら学んだ表現などを使って発表している。 ・発表するための情報を積極的に収集している。 ・相手を見て発表を聞いたり、必要に応じてメモをとるなど、相手の話に関心をもっている。 ・聞いたことについて主体的に意見やコメントを述べようとしている。 (コミュニケーションの継続) ・理解してもらえようように、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。 ・つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている。 ・発表者の考えなどについて、確認したり説明を求めたりしている。	(正確な発表) ・正しいリズムやイントネーションなどを用いて発表することができる。 ・文法に従って、正しく話すことができる。 ・伝えたい情報や考えなどを、聴衆に正確に話すことができる。 (適切な発表) ・伝えたいポイントを整理して発表することができる。 ・伝えたい内容や話題などに応じて、適切な表現を選択し、発表することができる。 ・聞き手の立場に立ち、イラストや写真を使うなど工夫を凝らして発表することができる。		(言語についての知識) ・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。 ・場面や状況、目的に応じた表現を知っている。 ・「口頭で発表すること」に用いられている語句や文法を知っている。 (文化についての理解) ・ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段の役割や用い方を理解している。 ・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣などを理解している。 ・人々のもの見方や考え方などの違いについて理解している。

【補充資料 4 - 】年間指導計画 の作成例

平成 17 年度 岩手県立 高等学校 年間指導計画 (英語)

学年	単位数	使用教科書：	1 単位時間の授業における評価規準			
1	4	使用副教材：	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
Lesson 1 A Volunteer in Mali	8	<ul style="list-style-type: none"> 日本の NGO に参加した村上氏のマリ共和国での活動の紹介 S+V(be動詞) + C (=分詞) S+V+O+C(=過去分詞) 相手に勧める表現 	<ul style="list-style-type: none"> 英文を読んで、ボランティア活動について理解し、意見や感想を述べる。 相手に勧める表現を用いて話そうとする。 SVC / SVO C の形を用いて新しい英文を書こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 難読語を正しく発音する。decision / neighbor / bulletin / warn / encourage / measure / length / occasion / rarely 等 SVC / SVO C の形を用いて正しい英文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 対話のイントネーション等を聞き分ける。 英文の概要を読み取り要約する。 	<ul style="list-style-type: none"> [f][h]の違いを聞き分ける。 子音と子音の連音を発音できる。 SVC / SVO C の形を正しく理解できる。 ボランティア活動に対する意識の違いを理解する
Lesson 2 The Story of Coffee	8	<ul style="list-style-type: none"> コーヒーはエチオピアで発見され、以後ヨーロッパ市場から世界に広まったという説 関係代名詞 who / which の非制限用法 動名詞の意味上の主語 具体例を示す表現 	<ul style="list-style-type: none"> 英文を読んでコーヒーの歴史を理解しようとする。 具体例を示す表現を用いて話そうとする。 関係代名詞の非制限用法を用いて新しい英文を書こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出語を正しく発音する。prayer / legend / originate / philosopher / efficient / commodity 等 関係代名詞の非制限用法を用いて正しい英文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 要約された英文を適切な早さで読み取る。 補充英文を聞いて概要・要点を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞の非制限用法を理解する。 動名詞の意味上の主語を理解する。 コーヒー文化、紅茶文化を理解する。
Lesson 3 Free the Children	8	<ul style="list-style-type: none"> 「児童労働」の実態と、子供の権利のための活動を行っている少年の話 進行形の受動態 There is ~ 分詞 必要を表す表現 	<ul style="list-style-type: none"> 英文を読んで児童就労の現状を理解し、児童労働廃絶に向けた意見を書こうとする。 必要を表す表現を用いて話そうとする。 進行形の受動態を用いて新しい英文を書こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出語を正しく発音する。labor / neighborhood / definite / equal / knowledge / dangerous 等 進行形の受動態を用いて正しい英文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 英文の概要を読み取り、要約文を完成する。 各パートを聞き取り、内容質問に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> 進行形の受動態の意味・用法を理解する。 There is ~ 分詞の意味・用法を理解する。 児童就労の原因となる背景を理解する。
Lesson 4 Sleeping with Lions	8	<ul style="list-style-type: none"> カラハリ砂漠で野生のライオン保護に努める学者の活動 独立分詞構文 不定詞の否定形・完了形 よくない知らせを伝える表現 	<ul style="list-style-type: none"> 野生動物保護の現状を理解し、意見や感想を書いたり話そうとする。 不定詞の否定形・完了形を用いて新しい英文を書こうとする。 よくない知らせを伝える表現を用いて話そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出語を正しく発音する。approach / female / surgery / ideal / interfere / wound / curious 等 不定詞の否定形・完了形を用いて正しい英文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 英文の概要を読み取り、出来事の年表を完成させる。 動物保護に関する新聞記事を読み概要を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> [r][l]の発音の違いを識別する。 独立分詞構文の意味と用法を理解する。 不定詞の否定形・完了形の意味と用法を理解する。 野生動物減少の原因となる背景を理解する。
Lesson 5 Life Is So Good	8	<ul style="list-style-type: none"> 98 歳で字を習い始めた老人による 101 歳の時の自伝 S+V(=be 動詞) + C (=that 節など) 仮定法過去完了 譲歩を表す表現 	<ul style="list-style-type: none"> 英文を読んで学ぶ喜びについて理解し意見を述べようとする。 仮定法過去完了を用いて新しい英文を書こうとする。 譲歩を表す表現を用いて話そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出語を正しく発音する。literacy / repetition / envelope 等 S+V+C(that 節)を用いて正しい英文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 英文を読んで主人公に関する新聞記事を完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 仮定法過去完了の意味・用法を理解する。 世界の国々の識字率に関する英文を聞いて現状を理解する。
Lesson 6 My New Zealand Diary	8	<ul style="list-style-type: none"> ニュージーランドでのホームステイ体験による文化比較 分詞構文(過去分詞) 関係副詞 where の非制限用法 期待を述べる表現 	<ul style="list-style-type: none"> 英文を読んで海外の諸事情を理解し意見を述べようとする。 関係副詞 where の非制限用法を用いて英文を書こうとする。 期待を述べる表現を用いて話そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出語を正しく発音する。officer / original / thorough / dairy / oven / souvenir 等 分詞構文(過去分詞)を用いて正しい英文を書く 	<ul style="list-style-type: none"> 英文を聞いて料理のレシピを完成させる。 英文を読んで滞在中の日程表を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分詞構文(過去分詞)の意味・用法を理解する。 日本との文化の違いを理解する。 ニュージーランドの風物を知り理解する。

【補充資料 4 - 】 単元評価シート

実施日： 月 日	年 組 番 氏名
----------	----------

単元	Lesson 1 A VOLUNTEER IN MALI
単元目標	1. ボランティアの意義を理解し、積極的に社会にかかわろうとする意識をもつ。 2. 新出の語句と文法事項を理解し、書いたり話したりする際に活用できるようになる。 3. 相手に勧める表現を理解し、話したり書いたりする際に活用できる。 4. プリントを活用しながら内容をまとめ、語句等の理解を深める。 5. 内容を読んで理解した上で、自分の意見をまとめ、書いたり話したりできる。

	評価項目	自己評価	相互評価	教科担任評価
聞くこと	・ 聞いた内容の要点を理解する	3 2 1	3 2 1	4 3 2 1
	・ 関心をもって、相手を見て話を聞く	3 2 1	3 2 1	
	・ 理解できない部分も推測して聞く	3 2 1	3 2 1	
	[評価の平均]			
話すこと	・ 間違いを恐れず自分の考えを話す	3 2 1	3 2 1	
	・ 学んだ表現を進んで使って話す	3 2 1	3 2 1	
	・ 正しい文法やリズムで話す	3 2 1	3 2 1	
	[評価の平均]			
読むこと	・ 正しい発音で音読や暗唱をする	3 2 1	3 2 1	
	・ 必要に応じて辞書を活用して読む	3 2 1	3 2 1	
	・ 理解できない部分を推測して読む	3 2 1	3 2 1	
	[評価の平均]			
書くこと	・ 間違いを恐れず自分の考えを書く	3 2 1	3 2 1	
	・ 学んだ表現を用い辞書も活用して書く	3 2 1	3 2 1	
	・ 書いたものを読み直したり書き直したりする	3 2 1	3 2 1	
	[評価の平均]			

評価の基準は [3] どちらかといえできた
 [2] どちらともいえない
 [1] どちらかといえできなかった

	この単元で達成すべきこと	達成度	達成できなかった部分・項目・内容
1	本文の内容を理解し自分の意見をもつ	3 2 1	
2	新出語句の発音・意味をおぼえる	3 2 1	
3	SVC / SVOICを理解し正しく使う	3 2 1	
4	相手に勧める表現を理解し正しく使う	3 2 1	
5	本文を正しくスムーズに音読する	3 2 1	

達成度は [3] 達成できた
 [2] どちらともいえない
 [1] 達成できなかった

上記以外で理解できなかったこと、もう一度説明・演習が必要なこと、授業への要望その他何でも

英 語 力 の 目 標

1. これは、現時点での「英語力」を4つの分野（「聞く」「話す」「読む」「書く」）ごとに、9つのレベルで診断するものです。
2. 現在の英語力を用いて何ができるのかを明らかにし、それをもとに自分の目標を持ち、次のレベルへと英語力を高めるための1つの材料です。

各レベルと英語力の目安

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	英検・語彙数	入試問題
レ 1	習った単語を正しく聞き分ける	見たものを習った単語レベルで描写する	習った単語を読んで理解する	習った単語を正確に書き写す	200語	高 校 入 試 セ ン タ ル 二 次 標 準 次 難 関
レ 2	習った短い文を聞き分け て理解する	見たものを簡単に述べ、 決まり文句が使える	習った単語を音読でき、 短い文を理解する	短い文を正確に書き写す	5級 600語	
レ 3	簡単なあいさつや自己紹介 などを聞き取る	簡単な自己紹介や日常の あいさつをする	短い文章の要点を読み取 り、辞書などを用いる	正しい文字の使い方がわ かり、簡単な手紙を書く	4級 1300語	
レ 4	道案内や日常に関する伝 言を聞き取る	他人の紹介をし、簡単な 道案内をする	簡単な手紙や掲示板、説 明書を読み取る	簡単な日記を書き、日常 の描写をする	3級 2100語	
レ 5	日常的なことについての 電話の内容を聞き取る	自分のことを電話で伝え、 簡単な報告をする	簡単な新聞記事やパンフ レットを読んで理解する	日常の体験や予定などを 簡単に説明する	準2級 3600語	
レ 6	やや抽象的な説明や事務 的な電話内容を聞き取る	一般的事柄について説明 し、簡単な通訳をする	簡単な小説や興味ある分 野の記事を読み取る	趣味などの事柄を説明的 にやや長い文章で書く	2級 5100語	
レ 7	テレビ・ラジオなど放送 ・報道の概要を理解する	社会的出来事の概要を説 明し、幅広く通訳をする	幅広く読書し、新聞や辞 典の情報を的確に捉える	会議の記録をとり、自分 の見解の概要を書き表す	準1級 7500語	
レ 8	各種放送や演説・討議な どを十分理解する	通訳や電話での折衝をし、 報道内容を的確に伝える	新聞、雑誌、一般文献な ど十分に理解する	自分の意思、見解や演説 原稿を十分に書き表す	1級 1万~1.5万	
レ 9	あらゆる英語を十分に聞 いて理解する	あらゆる場面で正確かつ 適切に話す	専門書を含め英語を読む ことに不自由しない	適切な文体や専門用語を 駆使して書く	1.5万~	

* 中学校高学年段階ではレベル3～4を、高校1～2年ではレベル4～5を、高校3年生段階では5～6を目標に努力してみましょう。

PART 1 「聞くこと」

LEVEL 1

次の単語を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

table / breakfast / walk / swim / sunny / beautiful

LEVEL 2

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

You have a nice bike, Judy. -- Thanks, but it's my sister's.

LEVEL 3

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Karen goes to a school near her house. Her mother and grandmother went to the same school, too.

The buildings are old, but she likes her school.

LEVEL 4

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Jenny is a high school student. She loves music. She usually walks to school with her friends. On Wednesday, she rides her bike to school because she has to get home quickly. She has a piano lesson on that day.

LEVEL 5

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

You have reached Symphony Records. Our store is closed now for the New Year holiday, but we'll be re-opening on January 11. Our store is open from 10 a.m. to 10 p.m. every day except Wednesdays. Be sure to stop by and check out the city's best collection of classical music. Thanks for calling.

LEVEL 6

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

For people living in cities, the subway is one of the best ways to travel quickly and cheaply. The first subway line in the world was opened in London in 1863. It was called the "Underground," and its first line was only 6 kilometers long. Today, the London Underground is about 360 kilometers long. This makes it one of the longest subway systems in the world.

LEVEL 7

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Comparing Notes

Human beings are certainly unique among the various species of life on earth, but scientists, time and again, are discovering what have been considered human characteristics in the animal world. Take, for example, the appreciation of music. Researchers have uncovered sophisticated rules in the songs of a variety of birds that are similar to the principles we apply to our own musical compositions. And the humpback whale, like many human composers, will select a theme, expand on the theme, then return to the original theme with minor variations.

Some would argue that animal music is simply an instinct and therefore decidedly different from its human counterpart. But recent research on the human brain suggests that our own love of music may also be instinctive. If so, then the only fundamental difference between animal music and human music is the instruments that are used.

PART 2 「話すこと」

LEVEL 1

次の単語を英語で言いなさい。
「誕生日」「切符」「走る」

LEVEL 2

次の対話を完成させなさい。

"How are you?" -- "_____."
"_____?" -- "I'm from Iwate, Japan."

LEVEL 3

次のことについて英語で自己紹介をしなさい。
「名前」「年齢」「好きな教科」「趣味」「家族構成」「通学方法」
*かっこ内から2つ以上

LEVEL 4

郵便局へ行く道をたずねられたとき、英語で次のような道案内をしなさい。
「通りをまっすぐ行って、最初の角を左に曲がれば右手に茶色の建物が見えるので、それが郵便局である」

LEVEL 5

次の内容を英語で家族（親）に伝えなさい。
「今度の日曜日に、友人3人と一緒に電車で繁華街に行って映画を見て、その後で本屋に寄って欲しい本を買ってから、夕方には帰宅する」

LEVEL 6

次の内容を英語で友人に伝えなさい。
「列車の出発が、大雪のために1時間ほど遅れる見込みであり、約束の時間に遅れてしまうこと。予定通りに運転が再開されたら、それに乗って、駅からはタクシーでできるだけ早く会いに行くつもりであること」

LEVEL 7

次のうちの1つについて、5分程度で英語のスピーチを行いなさい。
「インターネットの利用価値について」
「家庭における家族の仕事分担について」

PART 3 「読むこと」

LEVEL 1

次の単語を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

people / little / tomorrow / station

LEVEL 2

次の文を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

- Let's play badminton after school today.
- Mr. Brown is a doctor. He works in that hospital.

LEVEL 3

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間2分)。

Hiroshi's Happy Day

On Sunday, Hiroshi and his father went shopping. They wanted to buy a birthday present for Hiroshi's mother. They took a bus and went to a department store.

When they got off the bus, Hiroshi saw a woman. She had a map in her hand and was looking at it. Hiroshi thought, "Maybe she's lost." Hiroshi's father spoke to the woman in Japanese, but she said, "I'm sorry, I can't speak Japanese. I'm from Australia."

Hiroshi wanted to help her and said, "Do you need any help? I can speak some English." She was very happy and said, "Thank you. I have to meet a friend at Tokyo Station. But I don't know the way there."

Hiroshi and his father walked with the woman to Tokyo Station. At the station, the woman took a picture of Hiroshi and his father. She said, "You're very kind." Hiroshi was happy because he helped her.

LEVEL 4

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

I Can Do Anything

Curtis Pride was born in Washington, D.C. on December 17, 1968. When Curtis was seventeen months old, his doctor told his mother that Curtis could hear almost nothing. In 1971, his family moved to Silver Spring, Maryland. Curtis started a special school program there. For three years, he took classes to help his speaking. Then he started taking classes with students who could hear. Some students didn't like Curtis because he was different. Curtis's mother told him that he should not stop doing the things he wanted to do. He never forgot what she said.

In high school, Curtis was the only student that couldn't hear. He studies very hard and his teachers said he was a great student. He loved sports and played soccer, basketball, and baseball. For all those sports, he made new records for his high school.

At college, he studies business, and in the summers he played baseball with the New York Mets, a major league baseball team. Since he graduated in 1990, Curtis has played for four other major league teams. He is the first major league baseball player who can't hear since 1945.

Every year, Curtis Pride receives hundreds of letters from young men and women with disabilities. With the help of his family, he answers all the letters he gets. For the past few years he has also worked with disabled students. Curtis says that having a disability teaches him never to give up. He tells this to all the people he meets.

LEVEL 5

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

Jim Thompson

Jim Thompson, born in the United States in 1906, was known as the "Thai Silk King." Thompson became famous for helping to make Thai silk popular all over the world. Thompson also had a wonderful collection of traditional Thai art that can now be seen at the Jim Thompson House in Bangkok. However, he is best remembered for the mysterious way in which he disappeared.

Over the course of his life, Thompson did several different jobs. He worked as an architect in the United States, but when World War II began he joined the army and went to Thailand. After the war, Thompson decided to stay in Thailand. He had an unsuccessful experience as a hotel manager, and then decided to work in the silk industry. This made him a rich and successful businessman. The high quality of the fabrics he sold became popular overseas, and his silks were even bought by the Queen of Thailand and the Queen of England.

In March 1967, during a visit to Malaysia, Thompson suddenly disappeared in the jungle. He went out for a walk by himself and was never seen again. There was a huge search to find him, but even now no one knows what really happened to Thompson. Some people believe he was shot, while others think he was hit by a truck or that he simply got sick and died in the jungle.

Although his disappearance remains a mystery, interest in Jim Thompson has continued to grow over the years. Stories about him have appeared in magazines, newspapers, and books, and a TV series is being made about his life. Even today, people in Bangkok still ask each other, "What do you think really happened to Jim Thompson?"

LEVEL 6

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

The Cutting Edge

Archaeologists are scholars who study the lives of people in the past. Instead of relying on written records, they often dig in the ground to find clues about how people used to live. For several years, a team of archaeologists from China and the United States has been digging in a large cave in southern China that has been used by human beings for up to 300,000 years. The team has found the remains of many people and large animals in the cave, including a huge collection of 200,000-year-old animal teeth. When archaeologists find animal remains in a place where humans have lived, they are usually leg bones. This is because people removed the legs from dead animals and carried them back to their homes for food. However, in the Chinese cave, about 30 percent of the animal remains were teeth.

The teeth were from various animals, such as rhinoceroses and ancient elephant-like animals called stegodons. According to one of the archaeologists, Lynne Schepartz of the University of Cincinnati, the discovery of the teeth of such animals in the cave came as a surprise. This is because these animals preferred to live in the open, and so it is extremely unlikely that they entered the cave on their own. How, then, did their teeth get into the cave? After examining them, Schepartz and the other members of the team came to the conclusion that the teeth were probably taken back to the cave and used as tools by the ancient people who lived there.

Ancient people had to make tools with whatever materials they could find. They often used stones to make tools from other materials, but the stones in the area around the cave are all rather soft and so were not suitable for this purpose. The people who lived in the cave discovered that when the teeth of rhinoceroses and stegodons broke apart, a hard, sharp edge was created. The archaeologists believe that these teeth were then used as cutting tools, and also to make other tools from materials such as bamboo. This is the first time that archaeologists have found such clear evidence that ancient people used large animal teeth in this way.

LEVEL 7

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

Shoplifting -- Crime to Go

People often begin shoplifting as much for the thrill of it as for gain or out of malice, but that's not what makes it unique among crimes. Shoplifting stands out because it can be perpetrated with equal ease by 6-year-old boys and 80-year-old grandmothers. Shoplifting is also a crime that has proven very difficult to combat. It takes place 800,000 times a day in the U.S. alone -- with targets ranging from inexpensive batteries and candy bars to valuable jewelry -- and costs retailers \$13 billion a year. Interestingly, shoplifting is an unintentional indicator of the state of the economy. In times of recession, with more people out of work and stores hiring fewer salesclerk to watch over their stores, shoplifting increases.

Shoplifting is a crime that arose out of the nineteenth century's mass-merchandising culture. "Consumer culture manipulates the senses of the shoppers, seduces them, weakening their ability to resist temptation," says Lisa Tiersten, cultural historian at Bernard College. As mass merchandising became increasingly popular in the late 1800s, some housewives found it difficult to resist stealing goods from stores brimming with attractive products. The rigid Victorian morality didn't know how to categorize these otherwise respectable women, so doctors invented a new disease called "Kleptomania," impulsive behavior over which the shoplifter was believed to have little control.

Many experts argue now that the majority of habitual perpetrators suffer from addictive-compulsive disorder, a psychological term used to describe people who find so much gratification in pocketing stolen goods that they have difficulty stopping, despite the obvious risks. The remainder of shoplifters fall into a number of categories -- professional criminals, drug addicts who desperately need money to maintain their habit, and thrill seekers, who are often teenagers. Other experts, including many of those responsible for security, disagree with the theory that shoplifters are somehow victims. They see the cause of shoplifting as nothing more than greed, self-gratification, and the pursuit of cheap thrills. This group of experts feels that shoplifters should be prosecuted to the full extent of the law, believing that tougher measures are the only way to reduce the number of crimes.

Whatever the reasons behind shoplifting, shop owners spend small fortunes on technology to reduce product loss. Sensors tags are common sight throughout larger retail stores. Despite all these efforts, however, shop owners are also battling an enemy within: the majority of shoplifting isn't perpetrated by shop customers, but by store employees. Whether the motivation for this type of stealing is greed or vindictiveness against employees, such theft is much more difficult to catch.

PART 4 「書くこと」

LEVEL 1

- 1 次の単語を正確に書き写しなさい。
picture / Thursday / watch
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。
「ケン(Ken)は5歳です」

LEVEL 2

- 1 次の文を正確に書き写しなさい。
How much is this book? -- It's 500 yen.
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。
・「ミキ(Miki)は日本に住んでいます」

LEVEL 3

- 次の内容を英語で書きなさい。
- ・「私は毎朝6時に起きます。毎日自転車で学校に行きます」
 - ・「読書は好きですか」「はい。毎月5冊本を読みます」

LEVEL 4

- 次のうちの1つについて、3～5文の英語で書きなさい(制限時間10分)。
- ・好きな季節とその理由
 - ・嫌いな教科とその理由

LEVEL 5

- 次の内容を、2～3段落の英語(50～80語)で書きなさい(制限時間15分)。
- ・英語を勉強している理由として、世界中の人々と話をし、やがては世界平和のために働きたいということを伝える

LEVEL 6

- 次の内容を、3段落以上の英語(150語程度)で書きなさい(制限時間20分)。
- ・一般の読者に対して、健康の大切さを実感した自分の日常の中での経験を伝え、健康維持のために日頃から心がけていることを伝える

LEVEL 7

- 次の内容を、できるだけ多くの英語で書きなさい(制限時間30分)。
- ・中高生に対し、テレビの功罪について、相手を意識し納得させるような内容で、必要に応じて提言を加える

PART 1 「聞くこと」

LEVEL 1

次の単語を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

window / station / August

LEVEL 2

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Can you play the piano, Tim? -- No, I can't. But I can play the guitar.

LEVEL 3

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Ken got a bike for his birthday. He's happy because now he can go to many places. Every weekend he goes to his favorite places by bike.

LEVEL 4

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Mike became sick after playing soccer in the rain on Thursday. On Friday his class went on a school trip to the mountains, but he couldn't go. He stayed in bed all day.

LEVEL 5

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

One of the most famous and beautiful buildings in India is the Taj Mahal. It was built by an emperor after his wife died. He loved her very much and wanted to build something so people would remember her. It took 22 years to build the Taj Mahal. Now it is a world-famous symbol of love.

LEVEL 6

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

The most famous Spanish art museum is the Prado Museum in Madrid. Many of the Prado's paintings were originally owned by the Spanish royal family. In addition to Spanish paintings, the museum has famous works from Italy, France, and other European countries. The Prado has so much artwork that it can only display about 10 percent of it. The rest is stored in special buildings.

LEVEL 7

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

It's Your Money

Welcome to Bob Sterling's *It's Your Money*. According to a recent survey, one-third of you parents out there do not have a college savings program for your children. Wake up, folks. College is expensive. In fact, since the early 1980s, college expenses have risen faster than medical costs. So here are two words every parent needs to know: financial aid.

Financial aid for students today comes mostly from low-interest government loans. With these loans, students pay no interest during the time they're in college. All but the richest students need to borrow money, but they can feel confident that there's no better investment than their own future. And parents -- this means you -- should be putting money away for their college-bound kids, even if it's just \$20 a month.

Recent tax-law changes have made savings plans more attractive than ever. More on that tomorrow. Until then, this is Bob Sterling, "It's your money."

PART 2 「話すこと」

LEVEL 1

次の単語を英語で言いなさい。
「辞書」「泳ぐ」「美しい」

LEVEL 2

次の対話を完成させなさい。
" _____ ?" -- "I'm 165 cm tall."
"Nice to meet you." -- " _____ ."

LEVEL 3

自分の住んでいる地域について、次の内容のうち2つ以上を英語で伝えなさい。
「冬は雪が多い」「春にたくさん桜が咲く」「海が近い」「町中を大きな川が流れている」
「美しい山が見える」「住宅地でにぎやか」「古いお寺がある」「大きな工場がある」

LEVEL 4

ALTに、海外の姉妹校から来ることになった高校生について、次の内容を紹介しなさい。
「名前はサラ。出身はオーストラリアで、17歳。2月の第2週から、半月の予定で日本に滞在し、自分の家にホームステイをする。」

LEVEL 5

次の内容を、風邪で欠席している留学生の友人に電話で伝えなさい。
「明日の午前の授業変更はないが、6校時の英語が体育に変更になったので運動着を忘れずに持ってくるように。放課後には演劇部の集会を行う。」

LEVEL 6

買い物の最中に困っている外国人に、店員が言った次の内容の概要を通訳しなさい。
「当店ではアメリカドルを使うことはできないが、カードはほとんどの種類が使用可能である。値段は5%の税込みであり、すべての商品は品質保証がされていて、安心して購入いただける。」

LEVEL 7

次のうちの1つについて、5分程度の英語のスピーチを行いなさい。
「宇宙ステーションで暮らしてみたいですか？」
「10年後の日本はどうなっていると思いますか？」

PART 3 「読むこと」

LEVEL 1

次の単語を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

park / glass / computer / throw

LEVEL 2

次の文を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

- Bob gets up very early every morning. He goes to school by bike.
- Here's a birthday present for you. -- Thank you very much.

LEVEL 3

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間2分)

A Present for Tom

Yesterday was Tom's birthday. His family had a party for him. His mother cooked a special dinner. After dinner, his brother played the guitar and his sister sang a song. Then his father gave him a present. It was a big green box. He opened it and found another box in it. It was a red box. He opened it and saw a third box. This one was blue.

Everyone laughed when he opened the boxes. There were six of them! In the last one, he found a piece of paper. It said, "Go to your room. Look under your bed. You will see three bags. Your birthday present is in one of them."

Tom went into his room. Then, he found three bags under his bed and began opening them. He had to open all of them before he saw his father's present -- a pair of basketball shoes. He was so happy because he wanted them very much.

LEVEL 4

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)

Lucky Lindy

Charles Lindbergh was born on a farm in 1902. When he was young, he was interested in machines. At 18, he went to college and studied engineering, but he wanted to fly airplanes instead of studying. So, he left college after two years, learned to fly, and then joined the army to fly planes. After that, he started working for a company that sent mail by plane between St. Louis and Chicago.

In 1926, Lindbergh became excited when he heard some good news. A rich man said he would give a prize of \$25,000 to the first man to fly alone across the Atlantic Ocean. Lindbergh needed a plane. Some business people from St. Louis gave him the money to make the plane. He called this plane Spirit of St. Louis.

Lindbergh left New York City in his airplane on the morning of May 20, 1927. He arrived in Paris at night the next day. He flew more than 5,800 km in about 34 hours. People around the world read about his exciting flight in the newspapers. He was called "Lucky Lindy" and he became a hero.

Lindbergh wrote a book about his flight across the Atlantic. He named his book *We* because he talked about himself and his airplane. Soon, Lindbergh flew to many cities around America to teach people about airplanes and flying. Later, he flew to and stayed in many countries all over the world, so he became interested in the people and cultures there. Now, many people around the world know about him and his famous flight.

LEVEL 5

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)

Two-for-one

In Peru all children are required to attend elementary school. However, in reality 23 percent of students stop going to school before the fifth grade. This is often because they find the classes too difficult. Many of the children come from poor families that cannot even afford to buy books and newspapers. Sometimes their parents themselves cannot read and write. This means that the children have little chance at home to learn the basic skills necessary to understand their classes.

To help these children stay in school, UNICEF is working with the Peruvian government to carry out a new program called Two-for-One. Under this program, first- and second-grade students are taught by teenage volunteers from poor families who are doing badly at school. The children meet in groups with the volunteers outside of school hours, and each group selects a study project to work on for eight weeks. These projects help children improve their reading and writing ability while developing social skills through group work. The volunteers try to make the experience fun so that the children will become more interested in learning.

The Two-for-One program only started a few years ago, but it has proved very successful in helping poor children to do better at school. After just eight weeks in the program, children score on average 30 percent higher on school tests. In addition, more than 80 percent of the children who take the program stay in school. In fact, the program has been so successful that there are now more than 2,000 Two-for-One groups active in Peru. The Peruvian government hopes to see this number grow even more in the future.

LEVEL 6

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)

Spider Silk

Spider silk is the name given to the fine thread that spiders produce to make the webs in which they live. For many years, scientists have been impressed by spider silk's amazing qualities. Although it is 10 times thinner than human hair, it is five times stronger than steel of the same thickness. If such a strong, light thread could be produced in large quantities, it would provide many benefits for humans. Unfortunately, spiders usually attack each other if they are kept close together. For this reason, raising large numbers of spiders together to produce thread has proved very difficult.

As a result, scientists have turned their attention to producing spider silk by other methods. The proteins that make up spider silk were first discovered more than 10 years ago. Spider silk consists of two different proteins that the spider produces in its body. However, finding a method to produce these proteins in a laboratory has not been easy. Recently, though, scientists have made remarkable progress toward solving this problem by using genetic engineering. For example, a group of scientists in Quebec, Canada, removed from spiders the genes in the cells of female goats, the scientists succeeded in raising goats that can produce milk containing the proteins. They then used the proteins in the goats' milk to produce a thread very similar to that which spiders produce naturally.

Based on these results and those of other experiments, scientists now predict that man-made spider silk will soon become available for commercial use. Besides being light and strong, the new thread has other advantages. Since it is based on a natural product, it can be made without using dangerous chemicals. Moreover, the thread itself does no harm to the environment. Unlike most man-made materials, after spider silk has been thrown away, it disappears naturally over time. In the future, it may be used to make such things as fishing nets, clothing, and medical materials. There are still many problems to be overcome before spider silk can be produced cheaply, but this amazing thread promises to be useful in a wide variety of fields.

LEVEL 7

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

Entrancing Hypnosis

Hypnosis is receiving attention from a growing number of believers and doubters alike. Advocates consider it the ideal remedy for everything from cigarette smoking to labor pains. Skeptics see it as a purposeless pursuit for the naive. But research does indicate that hypnosis offers certain benefits. Scientific studies show that it can be an effective technique for reducing addictions, minor phobias, and attention deficit disorder. Proponents say it is not the hypnotic trance itself that alleviates these conditions, but rather that the suggestions offered to subjects during hypnosis help to alter their behavior and offer relief.

Can anybody be hypnotized? Researchers suggest that the answer is a qualified yes. In fact, they say, it is not a matter of whether a person can be hypnotized, but rather how deeply into a trance they can go. Studies at Stanford University, Virginia Tech, and the University of Massachusetts uncovered a possible link between hypnosis and certain neurological factors. In what is referred to as the "eye-roll" test, measurements were taken to see how far subjects could roll back their eyes when lowering their lids, the ability to roll their eyes correlating strongly with their level of hypnotizability.

Personality characteristics also play a role. The most easily hypnotized subjects are those referred to by experts as "fantasizers." These people tend to be daydreamers and can effectively block out their surroundings. The most extreme fantasizers are those who regularly incorporate daydreams into their routine activities. Fantasizers also tend to have very clear and early childhood memories, and are likely to have had make-believe friends with whom they played. Often, fantasizers had parents who not only encouraged them to engage in imaginary play, but also used imagination tactics to discipline them instead of using a more conventional system of rules and punishments. One fantasizer recalled an incident from childhood where she pushed a little girl to the ground and took her doll. Her mother, instead of punishing her, asked her to imagine how the girl felt. The fantasizer was so clearly able to feel the other child's distress that she never behaved that way again.

In reality, only about 5% of people are believed to be true fantasizers. If you're a daydreamer and you had an imaginary childhood friend, you may be one of these rare ideal candidates for hypnosis. But having even one of the characteristics of a true fantasizer is reason enough to feel lucky. Any such person is likely well suited for the healing power of hypnotherapy.

PART 4 「書くこと」

LEVEL 1

- 1 次の単語を正確に書き写しなさい。
present / baseball / homework
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。
「私は兄が二人います」

LEVEL 2

- 1 次の文を正確に書き写しなさい。
Welcome to Japan. Please enjoy your stay.
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。
「公園でテニスをしました」

LEVEL 3

- 次の内容を英語で書きなさい。
- ・「ゆうべは家で妹と2時間テレビを見ました」
 - ・「来週の土曜日友達と買い物に行きます」

LEVEL 4

- 次の内容を、3～5文程度で英語の日記を書きなさい(制限時間10分)。
- ・朝雨が降っていたのでバスで学校に行った。数学の授業で先生がたくさん楽しい話をしておもしろかった。午後には雨もやんだので友達と歩いて帰ってきたが、学校に傘を忘れてきてしまった。

LEVEL 5

- 次の内容を、2～3段落の英語(50～80語)で書きなさい(制限時間15分)。
- ・「文化祭」について、期日、内容、見所などをパンフレットで来訪者に伝えなさい。

LEVEL 6

- 次の内容を、3段落以上の英語(150語程度)で書きなさい(制限時間20分)。
- ・日常生活の中で、「伝統」の良さについて感じたことを挙げながら、これからも残していった方がよいと思われるものについて述べなさい。

LEVEL 7

- 次の内容を、できるだけ多くの英語で書きなさい(制限時間30分)。
- ・クローンについて簡単に説明し、これからの方向性や我々に与える影響などについて自分が思うところを伝えなさい。

PART 1 「聞くこと」

LEVEL 1

次の単語を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

chair / lunch / remember / yesterday

LEVEL 2

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

When did you go to America? -- I went there in March.

LEVEL 3

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Kimiko has an American pen pal. Her name is Sally. Last month, Sally visited Japan. Kimiko took her to Kyoto. Last week, Kimiko received a thank-you letter from Sally.

LEVEL 4

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Welcome to the Red River Department Store. Today we have a special magic show for all the children here. The show will start at 2:00 in the children's bookstore. It's free and everyone is welcome.

LEVEL 5

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Snowboarding has become very popular recently. But the idea of snowboarding is not new. In 1929 an American named Jack Burchett made the first snowboard from a simple piece of wood. Later, other people improved the design of snowboards. The sport soon spread around the world, and in 1982 the first international snowboard race was held.

LEVEL 6

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

A popular book in many countries is The Guinness Book of World Records. This book has been translated into many different languages and is sold throughout the world. The Guinness Book offers information about amazing and unusual people, places, and things, such as the world's tallest man. The book was started by a famous Irish beer company in order to give people in pubs interesting topics to talk about.

LEVEL 7

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Psychology Goes to the Dogs

Hi. Pet psychologist Jonathan Fox here with some tips for training your dog. Today's key words: exercise, affection, and domination.

When exercising my dogs, I go on regular excursions through the mountains near Los Angeles. Fresh air for me, and for the dogs, a chance to explore and forage in a natural environment. City parks? No thanks.

Next, affection. Stroking is important for bonding, but the best way to show affection is to provide the things that a dog really needs -- namely food and water.

Now, the bit I like best: domination. Just kidding, but it is important to show the dog who's boss. And the best way is to act like the dog-pack leader. If a dog steps out of line with me, I nip at its neck with my fingers, just like a lead dog would with its teeth. No need to keep them ties up.

Alright, pet lovers. That's it for now. See you next time.

PART 2 「話すこと」

LEVEL 1

次の単語を英語で言いなさい。
「14」「1月」「勉強する」

LEVEL 2

次の対話を完成させなさい。
"I had some milk for breakfast. How about you?" -- "_____."
"What day is it today?" -- "_____."

LEVEL 3

自分の学校を訪れた、海外からの視察者に、次の点について伝えなさい。
「自分の学校はとても古くて伝統がある」
「生徒はみんな勉強と部活動を一生懸命やっている」

LEVEL 4

交換留学生としてカナダから来ているクラスメートに、次の依頼をしなさい。
「来週末に隣町に住む友人が遊びに来るが、あなたに会いたがっているので家に来てもらえないか」

LEVEL 5

次の内容を、友人の留守番電話に入れなさい。
「明日の予定を聞きたくて電話した。自分は映画を見に行くつもりである。このメッセージを聞いたら、メールを送るか、6時から8時の間に電話がほしい。」

LEVEL 6

海外旅行の際に宿泊したホテルのフロント係に、次の内容の問い合わせをしなさい。
「たった今、部屋のドアを開けようとしたら、カードキーが使えなくなっていたので、なぜなのか知りたい。もしこのようなことがこれからもあるのならば、事前に、電話や掲示で知らせて欲しい。」

LEVEL 7

次のうちの1つについて、5分程度の英語のスピーチを行いなさい。
「ボランティア活動の本質について」
「携帯電話の使用マナーについて」

PART 3 「読むこと」

LEVEL 1

次の単語を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

always / computer / kitchen / November

LEVEL 2

次の文を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

- Excuse me. May I ask you a favor?
- My favorite subject is math. It is very interesting.

LEVEL 3

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間2分)。

The Tickets

Daisuke is a junior high school student from Nagoya. He is staying at Mr. White's home in California this summer. Mr. White worked with Daisuke's father, and they are good friends.

Daisuke often talks about sports with Mr. White. Last Friday night, when Mr. White came from work home, he gave an envelope to Daisuke. "Here's something for you," Mr. White said. Daisuke opened it and said, "They're tickets!" "That's right," Mr. White said, "I got two tickets for the baseball tomorrow night!"

The next day, Mr. White took Daisuke to his first major league baseball game. Daisuke was very excited because there were so many people at the game. When he saw his favorite baseball player, Daisuke thought, "I want to be a baseball player, too."

After Daisuke came back to Mr. White's home, he looked at the ticket and thought, "I had a great time today."

LEVEL 4

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

The Lady with the Lamp

Florence Nightingale, a British woman, was born in Italy in 1820 and grew up in Britain. Her family was rich and had several large houses in different parts of Britain. Florence didn't go to school, but instead, her father was her teacher at home.

Florence's parents hoped that she would marry and become a good wife and mother. But, at the age of 17, she had a dream about helping other people. Some years later, she decided to become a nurse. Her parents were angry because they thought it was too hard for their daughter. But Florence finally began working as a nurse in 1853 in a small London hospital. She was 33.

Florence enjoyed her job and worked hard. At that time, Britain was in a war. So, in 1854, she traveled to Turkey with 38 other nurses to take care of sick and injured soldiers. She was very kind and friendly to the soldiers, so she soon became very popular. Every night she worked very late. She walked around the hospital with a lamp. So the men called her "The Lady with the Lamp."

Her story later became famous all over Britain and changed many people's ideas about nurses. Before Florence began working as a nurse, hospitals were dirty, crowded places. She bought beds and clothes for the sick people, and started training nurses. With Florence's help, hospitals became better places for everyone. After hearing about Florence Nightingale, many young women wanted to become nurses, too.

LEVEL 5

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

A Taste for Sharks

Sharks have been seen as especially dangerous by human beings for a long time. Strangely, however, people also find them attractive. For example, sharks have become one of the biggest attractions at aquariums and museums. At one California aquarium, the number of visitors increased greatly when the aquarium bought two dangerous-looking sharks. Also, the movie *Jaws* -- about a giant shark that attacks people -- was the first film to make a profit of over \$100 million. Television programs about sharks are also much more popular than programs about other animals.

Recently, sharks have become popular in other ways, too. For example, these days many people are eating shark meat in restaurants. Also, the skin of sharks is used to make leather, their teeth are used to make jewelry, and oil from sharks is being used for medicine and skin-care products. For all these reasons, fishermen now catch more and more sharks every year. Sharks have become big business in a number of different ways.

Many experts are worried, however, that the large number of sharks being caught means that their future may be in danger. Over 100 million sharks are being killed every year, and some kinds of sharks may even disappear completely. The survival of sharks is very important for several reasons. In particular, a large decrease in the number of sharks will damage the balance between different kinds of fish in the sea. Sharks eat small fish, so they help keep the numbers of fish at ideal levels. It seems these days that it is human beings who are dangerous to sharks than the other way around.

LEVEL 6

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

Traffic Trouble

Over the past few decades, there has been a steady increase in the number of cars on the road. As a result, large cities everywhere have begun to face a common problem: more and bigger traffic jams. In central London, for example, the average speed for cars was recently said to be less than 13 kilometers per hour -- slower than that of the horse-drawn carts used 100 years ago! Traffic congestion is both a waste of time and fuel, and it also produces a large amount of air pollution.

For these reasons, cities around the world have been trying to find ways to ease such congestion. Some have tried providing free buses, while others have limited the amount of parking space available. Unfortunately, these approaches have had little effect. Experts have said for many years that the best way to prevent traffic jams is to charge drivers a fee for entering the city center. This kind of plan has always been very strongly opposed by drivers. Now, however, the Mayor of London, Ken Livingston, has introduced just such a scheme.

Under the new system, drivers in central London between 7 a.m. and 6:30 p.m. must pay a daily fee of five pounds. This fee can be paid in advance or on the day of travel. When a driver pays, the car's number plate is entered into a computer database. Over 700 cameras have been set up around the city to film the number plates of cars and check them against the database. Drivers that do not register by the end of the day are required to pay a fine. Taxis and buses do not have to pay the fee, while cars belonging to residents of the city center are given a 90 percent discount.

Many people have criticized the system. Some say that it is unfair to people with smaller incomes, and others argue that it is too complicated to work properly. However, since it was introduced in February 2003, it has worked far better than most people expected. Indeed, if it continues to operate so successfully, we can be sure that in the future many other cities will follow London's example and introduce such fees.

LEVEL 7

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

Sea Horses

There's something odd about sea horses. They have been described as "a fish that looks like a horse, with a tail like a monkey, a snout like an anteater, and pouch like a kangaroo." But the strangeness of these tiny undersea creatures is more than skin-deep. For starters, sea horses do not have teeth or a stomach. Their prey -- shrimp, small fish, and invertebrates -- must be sucked in through the snout and digested whole. Sea horses are most peculiar, though, in the area of reproduction. Peculiar may be an understatement: at mating time, it is the male that becomes pregnant. The female plants eggs into a pouch on the male's tail, where he fertilizes them. The male then provides the unborn young with protection, nutrients, and oxygen for up to six weeks before giving birth to as many as 1,500 fully formed and independent sea horses.

Fifteen hundred sounds like a lot, but scientists estimate that an average of just two from each brood survive to maturity -- just enough to keep the population stable. Nevertheless, sea horse numbers are on the decline, partly due to degradation of habitats, but primarily because of the global trade in these creatures that has grown up in recent years. Sea horses are used in traditional medicine, as souvenirs, and as aquarium stock, and total consumption is more than 20 million per year.

The scale of the problem prompted the establishment of Project Sea horse. Launched in 1996 by Dr. Amanda Vincent, the world's foremost sea horse expert, the project takes an enlightened approach to the conservation and management of sea horse populations and their habitats. "No matter how fervent your admiration for any environment, if you want to succeed, you need everybody involved," says Vincent. Project Sea horse attempts to set up partnerships with the traditional-medicine community, aquarium operators, policy-makers, and fisheries departments. Sea horse fishers are being provided with management skills in a bid to restore wild-sea horse stocks. Under a trial program, the fishers place any pregnant males they catch in underwater cages until their young are born. The fathers are then sold, allowing the fishers to maintain their income and the sea horse population to stabilize. "If conservation isn't economically sustainable for a community," says Vincent, "it's not going to work."

Sea horses may represent the ideal vehicle for promoting new approaches to conservation. They live in some of the world's most important and most threatened habitats. But more importantly, their peculiar appearance makes them instantly recognizable, which in turn makes it easier for people to embrace their cause. In the end, it may be the oddness of sea horses that saves them from an increasingly ordinary fate: extinction.

PART 4 「書くこと」

LEVEL 1

- 1 次の単語を正確に書き写しなさい。
message / scientist / together
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。
「今日はとてもいい天気です」

LEVEL 2

- 1 次の文を正確に書き写しなさい。
Could you tell me the way to the station?
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。
「昨日横浜に買い物に行きました」

LEVEL 3

- 次の内容を英語で書きなさい。
- ・「普段は6時頃帰宅し、夕食は7時頃に家族と一緒に食べます」
 - ・「来年の夏に、熊本の叔父の家に行って、近くの海で釣りがしたい」

LEVEL 4

- 次の内容を、海外の友達に3～5文程度で英語のメールを書きなさい(制限時間10分)。
「毎日寒い日が続いている。今冬休みで、明日家族でスキーに行く予定である。もうすぐ新年を迎えるが、そちらではどんなことをして過ごすのか知りたい。」

LEVEL 5

- 次の内容を、2～3段落の英語(50～80語)で書きなさい(制限時間15分)。
- ・ホームステイの体験について、最初の不安、ホストファミリーの親切な対応、楽しい日々、学校での友人との交流、帰国時の別れの悲しさ、などを時間の流れに従って

LEVEL 6

- 次の内容を、3段落以上の英語(150語程度)で書きなさい(制限時間20分)。
- ・先週見に行った映画について、俳優の演技がすばらしく、ストーリー展開も意外性があり、せりふ回しもすぐれていて楽しめた。しかし、音楽の効果が今ひとつであった、という趣旨の感想

LEVEL 7

- 次の内容を、できるだけ多くの英語で書きなさい(制限時間30分)。
- ・草の根レベルでの有意義な国際理解と国際交流について、実体験を交えながら、あるべき姿についての提言を行いなさい

P A R T 1 「聞くこと」

LEVEL 1

次の単語を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

train / afternoon / need / computer / white

LEVEL 2

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Are you doing your homework, Ken? -- No. I'm writing a letter to my friend.

LEVEL 3

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Andy likes art. He often draws pictures of flowers, and he also likes drawing animals. Tomorrow, he's going to the zoo with his mother. He will draw the elephants there.

LEVEL 4

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Koji wanted to buy the new book by his favorite writer, so he went to the bookstore. But the book wasn't there. It was sold out. Later, Koji borrowed it from a friend at school.

LEVEL 5

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

The biggest snake in the world is the anaconda. Anacondas live in jungles in South America. Sometimes they grow as long as nine meters. They catch many kinds of animals for food. At night, they usually hide in rivers in order to hunt animals that come to drink water. Anacondas have over 70 babies at a time.

LEVEL 6

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Many people are afraid of bats. However, these animals can be very helpful to humans. For example, bats help farmers by eating a lot of insects that are harmful to fruits and vegetables. One bat can eat about 600 insects in an hour. They also spread the seeds of many useful plants. For these reasons, some people are trying to protect bats and the places where they live.

LEVEL 7

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Online Advertising

The Internet was supposed to be a marketer's dream. While advertisers spend billions of dollars annually on TV, radio, print, and billboards, they get little concrete feedback on the effectiveness of their campaign. The new medium, however, with its ability to record how many people clicked on a webpage containing an advertisement, was supposed to eliminate the uncertainties of traditional advertising.

Nevertheless, online advertising has yet to live up to expectations. Just because a million people saw a website containing a banner advertisement doesn't mean the viewers actually looked at the ad. Unlike TV, where a colorful 30-second ad fills the entire screen, users can choose to ignore the small banner advertisements on the Internet. Until advances in technology enable advertisers to grab the sole attention of Internet users, the effectiveness of online advertising will remain uncertain.

PART 2 「話すこと」

LEVEL 1

次の単語を英語で言いなさい。
「歌う」「公園」「赤い」

LEVEL 2

次の対話を完成させなさい。
"Thank you very much for your help." -- " _____"
" _____?" -- "My dog is five years old."

LEVEL 3

自分の家族のことをALTに伝えたい。次の内容を英語で言いなさい。
「5人家族で、両親と、姉が一人、弟が一人。犬を二匹飼っている」

LEVEL 4

道に迷っている状況で、次の内容を英語でたずねなさい。
「X市に行くバスに乗りたいが、一番近いバス停はどこにあるか。着くまでにどれくらい時間がかかるか」

LEVEL 5

海外旅行から戻ったときに、次の内容を友人に英語で伝えなさい。
「とても暑くて、毎日海で泳いだ。ショッピングが一番楽しかった。店員の英語が理解できてとてもうれしかった。また行きたい」

LEVEL 6

海外旅行中に、観光案内所の係員に次の内容を英語でたずねなさい。
「この町の歴史に興味があるので、そのようなことがわかる博物館に行ってみたい。できれば、公共の乗り物を体験したいがどのような手段があるか。他にもおすすめの観光スポットがあれば紹介して欲しい」

LEVEL 7

次のうちの1つについて、5分程度で英語のスピーチを行いなさい。
「昔の遊びと今の遊びの違いについて」
「自動車の利用と交通マナーについて」

PART 3 「読むこと」

LEVEL 1

次の単語を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

know / house / speak / Japanese

LEVEL 2

次の文を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

- Bob goes swimming in the sea every summer.
- Look up at the stars in the sky. They are very beautiful.

LEVEL 3

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間2分)。

Susan's Club at School

Susan comes from Canada. She is staying with Yumi and her family in Hiroshima. She came to Japan in April this year, and she will go back to Canada next March.

Susan and Yumi are in the same class at junior high school, but they are in different clubs. Yumi is in the volleyball club. She has practice from Monday to Friday and on weekends, too. But Susan only goes to her club on Monday afternoons. She is in the tea ceremony club. She goes there because she wants to learn about Japanese culture. Learning the tea ceremony is very difficult, but her teacher, Mrs. Kato, is kind. Susan likes her.

One day, Mrs. Kato videotaped their tea ceremony practice and gave the tape to Susan. Later, Susan watched the video with Yumi's family at home. Yumi's mother said, "Susan, you're very good." Susan wants to send the video to her family in Canada.

LEVEL 4

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

The Battle of the Oranges

Every year, a little town in Italy has a very interesting festival. The town is called Ivrea, and its festival is called the Carnival of Ivrea. There are many parades and parties, and people make special food, too. But the most exciting part of the festival is the Battle of the Oranges. For the last three days of the festival, teams of people throw oranges at each other in the streets of the town.

People started the Carnival of Ivrea to remember a battle that happened more than 800 years ago. In 1194, the ruler of the town was a very bad man. One day, the people of Ivrea decided to fight him. They only had stones to throw at the ruler and his soldiers, but the people fought hard and won the battle.

Now the battle is just for fun, so people don't throw stones anymore. Many teams take part in the orange battles, and each one has its own special uniform. Some teams ride on carts which are pulled by horses. The others have to walk, and they throw oranges at the teams on the carts. Thousands of visitors come to see the orange battles, and some even join a team. People who only want to watch have to wear special red hats. If they don't, everyone throws oranges at them, too.

After the festival, there are a lot of oranges to clean up. But the people of Ivrea enjoy their festival and are proud of its long and interesting history

LEVEL 5

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)

An Equal Chance

Over 120 million children in developing countries do not attend school. Most of these are girls. Moreover, almost two-thirds of the 875 million adults worldwide who are unable to read or write are female. One of the main reasons is that it is too expensive for families to send all their children to school. Since in many countries it is considered more important to educate sons than daughters, often the boys go to school while their sisters stay home to help their parents. One of the major goals of the United Nations Children's Fund (UNICEF) is to give girls in developing countries a greater chance of getting an education.

UNICEF success stories are not hard to find. Soda Fall, a young woman from Senegal in West Africa, dreamed of being able to finish school and become a teacher. Thanks to a UNICEF project known as the African Girls' Education Initiative, Soda was able to finish school, and now she is a teacher at a public school in her village. As a teacher, Soda is working to help other girls' dreams come true. Her success has encouraged her own mother to learn how to read and write. Women in Senegal like Soda are also thinking of ways to reduce the amount of household work that girls must do so that they will have more time to attend school.

When girls receive a good education, it can help the whole community. Educated women have a better chance of finding a good job, which can increase economic growth. Such women are also more likely to use their knowledge to be more active within their communities. UNICEF hopes that all children will be able to get a basic education of good quality and that they will use their skills to build a better society.

LEVEL 6

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)

Digital Witness

After a traffic accident, it is often difficult to determine exactly what happened or who was to blame. This is because people who witness an accident often describe it in different ways. In order to solve this problem, a special device has been developed that records information while a vehicle is moving. By using this information, it becomes possible to learn exactly how and why an accident occurred.

This device is actually based on the famous "black boxes" that have been used in airplanes since the 1950s. It consists of a small computer that continuously monitors the speed of the vehicle and other data. When the device senses an unusual movement, such as a sudden stop, it automatically stores the driving data. Thus, if an accident occurs, the data can later be examined to learn more about what happened.

Some devices also include a digital video camera that records the view from the driver's seat. This provides a picture of what the driver sees during an accident. The video evidence can show which person is responsible for the accident, allowing drivers to avoid costly court cases. But such video recordings are not only useful for determining the cause of an accident. They can also help people learn to drive more carefully by showing them the mistakes they have made. For these reasons, some insurance companies even give discounts for vehicles that use this type of device.

Because of their many advantages, the devices are quickly being adopted in several parts of the world. Some bus and truck companies in the United States have started to use them in their vehicles. In London, police cars are being fitted with the devices to encourage police officers to drive more safely. As this new technology becomes more common, experts predict that it will help prevent the accidents that made such devices necessary in the first place.

LEVEL 7

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

The World's First Volcano Rescue Team

Nothing can be done to change the geological principles that form volcanoes and cause their eruptions, namely the movement of plates in the earth's crust that sends molten rock rushing to the surface. And not much is known about the forces that cause volcanoes to erupt when they do. In fact, three-fourths of history's worst eruptions, including Mount St. Helens in 1980, have occurred on volcanoes that had long been inactive. Since Mount St. Helens erupted, 30,000 people have been killed and over a million left homeless by volcanic eruptions. The worst was the Nevado del Ruiz volcano in Columbia, which in 1985 sent rivers of mud and ash roaring down its sides, burying more than 25,000 people.

After Nevado del Ruiz, the U.S. Office of Foreign Disaster Assistance began the task of creating a global program to monitor potentially dangerous volcanic activity. The result was the Volcano Disaster Assistance Program (VDAP), the world's first and only rapid-response team aimed at volcanoes. Using portable early-warning instruments developed by the U.S. Geological Survey, VDAP scientists keep a watchful eye on suspicious volcanoes. Their instruments, which weigh only 70 pounds, can be placed at various locations on a volcano to report telltale signs of possible eruptions -- small earthquakes, changes in the amount of sulfur dioxide and carbon dioxide in the air, and minor variations in ground temperature. These signs are imperceptible to the human senses and might otherwise go undetected.

So far, the VDAP has been sent to 15 countries to monitor 19 volcanoes. The team has proven that it can install equipment, monitor crucial signs of an eruption, and use the data to make forecasts with reasonable accuracy -- all within a few days. In 1991, when Mount Pinatubo in the Philippines awakened from its dormancy after more than 500 years, the VDAP was called in, and their sensor equipment indicated a pending eruption. By the time the catastrophic explosion occurred two months later, many residents had been evacuated, and tens of thousands of lives were saved. However, the system is not without imperfections. On the island of Monserrat, the VDAP monitoring system predicted an eruption that failed to occur, and warning signs actually diminished. But then the volcano suddenly exploded two years later, destroying the capital city of Plymouth.

In 1994, Mexican scientists worked together with the VDAP to install Earthworm, the most sophisticated volcano-monitoring system ever. The system uses video cameras connected to the Internet and a new device that monitors "harmonic tremors" -- noises made by moving magma. The subject was enormous: Mexico's magnificent Popocatepetl, the world's most dangerous volcano. Nearly half a million people live directly in its shadow. But Earthworm came through. The teams were able to predict within hours that Popocatepetl was about to blow, and thousands were safely evacuated.

PART 4 「書くこと」

LEVEL 1

- 1 次の単語を正確に書き写しなさい。
brother / June / pretty
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。
「私の父は医者です」

LEVEL 2

- 1 次の文を正確に書き写しなさい。
I had two classes this afternoon, English and math.
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。
「きのうは朝6時半に起きました」

LEVEL 3

- 次の内容を英語で書きなさい。
- ・「私の学校には約500人の生徒がいます」
 - ・「ケイコさん、どうしてこのカメラがほしいんですか」

LEVEL 4

- 次のうちの1つについて、3～5文の英語で書きなさい(制限時間10分)。
- ・自分の趣味と、その楽しさ
 - ・好きなスポーツ、嫌いなスポーツ

LEVEL 5

- 次の内容を、2～3段落の英語(50～80語)で書きなさい(制限時間15分)。
- ・自分の学校について、場所、授業、部活動、誇りに思うこと等、海外の友人にあててメールを送る。

LEVEL 6

- 次の内容を、3段落以上の英語(150語程度)で書きなさい(制限時間20分)。
- ・現在コンピュータでできることと、将来可能になるであろうことを予測し、上手にコンピュータとつきあっていく方向性を述べる。

LEVEL 7

- 次の内容を、できるだけ多くの英語で書きなさい(制限時間30分)。
- ・体験に基づいて、芸術が与える感動について述べ、現在のあるいは将来の人間に対して持つその可能性を展望しなさい。

PART 1 「聞くこと」

LEVEL 1

次の単語を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

want / water / morning / teacher / room

LEVEL 2

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Do you like tennis, Mary? -- Yes, I do. I play tennis for two hours every day.

LEVEL 3

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Joe usually gets up late on weekends. But last Sunday, he wanted to go hiking with his friend. So he got up early in the morning.

LEVEL 4

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Good evening, parents. Thank you for coming to the school "Music Night." Tonight, students will play the piano and violin. After the concert, you can buy food and drinks at the counter. Thank you, and enjoy the music!

LEVEL 5

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Ladies and gentlemen, the 11:45 train for New York City has been canceled because of an accident here at Chicago's Union Station. Passengers who wish to travel to New York City should walk to the bus terminal outside. The next bus to New York City is scheduled to leave from the terminal at 12:15. Thank you.

LEVEL 6

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

California is known for its redwood trees. They grow in many of the large parks there. In the past, they were often used to make furniture. Redwood trees are some of the longest-living trees in the world. On average, they live to be 600 years old, but some live as long as 2,000 years. Redwoods are also the world's tallest trees.

LEVEL 7

次の文を聞いて、理解の程度を「診断表」に記入しなさい。

Emergency Call Controversy

Each year in the U.S., millions of 911 calls are made from cell phones. But while calls made from regular phones can immediately be traced to an exact address, mobile-phone calls cannot.

A new technology called Enhanced 911, or "E911," may soon remedy the situation. E911 uses computer chips and a network of satellites to pinpoint accurately a cell-phone user's longitude and latitude. The Federal Communications Commission has ruled that all cell phones be equipped with the technology by 2006.

E911 would offer a variety of other services as well. A motorist could use the system to find the closest gas station, for instance. But the technology worries critics. They believe that E911 technology could be used to secretly determine a person's location, as in the case of an employer tracking the activity of an employee. Ultimately, they claim, there would be little to prevent the monitoring of unsuspecting cell-phone users.

PART 2 「話すこと」

LEVEL 1

次の単語を英語で言いなさい。

「冬」「帽子」「古い」

LEVEL 2

次の対話を完成させなさい。

"What time do you go to school?" -- "_____."

"_____?" -- "The book is 1,000 yen."

LEVEL 3

自分の学校生活について、次のうちの2つ以上を英語で伝えなさい。

「学校(授業)は8時半に始まる」「毎日6教科勉強する」「放課後は毎日部活動をする」

「好きな教科は体育(数学、英語)」「先生はみんな親切」「友達と楽しく遊ぶ」

LEVEL 4

自分の友達について、以下の内容を留学生の友人に伝えなさい。

「毎朝友人二人と歩いて学校に来る。同じクラスで、三人ともテニス部。休日にはみんなで買い物に出かける」

LEVEL 5

次の内容を、ALTに伝えなさい。

「次の日曜日に、音楽部のコンサートがある。開演は午後3時で、入場料は300円。是非来て、自分たちの歌を楽しんで欲しい」

LEVEL 6

交換留学生としてやってきた海外の学校の先生に、次の内容を英語で伝えなさい。

「数学は得意だが、理科がやや苦手。運動は好きなので、体育の時間には得意なサッカーのゲームをやってほしい。放課後には演劇をやりたいが、どうすれば活動に参加できるのか知りたい」

LEVEL 7

次のうちの1つについて、5分程度で英語のスピーチを行いなさい。

「雪国に暮らすことの楽しさや利点について」

「日常の中で、ことばが持つ力について」

PART 3 「読むこと」

LEVEL 1

次の単語を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

flower / window / seven / visit

LEVEL 2

次の文を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい。

- I have two Australian friends. Their names are Bill and Nancy.
- My mother is now cooking breakfast in the kitchen.

LEVEL 3

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間2分)。

The Lion Dance

Last February, Jane visited Japan with her family. On the second day of the trip, they went to Yokohama because Jane's father wanted to see Chinatown. There were many restaurants and interesting stores in Chinatown. They enjoyed looking around there, and Jane bought some presents for her friends at school.

When she was at a gift shop, she heard some music and saw a lot of people in the street. "What's that?" she asked the shopkeeper. "It's the Lion Dance," he said.

Jane and the shopkeeper went out to watch the dance. Jane saw two people in a lion costume. "There are two dancers in the lion," said the shopkeeper. It was very colorful. There were also three musicians with the lion, and they were playing loud music. The shopkeeper said, "The lion is colorful and the music is loud because monsters don't like those things." "That's interesting," said Jane.

LEVEL 4

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

A Special Day in Alice Springs

Australia has many famous animals such as koalas and kangaroos. But not many people know that there are also camels in Australia. A town called Alice Springs even has a special event, "The Camel Cup," every July. At this event, people ride camels in races.

The first camels were brought to Australia in 1840 from Asia. Camels don't need to drink a lot of water, so they were useful in the dry Australian desert. They were used to carry the mail, food, and other things to small towns like Alice Springs. Between 1860 and 1907, about 12,000 camels were brought to Australia. But in the 1920s, people started using trucks and trains to carry things. Camels weren't needed anymore, so they were set free in the desert.

For many years, nobody tried to use the camels. Then, in 1970, two men in Alice Springs had a camel race for fun. People enjoyed watching the race, so they decided to do it every year. Now, many people ride camels in the Camel Cup. The races are always exciting to watch because nobody knows what will happen! Some of the camels just sit down, some don't move, and others run the wrong way. Riding camels is hard work, but the winners can get interesting prizes.

There are other attractions on the day of the races, too, and people can also buy food and drinks. The people of Alice Springs really enjoy the Camel Cup, and the money from this event is given to volunteer groups in the town. Camels are becoming an important part of life in the Australian desert once again.

LEVEL 5

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間3分)。

Saving the Kiwi

Many people who heard the word "kiwi" will think first of the kiwi fruit. For New Zealanders, however, "kiwi" is the name of their national bird. The kiwi is an important symbol of the country and a very unusual bird. About the size of a chicken, the kiwi has wings but cannot fly, and it is active mainly at night. The bird's eggs are also surprisingly large -- almost one-fourth the size of the kiwi itself. Unfortunately, this unique bird has been facing problems in recent years.

There used to be millions of kiwis living in New Zealand, but today there are only about 85,000 left. The main reason for this decrease is that people introduced new animals such as dogs and ferrets to the country. These animals hunt the bird and eat their eggs. Kiwis also face danger from human beings themselves. Many kiwis are killed by cars every year, and many of the forests where they live have been cut down to make room for farms and houses.

In order to stop the kiwi population from decreasing even further, the Kiwi Recovery Program was started in 1991. Researchers in this program are working to monitor the kiwis and create safe areas where the birds can live. Young kiwis are taken from the wild to be raised, and are later returned to safe locations on small islands off the coast of New Zealand. Educating people about kiwis is another important part of the Kiwi Recovery Program. For example, pet owners can help by keeping their animals away from areas where kiwis are known to live. The researchers hope that these continued efforts will help make sure that New Zealand does not lose its unique symbol.

LEVEL 6

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

Biting Back

Anyone who has ever been bitten by a mosquito knows that these insects can make life very unpleasant. But mosquitoes, which are found all over the world, are more than just annoying. Many types of mosquitoes carry serious diseases such as malaria and yellow fever. Every year, over 3 million people worldwide die from diseases caused by mosquito bites, and the problem is getting worse in many countries.

Currently, the most popular method of reducing mosquito populations is to use chemicals that kill mosquito larvae in the pools of water where they live. This approach, however, has met with some difficulties. Some people are worried that the chemicals may cause damage to the environment. Another problem is that there are over 3,000 types of mosquitoes, and some of these are no longer affected by the most widely used chemicals.

Recently, though, researchers at the University of Florida have developed a new way to deal with the mosquito problem. The researchers found a hormone that prevents mosquitoes from digesting their food. Although the mosquitoes can eat, they cannot gain energy from their food. The researchers realized that if mosquitoes absorbed this hormone in large amounts, it would cause them to die of hunger. They decided that the best way to deliver the hormone would be to use yeast, one of the favorite foods of mosquito larvae. They succeeded in creating a type of yeast that produces the hormone naturally. When this yeast is put into ponds and other places where mosquitoes lay eggs, the mosquito larvae eat the yeast and die before they can become adults. And with fewer adult mosquitoes, fewer people get bitten.

In laboratory tests, the yeast was 100 percent effective in getting rid of mosquito larvae. Moreover, unlike the chemicals currently being used, the new yeast is effective against all types of mosquitoes. And the yeast is so environmentally safe that it can be put into drinking water with no harmful effects. The researchers who have developed the yeast expect that it will soon become commercially available. When it does, the fight against mosquitoes may become easier for all of us.

LEVEL 7

次の文章を読んで、理解度を「診断表」に記入しなさい(制限時間4分)。

Forgotten Fruits

When you hear the word "extinct," you may think of such creatures as dinosaurs and dodo birds. But did you know that the majority of the fruits, vegetables, and other crops our grandparents took for granted are now extinct? Take the Ansault pear, for instance. The succulent, buttery taste of the Ansault was described by agriculturalist U. P. Hedrick as "better than any other pear," with a "rich, sweet flavor and distinct but delicate perfume." The Ansault pear has now joined the dodo bird, and it's not the only fruit or vegetable that no one will ever taste again. There were 578 types of beans available in 1903, while today there are only 32. In 1973, there were 46 varieties of asparagus, but now there is only one.

Despite the direct impact this has on our lives, most people are unaware of such extinctions, feeling that the choice of fruits and vegetables on today's supermarket shelves is wide enough. And to think that, from the dawn of farming thousands of years ago, farmers continuously made efforts to increase crop diversity. Early Peruvian farmers, for example, noticed color mutations in the cotton grown in their fields, so they bred selected cotton types to produce the vibrant colors they desired for making attractive cloth. Later, migrating peoples took their seeds with them when they relocated to vastly different geographic areas, and the different growing conditions would naturally increase crop diversity as crops reacted new environments. Early in the twentieth century, farmers grew different kinds of crops for another reason: if pests or disease successfully attacked one variety, other varieties often proved to be more resistant.

All this changed with the advent of agribusiness after World War II. Fruits and vegetables were developed to meet the needs of huge new farms. Now farmers often grow only one variety of a given crop, a variety designed for high-yield growth and the ability to survive mechanical harvesting and long-distance shipping.

Many of these crops are no longer self-reliant -- they require huge amounts of fertilizer, pesticide, and insecticide for their survival, and some can no longer reproduce naturally. The reduction of variety and the creation of crops completely dependent on modern farming technology increase crop vulnerability to stress and disease.

One early example of what can happen with the homogenization of crops is the potato famine of Ireland. All potatoes grown in Europe in the 1840s descended from a handful of potatoes brought from South America, so they has a limited gene pool. They lacked resistance to the potato blight that struck Europe in 1845. The resulting famine in Ireland killed well over a million people. Potatoes in Europe eventually enjoyed a comeback when other blight-resistant varieties from Mexico and South America were introduced. Imagine what would have happened if those other varieties had no longer existed.

PART 4 「書くこと」

LEVEL 1

- 1 次の単語を正確に書き写しなさい。
afternoon / thank / library
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。
「(あなたは)テニスが好きですか」

LEVEL 2

- 1 次の文を正確に書き写しなさい。
Yuki washes the dishes after dinner every day.
- 2 次の日本語の内容を英語で書きなさい。
「友達と遊ぶのが好きです」

LEVEL 3

- 次の内容を英語で書きなさい。
- ・「どの季節が一番好きですか」「春です。あなたは？」
 - ・「駅の近くに本屋はありますか」「すみません、わかりません」

LEVEL 4

- 次のうちの1つについて、3～5文の英語で書きなさい(制限時間10分)。
- ・日本国内でどこに行きたいか、その理由
 - ・何語を身に付けたいか、その理由

LEVEL 5

- 次の内容を、2～3段落の英語(50～80語)で書きなさい(制限時間15分)。
- ・日本の食べ物を海外の友人に紹介しなさい。特定の1つについて、名称、製法、味、見た目(色など)を伝える。

LEVEL 6

- 次の内容を、3段落以上の英語(150語程度)で書きなさい(制限時間20分)。
- ・自分の将来の夢と、いつ頃からなぜその夢を抱くようになったかを述べ、実現のために今努力していることを伝える。

LEVEL 7

- 次の内容を、できるだけ多くの英語で書きなさい(制限時間30分)。
- ・実例を交えながら、自然災害の驚異について触れ、個人としての日常の備えや心構え、及び社会全体としての対策等を論じなさい。